五所川原市埋蔵文化財調査報告第27集

五月女萢遺跡

～市内遺跡発掘調査事業における埋蔵文化財発掘調査～

五所川原市教育委員会

序　文

今年度、五所川原市・市浦地区において、五月女萢遺跡の範囲確認調査を実施しました。この間、文化庁記念物課や青森県教育庁文化財保護課、各関係機関の諸先生をはじめ、現地調査を指導していただきました村越潔、川村眞一の各先生には、わざわざお越しいただき、ご指導・ご助言を賜り、心よりお礼申し上げます。また、調査を進めるにあたって土地所有者の工藤眞之氏をはじめ、発掘調査に参加された多くの地域住民の皆様のご支援、ご協力を賜り、衷心より厚く感謝申し上げます。

さて、調査によって、五月女萢遺跡が縄文時代晩期を通じて十三湖北岸地域の拠点的な集落であったことが明らかとなってきました。遺跡が砂丘に覆われているため、遺跡の残りも非常に良く、縄文時代のゴミ捨て場とみられる遺物包含層が広く残されていることが判明し、縄文人の生活の一端をうかがい知ることができました。

縄文時代晩期は亀ヶ岡文化として世界的にも広く知られているように、この時期を代表する亀ヶ岡遺跡が約20㎞の隣接した距離にあります。五月女萢遺跡は、この亀ヶ岡遺跡に匹敵するほどの文化をもっていたと考えられ、精巧な土器等も出土しております。五月女萢遺跡は十三湖周辺地域における縄文時代晩期の社会を理解する上で非常に貴重な遺跡であると考えております。

最後になりましたが、本書が埋蔵文化財の保護と活用に役立ち、地域の歴史教材として利用していただければ、ありがたく存じます。

今後ともより一層の地域の歴史解明に努力していく所存でございますので、関係機関、諸先生方には一層のご助言、ご叱正を賜りますようお願い致しまして刊行の挨拶といたします。

平成18年３月

五所川原市教育委員会
教育長　髙　松　隆　三

例　言

1．本書は青森県五所川原市相内545、546-1に所在する五月女萢遺跡の範囲確認調査報告書である。

2．調査は文化庁記念物課、青森県教育庁文化財保護課の指導協力のもと、市内遺跡発掘調査事業費（国庫及び県費補助金）のなかで実施した。なお、調査は五所川原市教育委員会生涯学習課十三湊発掘調査室が担当し、平成17年9月1日～平成17年10月31日にかけて実施した。

3．遺物の復元・実測、図面の整理・製図は榊原滋高・長利豪美（十三湊発掘調査室）が担当し、発掘整理作業員が補助した。

4．本文の執筆は榊原滋高（十三湊発掘調査室）が行ったほか、地質学調査の成果については川村眞一氏に玉稿をいただいた。また、動物遺存体の鑑定は五所川原市教育委員会生涯学習課の藤原弘明氏が担当した。記してお礼申し上げます。なお、記述等に誤りがあればすべて当方の責任である。

5．石器の石材鑑定は肉眼観察による。

6．発掘調査から本書作成に際しては、大勢の方からご教示・ご協力を頂いた。特に地権者である工藤眞之氏には深くお礼申し上げる。また、調査や報告書作成において、ご指導・ご助言を賜った方々のお名前を記して感謝申し上げる次第です（順不同・敬称略）。
村越　潔、川村眞一、市川金丸、藤沼邦彦、関根達人、三浦圭介、鈴木和子、中嶋友文、佐藤　仁、佐野　忠、工藤　大、工藤眞之、駒田　透

7．出土遺物・記録類は五所川原市教育委員会生涯学習課十三湊発掘調査室で保管している。

調査要項

1．調査目的

市内遺跡発掘調査事業に伴う五月女萢遺跡の範囲確認調査を行う。五月女萢遺跡の範囲・時期・残存状況など遺跡の実態を把握する。

2．調査期間　平成17年９月１日～平成17年10月31日の約２ヶ月

3．発掘調査の所在地

青森県五所川原市相内545、546-１

4．調査面積／調査対象面積

443.3㎡／40,334㎡

5．調査担当機関　五所川原市教育委員会

6．調査組織

調査指導員　村越　潔　弘前大学名誉教授（考古学）
　　川村眞一　日本地学教育学会会員（地質学）

事務局

五所川原市教育委員会生涯学習課文化財保護係および十三湊発掘調査室
髙松隆三（教育長）、葛西　皓（教育部長）、中村　健（生涯学習課長）、盛　重人（課長補佐）、藤原弘明・小笠原誠（文化財保護係主任）
浜田和幸（十三湊発掘調査室長）、近藤昌浩・榊原滋高（主査）、長利豪美（主事）

発掘調査作業員

伊藤美枝子、植野勇賢、葛西節子、工藤慶子、工藤輝美、今由里子、成田正行、成田ヨシエ、三和平作、秋田谷智美、秋田谷久、瓜田弘子、奈良玲子、成田英恵、成田涼子、藤本昌子、白川悦代、武田京子、三浦　力（以上、19名）

整理作業員

秋田谷智美、伊藤美枝子、工藤慶子、工藤輝美、今由里子、齊藤國良、白川悦代、奈良玲子、成田正行、成田ヨシエ、平田　崇、三和平作（以上、12名）

目　次

序　文
例　言
調査要項
目　次

第Ⅰ章　調査の概要

1．遺跡の立地と環境 …… 5
2．調査に至る経緯 …… 8
3．調査の経過と方法 …… 12

第Ⅱ章　調査の成果

1．土層の層序 …… 14
2．出土遺物について …… 19
3．土器の分類について …… 19
4．調査地区の概要 …… 21

第Ⅲ章　まとめ

1．立地と環境、地形と層位 …… 27
2．遺跡の時期 …… 27
3．出土遺物 …… 28
4．遺跡の概要、範囲と性格 …… 28

付章　五月女萢遺跡の地学的見解（川村眞一） …… 89

五月女萢遺跡　土器観察表 …… 98
五月女萢遺跡　石器観察表 …… 105

写真図版
（遺構写真・写真図版１～６） …… 108
（遺物写真・写真図版７～31） …… 114
報告書抄録 …… 139

第Ⅰ章　調査の概要

1．遺跡の立地と環境

五月女萢遺跡は十三湖北岸の相内集落西側に位置する。その相内集落は四ツ滝山（標高669m）や木無岳（標高587）といった津軽山地の山々が南西方向へのびる洪積台地の西縁に位置し、南東の相内川、北の唐川に挟まれている。北の唐川の流れは本来、西側の日本海へ向かって注いでいたものとみられるが、現在は唐川の流量も少なく南方向の低地帯へ流路を変え、十三湖北岸に注いでいる（以下、「唐川水路」と呼称する）。この唐川水路は別名で「長谷川水戸口」とも呼ばれ、南北１㎞にわたって続いている。「水戸口」とは岩木川水系の水が十三湖に溜り、日本海へ排水される出口のことである。長谷川水戸口は明治３年に当時、菰槌村長の長谷川清次郎が私財を提供し、藩知事の津軽承昭の許可を得て掘削した水戸口である。この水戸口は結局、通水に失敗したが、反面では大凶作による領民の救済に役立った公共事業の役目を果たしたと言われている〔岩崎繁芳2005〕。

さて、遺跡は東側に相内集落、西側に唐川水路が位置しており、両者に挟まれた場所にある。唐川水路に沿った一帯は低地帯となっており、唐川水路の両側東西800m、南北2.5㎞にわたって、「五月女萢原」と呼ばれる黒松による防風保安林（国有林）が広がっている。遺跡が位置する場所は同じく黒松による保安林であったが、民有林であり五月女萢原の範囲からはわずかに離れた隣接地である。本来であれば地名を採って相内遺跡とするべきであったが、隣接地の五月女萢原と同じ環境であることが考慮されたのであろう。

さて、次に「五月女萢原」或いは「五月女萢遺跡」という遺跡名称の由来について述べておきたい。これまでに触れたとおり、遺跡周辺は唐川水路に沿った防風林が展開する低湿地の環境にある。そこには遺跡名称の由来となったアヤメ科の植物（アヤメ・カキツバタ・ハナショウブ）が広く生育している。津軽地域ではアヤメのことを「そとめ」或いは「そどめ」と方言で呼称される〔青森県史編さん自然部会2003〕。言うまでもなく、「そとめ」の漢字表記は「早乙女」で田植えをする女性という意味をもつが、同じ意味の漢字表記をする「五月女」が当てられたとみられる。五月女萢遺跡とは「アヤメ科の植物が咲く低湿地の遺跡」という意味であり、まさに周辺環境に相応しい遺跡名といえる。

また、本遺跡から日本海の海岸線までの距離が約1.1㎞と間近な距離であり、海岸に面した季節風の影響を受けやすい環境にある。その日本海に面した一帯は、「七里長浜」と呼ばれる海岸砂丘が展開している。津軽平野内陸部の土砂が岩木川による営力によって日本海に運ばれ、海底に堆積した土砂が沿岸流によって海岸線に堆積したものである。その後、北西の季節風によって内陸部へと再堆積し、五月女萢遺跡周辺の環境をつくりだした。特にこの地域は海岸線に直交した縦列砂丘が発達しており、五月女萢遺跡も同様な砂丘列が認められる。

五月女萢遺跡が立地する十三湖北岸の砂丘低地帯は縄文晩期には海や山、十三湖の幸に恵まれた非常に暮らしやすい環境であったとみられる。また、岩木川を通じた津軽平野内陸部に所在する集落間との交流や交易活動も想定できる。また、外海である日本海に接していることか

ら、日本海を通じた活発な交流や交易が想定できるし、特に文化的にも繋がりの深い津軽海峡を越えた道南地域との関係が重要な視点となってくるであろう。まさに十三湖北岸地域は交通上の要衝・結節点に位置していると言える。

また、五月女萢遺跡から南へ約20kmの屏風山砂丘東側の台地上には縄文時代晩期を代表する亀ヶ岡遺跡が隣接している。今後、五月女萢遺跡の調査が進めば、亀ヶ岡遺跡など周辺遺跡との対比が可能となり、縄文晩期の社会を研究・解明する上でますますこの地域が重要になってくるであろう。

第1図　五所川原市（市浦地区）・十三湖周辺の遺跡位置図

第1表　五所川原市・市浦地区の遺跡一覧表

番号	遺跡名	時　代	種　別	番号	遺跡名	時　代	種　別
1	古館遺跡	平安・中世	館跡	11	山王坊遺跡	中世	宗教遺跡
2	磯松遺跡	中世・近世	散布地	12	笹畑貝塚	縄文（前・中期）	貝塚・集落
3	磯松砂山遺跡	縄文・中世・近世	散布地	13	赤坂遺跡	平安	集落
4	唐川（3）遺跡	縄文・平安	集落	14	ナガレ山遺跡	平安	散布地
5	唐川（1）遺跡	平安	集落	15	中島遺跡	奈良	散布地
6	唐川（2）遺跡	平安	集落	16	実取（2）遺跡	平安	集落
7	唐川城跡	平安・中世	館跡	17	オセドウ貝塚	縄文（前・中期）・平安・中世	貝塚・集落
8	五月女萢遺跡	縄文（後期末～晩期）・古代	散布地	18	福島城跡	平安・中世	館跡
9	岩井・大沼遺跡	縄文（晩期末）	散布地	19	実取（1）遺跡	平安	散布地
10	二ツ沼遺跡	縄文・平安・中世	集落	20	十三湊遺跡	平安・中世・近世	集落

2．調査に至る経緯

五月女萢遺跡が所在する十三湖北岸の砂丘低地帯は、津軽西海岸に面する屏風山砂丘帯と同じく土木工事等に利用される土砂が頻繁に採取されてきた。その土砂は川砂と違って塩分を含むため、洗浄して利用されているようである。そのため以前から土砂採取工事が盛んな場所であり、砂丘下に眠る遺跡の破壊が常に懸念されてきた地域である。ここではまず、過去の調査を振り返って開発行為と遺跡破壊の実態を紹介し、今回の調査に至る経緯を述べる。

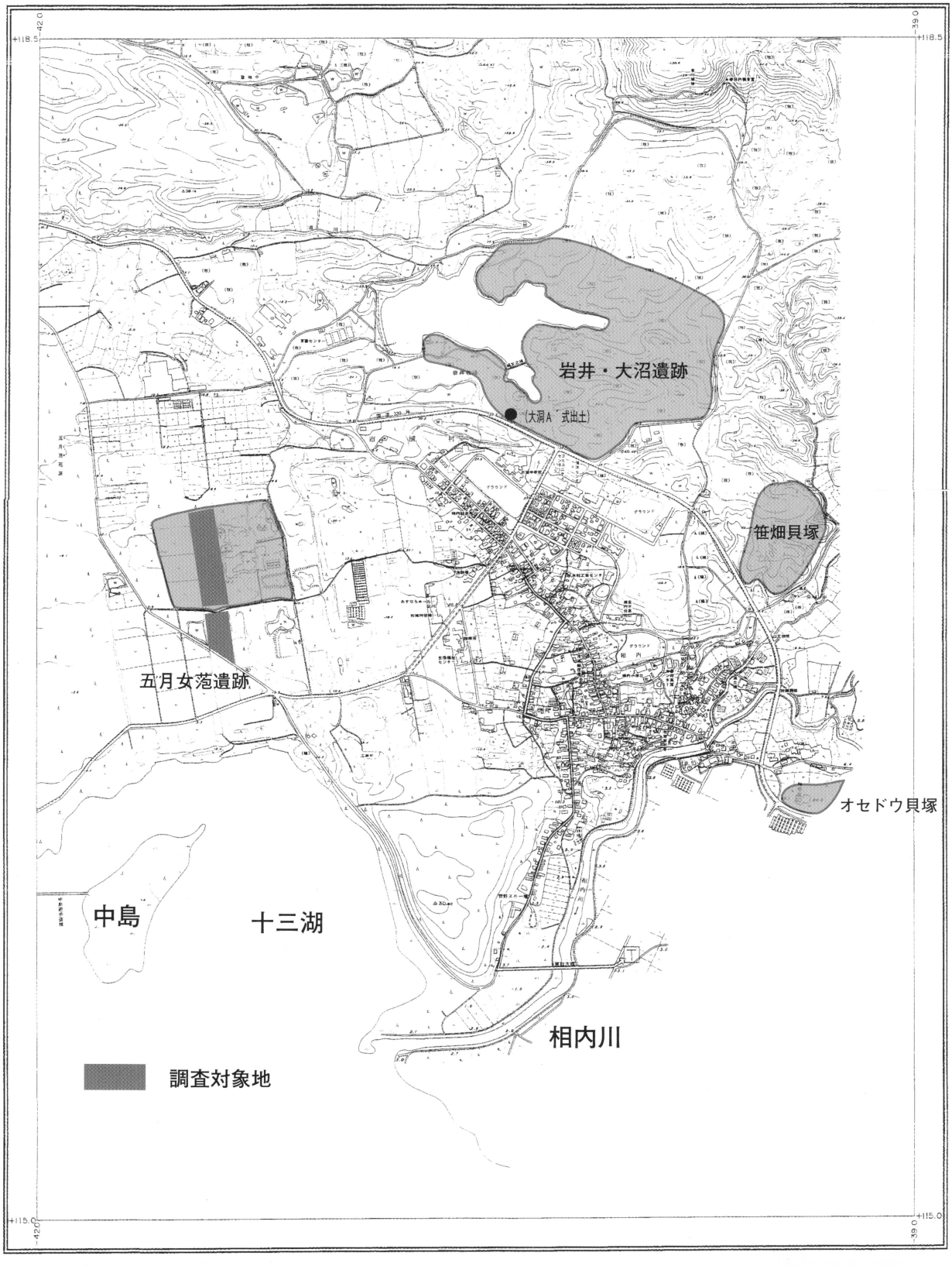
十三湖北岸地域の砂丘低地帯は、昭和27年3月1日の自作農創設特別措置法第41条の規定によって政府が民間に土地を売り払うようになったため、開発が序々に進められていった。ちなみに五月女萢遺跡が所在する地番は昭和34年に相内農業協同組合に売り払われ、現在は個人が所有している。

五月女萢遺跡はかつて昭和56年（1981）８月４～16日にかけて新谷雄三氏を調査担当者に市浦村教委委員会によって発掘調査が行われ、昭和58年3月には報告書が刊行されている（以下、「昭和58年報告」と呼称する。）〔市浦村教育委員会　1983〕。調査地点の地番は青森県五所川原市（旧市浦村）相内545番地である。地目は原野で当時は保安林となっていた。そのため調査に際しては文化財保護法に従って青森県教育委員会（注１）を通じて文化庁長官へ発掘調査に伴う書類申請を行ったほか、保安林内であったために北地方農林事務所に保安林内作業許可申請を別に提出し調査に臨んでいる。その際、発掘調査を行う理由・目的として挙げられた点は次の通りである。それは「開田事業の影響によって現地には土器や石器を含む遺物包含層が露出しており、また、盗掘が頻繁に横行していた状況でもあり、このまま放置しておけば遺跡が消滅してしまう可能性が危惧されたために発掘調査を実施する。」という内容のものであった。「開田事業の影響」とされた点について、土地台帳によると調査地点の西側に隣接する土地、つまり相内554番地或いは相内553番地の土地が昭和50年9月に地目が原野から田に変更申請されており、この頃、土地改良・開墾整地によって砂丘砂が削り取られ、土器や石器類が出土したために遺跡の所在が知られるようになったとみられる。しかし、その後の文化財行政の対応のまずさから、結果として盗掘が頻繁に行われるようになってしまったため、遺物包含層が露出する相内545番地の西縁部分を発掘調査したようである。なお、昭和58年報告では調査地点の正確な平面図や実測図が記載されておらず、さらに５万分の１の地図に示された調査地点も明らかに誤っていることが判明しており、基礎資料となるべきはずの発掘調査報告書に不備が多く苦慮していたところであった。しかし、昭和58年報告の中で五月女萢遺跡の地学的調査を行った川村眞一氏の論考「遺跡周辺の地学的環境」によって調査地点がある程度推測することができた。また、今回の調査で改めて川村眞一氏に地学的な見地による現地指導を頂き、新たな知見を得ることができただけでなく、過去の正確な調査地点もようやく明らかになった次第である。結果として昭和56年の調査地点は相内554番地と相内545番地の間に位置していたことがわかった。なお、今回の調査によって、新たに得られた地学的知見については付章の川村眞一氏の論考を参照していただきたい。

さて、次に今回の調査に至る経緯について述べる。先に触れたとおり、本遺跡が所在する相内545・546-1番地は保安林であったが、平成15年２月16日付けで青森県知事宛てに保安林解除申請書が提出されている。その後、平成15年3月26日付けで保安林の指定解除予定の通知があり、森林法第三十条の二第一項の規定により青森県報第2152号の青森県告示第百九十四号に告示されている。さらに、平成15年５月14日付けで保安林の指定解除の通知があり、森林法第二十六条の二第一項の規定により保安林を解除するため、同法第三十三条第六項において準用する同条第一項の規定をもって青森県報第2152号の青森県告示第三百五十六号に告示されるに至った。このように保安林に守られて唯一残された遺跡部分であったが、保安林解除によって土砂採取等による開発行為の可能性がにわかに高まってきた。五月女萢遺跡は砂丘に覆われているため、遺跡の範囲や実態が明らかでなく、盗掘も頻繁に行われてきた経緯もあって、遺跡の範囲や残存状況など正確に遺跡の実態を把握する状況に迫られていた。

また、先にも触れたとおり、昭和56年調査では大量の土器・石器類が出土し、縄文時代晩期を中心とした遺跡であることが判明していたが、昭和58年報告を詳細にみても、実際にどこを発掘調査したのか、或いは詳細な測量図・地籍図・平面図といったものがなく、現況では過去の調査地点さえ不明となっており、遺跡の範囲がどこまでを示すのか全く明らかになっていない状況であった。さらに周囲はすでに土砂採取や開墾によって、大きく地形が変化しており、文化財行政を守る立場として早急に対応する必要があった。そこで、市内遺跡発掘調査事業を利用して、遺跡の範囲確認調査を実施することとなった。

（注１）昭和58年報告で示された調査地点の地番は相内454番地となっているが、相内545番地の誤りである。



第2図　五月女萢遺跡と周辺の縄文遺跡

第3図　五月女萢遺跡の調査地点と周辺の地籍図

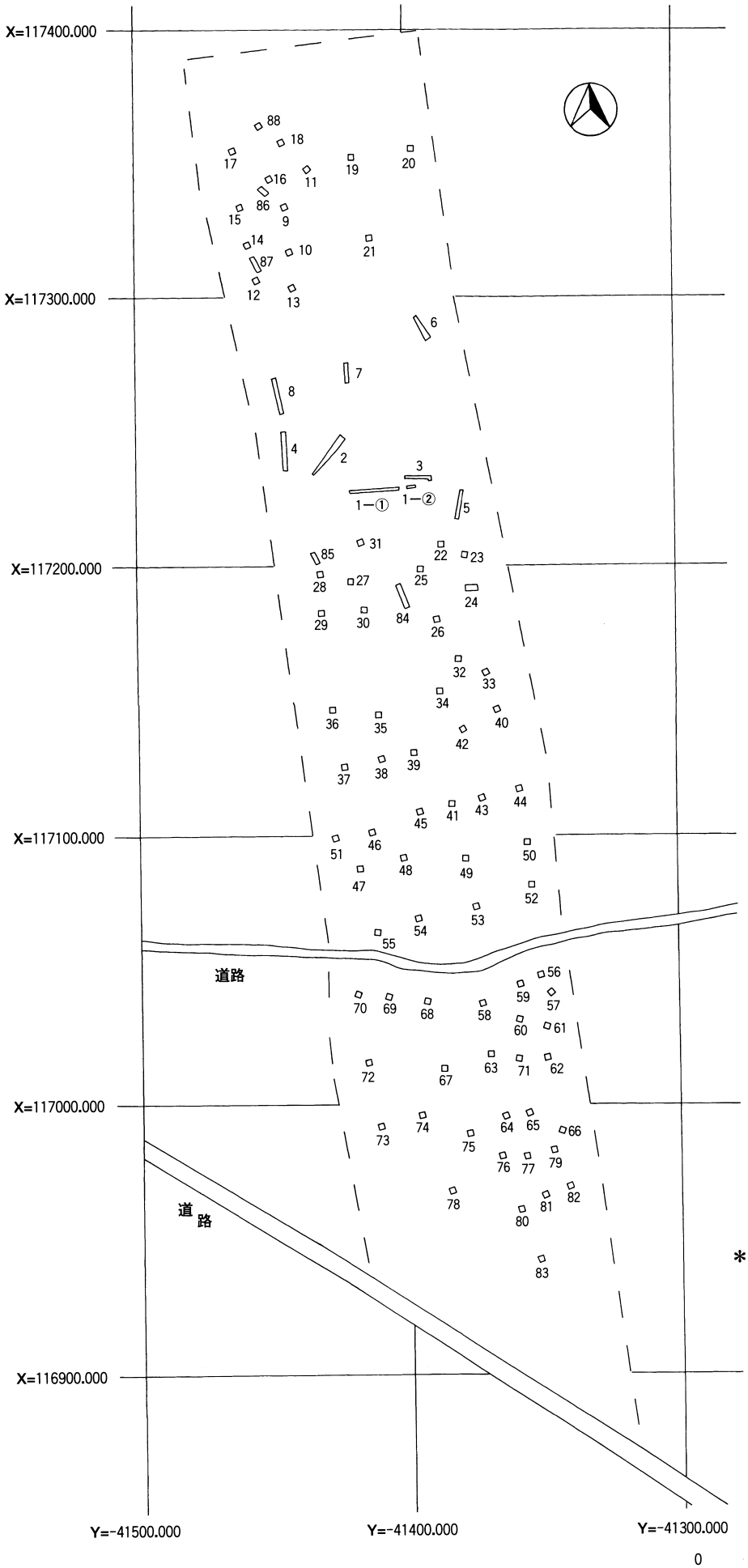
（※数字は五所川原市相内の地番を示す。）

3．調査の経過と方法

調査は平成17年９月１日～平成17年10月31日の約２ヶ月かけて実施した。調査対象面積は相内545番地の28,243㎡、相内546-1番地の12,091㎡で合計40,334㎡である。対象面積が広く、限られた予算内で効率の良い、成果が求められる調査を行う必要があった。

調査の経過と方法は次のとおりである。

まず、９月１日に器材の搬入を行う。２日から調査区内の刈り払いを行った。調査区は以前保安林であったため、黒松やカシワの木々が深く生い茂っており、まず任意に設定したトレンチ区の周辺や通路を確保する必要があった。６日には市浦総合支所内に設置してある国土座標をトータルステーションによって調査地区まで座標移動を行った。その後は調査区内に任意に国土座標を設置し、順次トレンチ区の位置をトータルステーションで測定していった。７日には北側地区において盗掘坑と思われる穴が数箇所確認され、土器片が表採できたので、１・２トレンチを任意に設定し掘り下げていった。１・２トレンチでは表土から２～2.5m下の深さまで重機による盗掘・カクランを受けていることが判明し、廃土からは多量の縄文土器や石器・剥片類が出土している。12日には４・５トレンチを設定し掘削を行った結果、遺物を包含する黒色土層を確認した。以後、順次トレンチを設定し、調査を行っている。それは遺物を包含する黒色土層を確認する調査であり、周辺地形を考慮して、設定していった。20日には６トレンチを設置。21日には７・８トレンチを設置。28日には９～11トレンチを設置。29日には12から21トレンチを設置。30日には22～26トレンチを設置。10月３日には27～31トレンチを設置及び南側地区の刈り払いを開始する。４日には32～40トレンチを設置。７日には41～55トレンチを設置。12日には56～62トレンチを設置。12日には63～75トレンチを設置。18日には76～83トレンチを設置。また、24トレンチを拡張し、ヤマトシジミを多量に含む貝層ブロックを検出する。さらに遺物包含層を含む黒色土層が確認された北側地区の地形測量図の作成を開始する。19日には黒色土層の範囲確認のため、84・85トレンチを設置。20日には86～88トレンチを設置。なお、こうしたトレンチ調査は検出面の精査や写真撮影、土層断面図の作成を行っている。また、トレンチ調査区によっては必要に応じて層位的に遺物を取り上げている。その際には個別図の作成、地点遺物の取り上げ作業を行い、適宜出土状況に合わせて調査を行っている。31日にはトレンチ区の埋め戻し作業をすべて終了し、器材の撤収を行った。



＊数字はトレンチ番号を示す。

0　100m

第4図　五月女萢遺跡の調査位置図

第Ⅱ章　調査の成果

1．土層の層序

遺跡の基本層序については昭和58年報告に合わせて捉えることができた。以下のとおりである。

Ⅰａ層：表土の黒褐色砂層。現在、生育する黒松やカシワの木による腐植土。

Ⅰｂ層：灰白色砂層。新期砂丘砂に対応する。

Ⅱ層：黒色土層。なお、トレンチ区によっては分層（Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅱｃ、…と細分した。）され、黒褐色砂層や暗褐色砂層或いは黒色シルト土となる箇所もあった。これらは旧期クロスナ層に対応する。さらに遺物はすべてこの層位から出土しており、土器型式から少なくとも縄文後期末葉（十腰内Ｖ式）から晩期後葉（大洞Ａ式）の時期に堆積したものとみられる。なお、黒色土層は調査区北側地区だけ確認することができ、遺跡の範囲を特定する鍵層となっている。

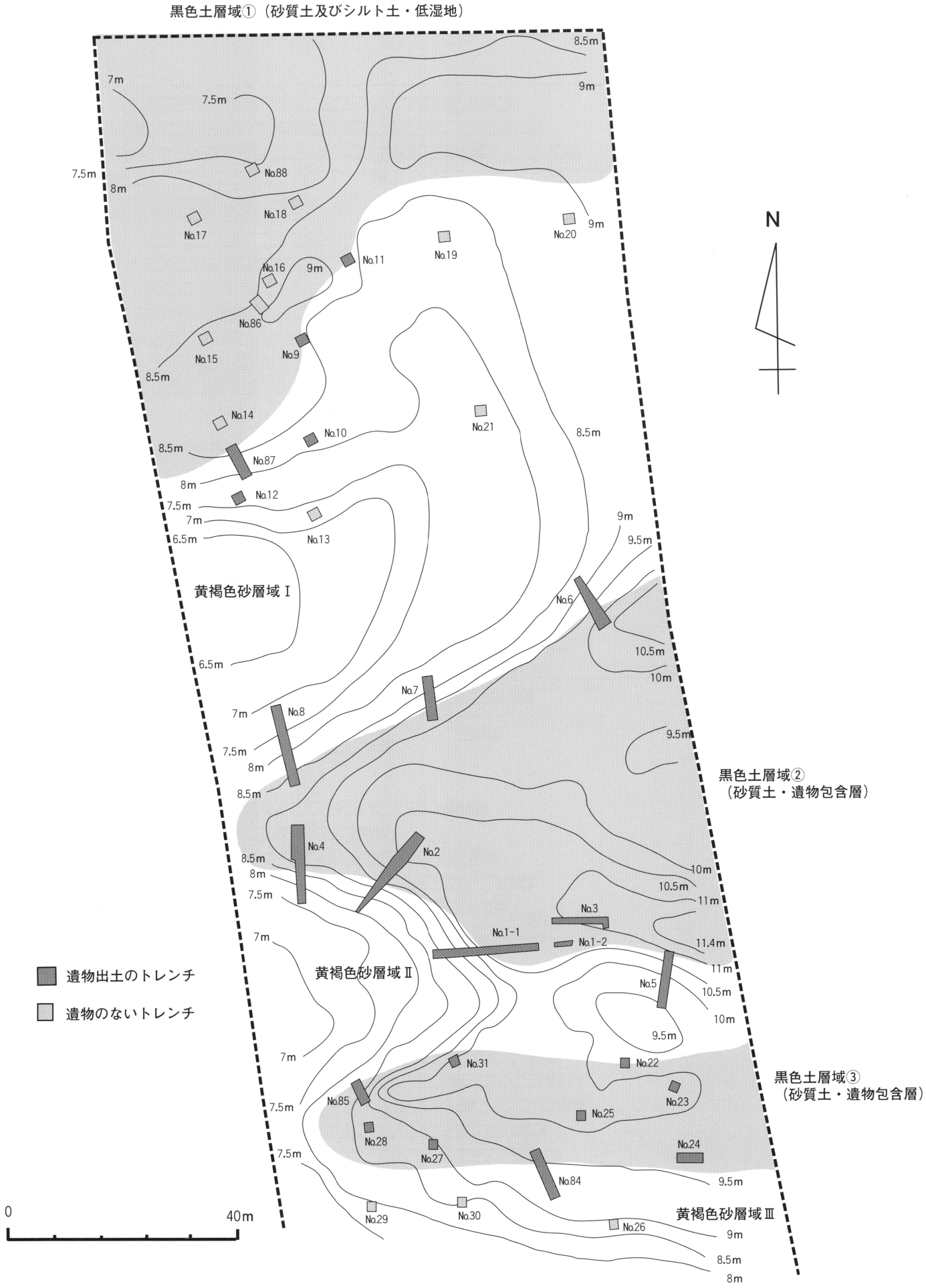
Ⅲ層：黄褐色砂層。旧期砂丘砂に対応する。

なお、昭和58年報告書と大きく異なる点は、これまでⅠｂ層とⅢ層をまとめて新期砂丘砂として扱っていたが、今回、Ⅱ層を旧期クロスナ層としたことで、上層のⅠｂ層を新期砂丘砂、Ⅲ層を旧期砂丘砂として変更している。遺跡の基盤層となる旧期砂丘砂は縄文前期～中期頃までに形成されたとみられる。また、新期砂丘砂の間に新期クロスナ層が確認されないので、分層できなかった。新期砂丘砂は年代的に弥生時代以降から近現代までの砂丘砂と考えておく。

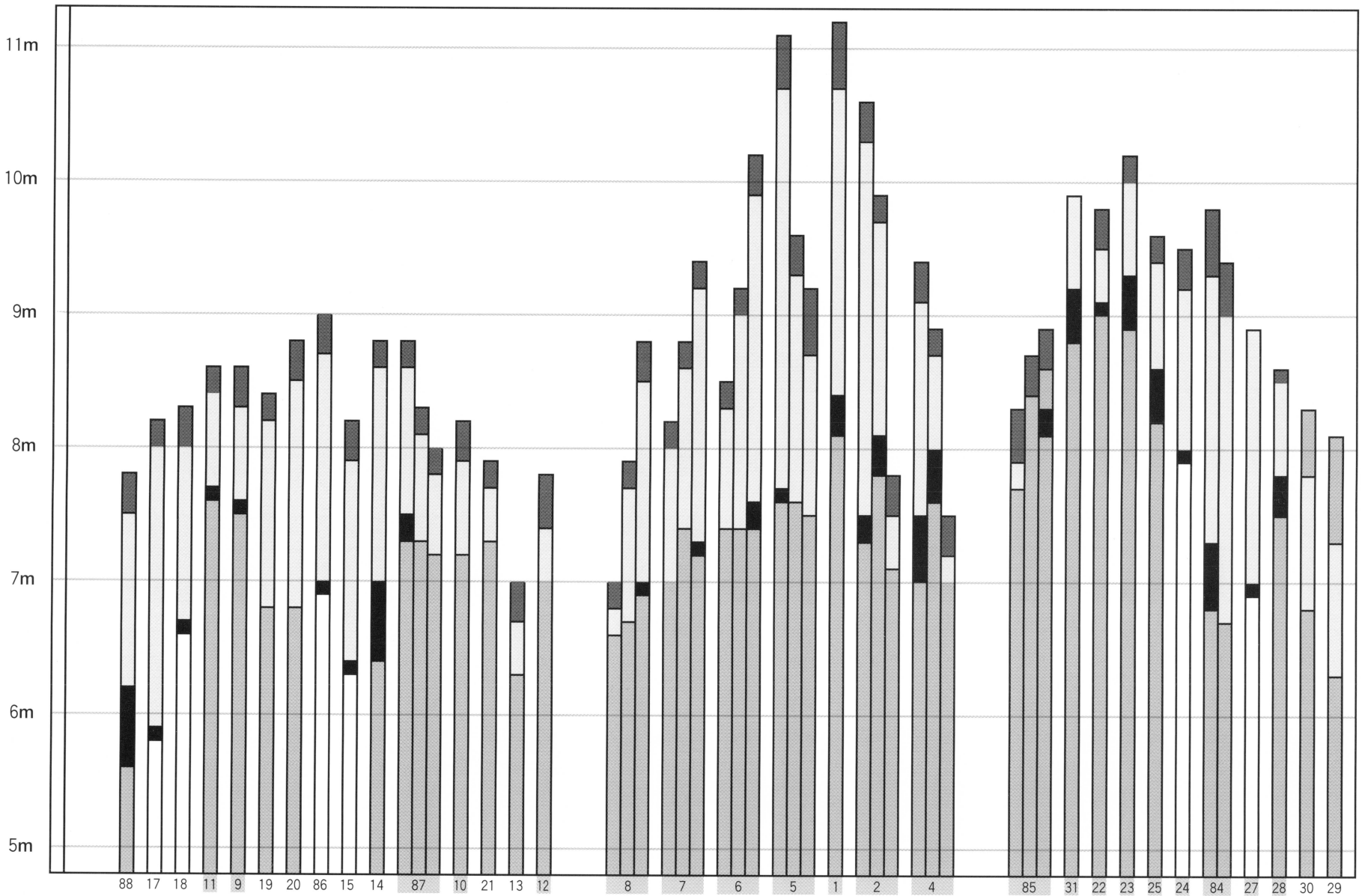
第２表 五月女萢遺跡 トレンチ観察表

トレンチ名	トレンチの規模				面積(㎡)	遺物の有無	備 考
	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸の方位			
1-①	18.0	0.9	0.5～2.4	W-3° -S	16.2	有り	黒色土層有り。大きくカクランを受ける。カクラン層から多量に遺物が出土。
1-②	3.9	0.7	2.3	W-3° -S	2.7	有り	黒色土層有り。西側1/3がカクランを受ける。
2	15.3	0.8	0.8～3.4	N-37° -E	12.2	有り	黒色土層有り。一部カクランを受ける。サブトレンチ①～③を設定。
3	10.0	1.0	0.5	E-0° -W	10.0	有り	表土掘削のみで終了。
4	14.4	0.9	0.5～2.6	N-2° -W	13.0	有り	サブトレンチ①～③、黒色土層アリ。
5	9.0	1.1	1.4～2.5	N-10° -E	9.9	有り	黒色土層有り。
6	9.1	0.8	1.3～2.8	N-30° -W	7.3	有り	サブトレンチ2ヶ所、黒色土層有り。
7	7.3	1.0	1.2～2.5	N-4° -W	7.3	有り	〃 1ヶ所、黒色土層有り。
8	13.4	1.4	0.5～1.8	N-12° -W	18.8	有り	〃 1ヶ所、黒色土層有り。
9	1.9	1.9	0.9～1.1		3.6	有り	暗褐色砂層有り。
10	1.5	1.4	0.8～0.9		2.1	有り	
11	1.9	1.9	1.0		3.6	有り	暗褐色砂層有り。
12	1.8	1.8	0.6～0.8		3.2	有り	西半分にサブトレンチ設置。
13	2.0	2.0	1.2		4.0	無し	西半分にサブトレンチ設置。
14	2.0	2.0	2.3		4.0	無し	北半分にサブトレンチ設置。
15	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	西半分にサブトレンチ設置。
16	2.0	2.0	1.2		4.0	無し	〃
17	2.0	2.0	2.3		4.0	無し	南半分 〃 。黒色シルト層有り。
18	2.0	2.0	1.6		4.0	無し	東半分 〃
19	2.0	2.0	1.9～2.4		4.0	無し	西半分 〃
20	2.0	2.0	2.1		4.0	無し	〃
21	2.0	2.0	0.7		4.0	無し	東半分 〃
22	1.8	1.7	0.7～0.8		3.1	有り	西半分にサブトレンチを設置。暗褐色砂層有り。
23	2.0	1.9	0.8～1.3		3.8	有り	〃 。黒色土層有り。
24-①	1.9	1.8	1.4～1.6		3.4	有り	西半分にサブトレンチ設置。黒色土層有り。
24-②	2.5	1.9	2.0～2.2	E-0° -W	4.8	有り	西側に拡張区を設置。拡張部分はすべてカクランを受けている。カクラン土からヤマトシジミのほか、多量の遺物採取。
25	1.9	1.8	1.4		3.4	有り	東半分にサブトレンチを設置。黒色土層有り。
26	2.0	2.0	2.0		4.0	無し	東半分にサブトレンチ設置。
27	2.0	2.0	2.1		4.0	有り	南半分にサブトレンチ設置。黒色土層有り。
28	1.8	1.7	0.8～1.3		3.1	有り	北東1/4にサブトレンチ設置。黒色土層有り。
29	2.0	2.0	1.7		4.0	無し	東半分にサブトレンチ設置。地表面から60㎝下までカクランを受ける。
30	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	西半分にサブトレンチ設置。
31	1.8	1.8	0.8～1.2		3.2	有り	西半分にサブトレンチ設置。黒色土層有り。
32	2.0	2.0	1.6		4.0	無し	北半分にサブトレンチ設置。
33	2.0	2.0	1.5～1.7		4.0	無し	南半分にサブトレンチを設置。
34	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
35	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	〃
36	2.0	2.0	1.3		4.0	無し	〃
37	2.0	2.0	1.2		4.0	無し	〃
38	2.0	2.0	1.3		4.0	無し	〃
39	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
40	2.0	2.0	1.7		4.0	無し	〃
41	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	〃
42	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	西半分 〃
43	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	南半分 〃
44	1.9	1.9	1.2		3.6	無し	〃
45	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
46	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	〃
47	2.0	2.0	1.1		4.0	無し	〃
48	2.0	2.0	1.3		4.0	無し	〃
49	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	西半分 〃
50	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	南半分 〃
51	2.1	2.1	1.5		4.4	無し	〃
52	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
53	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	〃

トレンチ名	トレンチの規模				面積(㎡)	遺物の有無	備　考
	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸の方位			
54	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	西半分　〃
55	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	東半分　〃
56	2.0	2.0	1.8～2.5		4.0	無し	南半分にサブトレンチを設置。
57	2.1	2.1	2.3～2.7		4.4	無し	〃
58	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	〃
59	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	〃
60	2.0	2.0	2.1		4.0	無し	〃
61	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	西半分　〃
62	1.9	1.9	2.1		3.6	無し	南半分　〃
63	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	〃
64	2.0	2.0	1.7		4.0	無し	北半分　〃
65	2.0	2.0	1.8		4.0	無し	南半分　〃
66	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	東半分　〃
67	2.1	2.1	1.5		4.4	無し	南半分　〃
68	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
69	1.9	1.9	1.7		3.6	無し	〃
70	1.9	1.9	1.5		3.6	無し	東半分　〃
71	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	南半分　〃
72	2.0	2.0	1.1		4.0	無し	〃
73	2.0	2.0	1.5		4.0	無し	〃
74	2.0	2.0	1.4		4.0	無し	〃
75	2.0	2.0	1.3		4.0	無し	〃
76	2.0	2.0	1.2		4.0	無し	〃
77	2.0	2.0	1.1		4.0	無し	〃
78	2.0	2.0	0.6		4.0	無し	〃　、地表面から60㎝下で湧水。
79	2.0	2.0	1.3		4.0	無し	西半分〃
80	2.0	2.0	0.5		4.0	無し	南半分〃、地表面から50㎝下で湧水。
81	2.0	2.0	0.7		4.0	無し	〃、地表面から70㎝下で湧水。
82	2.0	2.0	0.7		4.0	無し	〃、地表面から50㎝下で湧水。
83	2.0	2.0	0.5		4.0	無し	〃、地表面から50㎝下で湧水。
84	10.0	2.0	2.5～2.7	N-20°-W	20.0	有り	黒土層有り。調査区の崩落により、セクション図作成のみ。
85	5.3	1.4	0.6	N-23°-W	7.4	有り	一部にカクランを受ける。
86	4.5	2.0	2.1	N-45°-W	9.0	無し	黒色シルト層有り。
87	5.7	1.5	0.7～1.5	N-24°-W	8.6	有り	黒色土層有り。
88	2.0	2.0	1.5～2.2		4.0	無し	西半分にサブトレンチ設置。黒色シルト層有り。
合　計					443.3		



第5図　五月女萢遺跡・北側地区北半の地形測量図・調査位置・黒色土層の範囲



Ⅰa層：表土

Ⅰb層：灰白色砂層（新砂丘砂Ⅰ及び新砂丘砂Ⅱ）

Ⅱ層：黒色土層（旧期クロスナ層）

Ⅲ層以下：黄褐色砂層以下（旧砂丘砂層）

カクラン層

棒グラフ下の数字はトレンチ番号を示し、アミ部分は遺物が出土したトレンチを示す。

※調査は基本的にⅢ層までを確認しており、それ以下の層位は未確認である。
また、Ⅱ層面で調査を終了した箇所は、それ以下を空白にしている。

第6図　五月女萢遺跡　北側地区の基本層序模式図

2．出土遺物について

遺物は主に遺物包含層である黒色土層（クロスナ層）のほか、盗掘によるカクラン層から出土している。遺物には縄文時代の土器、土製品（土偶・勾玉・有孔土製品）、石器（石鏃・石錐・石匙・石箆・スクレイパー類・磨製石斧・石棒・砥石・敲石）、石器の剥片・原石、動物遺存体、ヤマトシジミなどが出土している。こうした遺物は土器型式から縄文後期末葉（十腰内・式）から晩期後葉（大洞Ａ式）に含まれる。ただし、カクラン層から古代の須恵器片（五所川原産）がわずかに１点出土している。

また、膨大な量の頁岩の剥片・原石のほか、玉髄の剥片・原石、赤鉄鉱（ベンガラ）の原石も出土しているが、掲載することができなかった。さらに、石器については実測図が間に合わず写真図版と観察表に譲ることとなってしまった。また、動物遺存体の多くは24トレンチのヤマトシジミの貝層ブロックに含まれていたものとみられるが、盗掘によるカクラン層からの出土であり、今回は同定可能なもののみ写真図版に掲載した。

3．土器の分類について

今回の調査で出土した土器は縄文時代後期末葉から晩期後葉に及ぶ。土器型式でみると、十腰内Ｖ群（式）から大洞Ａ式までの土器が継続して認められる。ただし、土器型式によって出土量の多寡に違いが認められるが、特にこれまで不明であった後期末葉から晩期初頭に位置づけられる資料がまとまって出土しており注目される。また、五月女萢遺跡の最終時期については晩期末葉の大洞Ａ´式が全く出土していない点は重要である。

次に出土土器については下記のとおり、土器型式を踏まえて第１群から第７群まで分類し、さらに必要に応じてＡ類・Ｂ類‥と細分することとした。ただし、文様構成による型式分類については土器の細片が多く、土器の接合も不十分であったため、不正確な分類が多分に含まれているかもしれない。特に第１群～第２群土器とした後期末葉から晩期前葉については全体の文様構成が分かるものが少なく、また、浅学のために土器型式の概念規定があいまいな部分が多々あるので、後日、文様構成を把握した段階で改めて再検討を行いたい。また、昭和58年報告による土器・型式分類も明らかな間違い箇所が多いので、それも合わせて後日再検討していきたいと考えており、今回の報告分類と昭和58年報告分類と合致した表記となっていないことを予めお断りしておきたい。

また、土器については出土量が膨大であり、掲載できなかったものが多いことも付け加えておきたい。さらに紙幅の関係上、個々の土器について詳細を触れることができなかったため、「４.調査地区の概要」で記述する各トレンチ出土の土器については後述する群別表記に終始せざるを得なかった。そこで詳細については第３表の「五月女萢遺跡土器観察表」に譲ることとしたい。

第１群土器：縄文後期末葉の土器

十腰内Ｖ群(式)に相当するもの。貼り瘤を施す特徴がある。文様には入組帯状文、(襷掛状)沈線文、櫛描文がみられる。ここでは特に細分していない。

第２群土器：晩期前葉・前半の土器

大洞Ｂ式に相当する。さらに古段階（大洞Ｂ１式＝十腰内Ⅳ群）に相当するものをＡ類、新段階（大洞Ｂ２式）に相当するものをＢ類とする。

Ａ類：Ｓ字状文、弧線文、短沈線文、入組帯状文、補助的な三叉文などを特徴とする。

Ｂ類：独立した主文様の三叉文を特徴とする。

第３群土器：晩期前葉・後半の土器

大洞ＢＣ式に相当する。文様は羊歯状文を特徴とする。ここではＡ～Ｃ類に細分した。

なお、Ａ～Ｃ類は文様変化の連続性からみて型式的変遷を示すものとみられる。

Ａ類：平行沈線間に右上がりの短い斜線を引き、その斜線を境に上下に刻目（列点文）を施すもの。(ただし、一部に右下がりの短い斜線のものも含む。)

Ｂ類：平行沈線間にさらに短い平行線を引き、その線を境に上下に刻目(列点文)を施すもの。

Ｃ類：平行沈線間に大振りな刻目（列点文）を施すもの。

第４群土器：晩期中葉・前半の土器

大洞Ｃ１式に相当する。さらに２つに細分した。

Ａ類：磨消縄文の手法を用いた雲形文（ｋ字状文・Ｘ字文・大腿骨文）で、磨消部は半肉彫となる。

Ｂ類：口縁部に施された平行沈線間に細かい刻目（列点文）だけを施すもの。

第５群土器：晩期中葉・後半の土器

大洞Ｃ２式に相当する。平行線化した磨消縄文の手法となる。直線的で平行線化した雲形文・入組文を特徴とする。磨消部の彫り込みも浅い。なお、昭和58年報告で仮称大洞Ｃ２－Ａ式とした磨消縄文手法を残した連続工字文を施すタイプも今回は第５群に含めている。

第６群土器：晩期後葉・前半の土器

大洞Ａ式に相当する。文様は平行線化した工字文を特徴とする。すでに磨消縄文手法はみられない。

第７群土器：型式不明の土器

粗製深鉢のほか、分類・判別できなかったものを含む。

4．調査地区の概要

ここではトレンチ調査区の概要を示す。調査地点の位置については第４・５図を参照いただきたい。特に第５図で示した北側調査区では遺物を包含する黒色土層（クロスナ層）が確認された範囲を示し、地形測量図も合わせて作成した。測量調査の結果、現在の地形とトレンチ調査で確認された黒色土層の範囲がおおよそ把握することができた。ここではすべてのトレンチの詳細について触れる余裕がないので、遺物包含層の黒色土層が確認された北側調査区のトレンチについて概要を述べていきたい。なお、トレンチ調査全体の概要については第２表トレンチ観察表を合わせて参照いただきたい。

１トレンチ（第７～23図）

まず、盗掘によって土器が散乱する箇所から調査を行った。１－①トレンチでは緩斜面に平行して東西方向に長さ18m、幅0.9mを設定した。さらに東側に１－②トレンチを東西方向に長さ3.9m、幅0.7mで設定した。調査の結果、１－①トレンチでは東半分が重機によるカクランを受けていることが判明した。辛うじて黒色土層が残されていたが、無残にも重機の爪痕が多く確認された。なお、黒色土層が切れる西側の緩斜面はカクランを受けていない。また、１－②トレンチでも西側部分が大きくカクランを受けていた。Ｉｂ層は2．2mも厚く堆積している。黒色土層（Ⅱ層）上面から第１群（第８図１）及び第５群土器（第８図１）が出土しているが、カクランを受けている状態で層位的には安定した遺物のまとまりになっていない。また、カクラン層からは第１群～第６群までの土器が出土しており、やはり時期幅がある。さらにカクラン層からは石器類も多く出土している。石器には石鏃10点、石鏃未製品６点、石錐３点、石箆３点、石匙６点、スクレーパー類４点、磨製石斧１点、石棒１点、砥石１点、敲石２点がある。

２トレンチ（第24～28図）

緩斜面に平行して南東方向に長さ15.3m、幅0.8mを設定した。トレンチの東半分から黒色土層が検出された。トレンチ中央でカクランを確認したが、黒色土層がわずかに削りとられた程度であった。黄褐色砂層面からは円礫など石器の原材料に利用されたとみられる礫が多く検出されている。また、検出面で取り上げた土器の表面がほとんど摩滅していた。飛砂による砂の移動が土器の表面を摩滅させたのであろう。その他のトレンチでも多く認められた現象である。さらに黒色土層の厚さを確認するため、サブトレンチを３箇所（No.１～３）設定した。サブトレンチNo.２の黒色土層が最も厚く0．5mに達する。また、サブトレンチNo.２の黒色土層（第25～26図143～167）からは第３群～第５群土器が出土している。特に広口小壷（第25図143）は優品である。しかし、層位的には安定した遺物のまとまりにはなっていない。また、カクラン層からは第２群～第５群土器が出土している。なお、２トレンチでも多くの石器が出土している。黒色土層上面からは石鏃１点、石鏃未製品1点、石匙１点、磨製石斧１点が出土している。また、サブトレンチNo.２からは石鏃１点、石錐１点が出土している。さらにカクラン層からは

石鏃５点、石箆１点、石匙２点、敲石１点が出土している。

３トレンチ（第31図）

１トレンチの調査の結果、３トレンチは黒色土層に達するまで相当深く掘削しなければならず、土砂崩れ等の危険が生じたので調査を途中で終了した。なお、第６群土器（第31図227)が表採された。

４トレンチ（第29～31図）

緩斜面に平行して南北方向に長さ14.4m、幅0.9mで設定した。Ｉｂ層が深い場所で２ｍに達する。さらに黒色土層の厚さを確認するため、サブトレンチを３箇所（No.１～３）設定した。サブトレンチNo.１とNo.２の黒色土層が最も厚く0.5mに達する。また、サブトレンチNo.２の黒色土層中からは第３群～第６群土器のほか、石鏃１点、石鏃未製品１点が出土している。黒色土層には時期幅のある土器が含まれ、安定した遺物のまとまりになっていない。なお、サブトレンチNo.１およびNo.３からは遺物の出土はない。検出面である黒色土層上面や黄褐色砂層面からは第３群～第６群土器（第30・31図201～226）が出土している。また、黒色土層上面の土器は状態が良いが、黄褐色砂層面出土の土器はほとんど摩滅している。黄褐色砂層面からは円礫や角礫がまとまって検出されている。カクラン層からは石鏃６点、石錐１点、石匙１点が出土している。

５トレンチ（第32図）

緩斜面に平行して南西方向に長さ９ｍ、幅1.1mを設定した。黒色土層がトレンチ北端でわずかに検出された。Ｉｂ層が深い場所で２ｍに達することが判明した。また、黄褐色砂層面からは円礫に混じって土器が出土している。しかし、すべての土器が摩滅しており、土器型式の特定ができなかった。

６トレンチ（第32図）

緩斜面に平行して北西方向に長さ9.1m、幅0.8mを設定した。黒色土層がトレンチ南側で検出された。トレンチ北端でサブトレンチNo.１を設定し、黒色土層の厚さが約30㎝であることが判明した。さらに、トレンチ南端にサブトレンチNo.２を設定し掘削したが、Ⅲ層（黄褐色砂層）の堆積が続くだけであった。また、黄褐色砂層面から礫ともに土器片が出土したが、すべて土器の表面が摩滅している。石箆１点も出土している。

７トレンチ（第33図）

緩斜面に平行して南北方向に長さ7.3m、幅１ｍを設定した。黒色土層がトレンチ南側で検出された。Ｉｂ層が深い場所で1.9mに達することが判明した。また、トレンチ南端でサブトレン

チを設定し掘り下げたところ、黒色土層の厚さがわずか10cmであった。一方、遺物では土器が散見されたが、やはりすべての土器表面が摩滅していた。

8トレンチ（第33・36図）

緩斜面に平行して南北方向に長さ9.1m、幅0.8mを設定した。黒色土層がトレンチ南側で検出された。黒色土層上面から骨片がまとまって検出されたが、カクランによる混入と判断された。

また、黄褐色砂層面からは円礫に混じって、表面が摩滅した土器が散見された。黄褐色砂層面から第2群A類土器のほか石器類が出土している。石器には石匙1点、石箆1点、スクレイパー類1点がある。

9トレンチ（第34・36図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.9m四方でトレンチを設定した。トレンチ西側で黒色土層（暗褐色土）を確認した。また、黒色土層（暗褐色土）上面からは土器片や石器(剥片)、礫が多数検出された。土器の表面はすべて摩滅しており、土器型式による時期の特定が困難であった。ここでは第7群（時期不明）の壷形土器を掲載した（第36図230)。なお、石鏃2点も出土している。

10トレンチ（第34図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.5m×1.4m四方でトレンチを設定した。調査の結果、Ⅰb層が約70cm堆積することが判明した。また、黒色土層は認められなかったが、Ⅲ層の黄褐色砂層上面から円礫のほか3点の土器が出土した。土器はすべて表面が摩滅している。

11トレンチ（第34図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.9m四方でトレンチを設定した。調査の結果、Ⅰb層が70cmほど堆積し、下層から黒色土層がトレンチ北西隅で確認された。また、黄褐色砂層面から土器14点が出土したが、すべて表面が摩滅していた。

12トレンチ（第35図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.8m四方でトレンチを設定したが、調査の途中からトレンチ西半分だけを掘り下げていった。その結果、Ⅲ層の黄褐色砂層上面において土器片や石器剥片、礫が検出された。また、土器は15点ほど出土したが、すべて土器の表面が摩滅していた。

22トレンチ（第35図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.8m×1.7m四方でトレンチを設定したが、調査の途中

からトレンチ西半分だけを掘り下げていった。その結果、黒色土層が８㎝ほどの薄い堆積で確認されたが、トレンチ北側隅ではそれが確認されなかった。一方、黒色土層上面において土器片や石器剥片、円礫が多数検出された。そこで黒色土層上面の遺物を８ブロックに分けて取り上げた。しかし、土器はすべて表面が摩滅しており、土器型式による時期の特定には至らなかった。

23トレンチ（第37～40図）

黒色土層の広がりを把握するため、2.0m×1.9m四方でトレンチを設定したが、調査の途中からトレンチ西半分だけを掘り下げていった。その結果、黒色土層が検出され、黒色土層上面から土器片や石器剥片が多量に検出された。やはり土器の表面はすべて摩滅していた。飛砂による砂丘砂の移動によって、土器表面が磨耗したのであろう。次に黒色土層の厚さを確認するため、トレンチの南西コーナーに90㎝×60㎝のサブトレンチを設定し掘り下げた。その結果、黒色土層は35㎝の厚みをもち、分層することができた。上層（Ⅱａ層）は黒色砂層、下層（Ⅱｂ層）は暗褐色砂層であった。Ⅱａ層中からは土器が多量に検出されたが、Ⅱｂ層は堆積を確認しただけで、遺物も少なく取り上げていない。そのため遺物は黒色土層のⅡａ層上面とⅡａ層中で分けて取り上げている。Ⅱａ層上面では第２群～第６群土器まで時期幅のある土器が出土している。一方、Ⅱａ層中からは第１・３・４群土器が出土しており、両者にはほとんど時期差がないものと思われる。また、Ⅱａ層上面から石鏃１点が出土している。

24トレンチ（第41～51図）

周辺では盗掘によってヤマトシジミが散乱していることから、貝層（貝塚）の存在が推定されたので、その確認調査を行った。トレンチは1.9m×1.8m四方で設定したが、調査の途中からトレンチ西半分だけを掘り下げていった。その結果、Ⅰｂ層は1.1mの堆積がみられ、下層から黒色土層が検出された。その黒色土層上面から土器片や石器剥片、円礫が出土した。やはり土器の表面はすべて摩滅していた。しかし、ヤマトシジミの貝層（貝塚）を確認することができなかったので、盗掘坑のある西側へ調査区を拡張した（以下、「西側拡張区」とする）。その西側拡張区は2．5m×1．9mで設定した。盗掘のためカクラン土から大量の土器や石器剥片のほか、ヤマトシジミおよび貝層に混じっていたとみられる動物遺存体も出土した。動物遺存体にはイノシシ、ガンカモ科、スズキが含まれていた(写真図版31)。西側拡張区の盗掘坑は大きく黒色土層まで達していたため、そのカクラン層を除去して精査した後、拡張トレンチ南東隅にサブトレンチを設定した。その結果、黒色土層の堆積は70㎝に及び、４層に細分することができた。また、土層観察により、ヤマトシジミの貝層ブロックがⅡｃ層中に含まれていることが判明した。その貝層ブロックはレンズ状の堆積をしており、人為的なものとみられる。なお、カクラン層を除去して精査した面はⅡｃ層の下位、或いはⅡｄ層上面に相当する(第41図)。この精査面からは混土貝層の広がりのほか、第２群～第３群土器である晩期前葉の資料がまとま

って出土している(第41図)。このことからヤマトシジミの貝層ブロックの形成時期も晩期前葉とみられる。また、カクラン層からは第１群～第６群までの土器が多量に出土している。特に第２・３群土器である晩期前葉の資料が圧倒的に多く、第６群土器はわずかに１点(第49図405)だけであった。

25トレンチ（第51～54図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.9m×1.8m四方でトレンチを設定したが、調査の途中からトレンチ東半分だけを掘り下げていった。その結果、Ⅰｂ層は0.9mの堆積がみられ、下層から黒色土層が検出された。また、黒色土層上面から土器片や石器剥片、円礫が多量に検出された。やはり土器の表面はすべて摩滅していた。さらにトレンチの北東コーナーにサブトレンチを設定し掘り下げた結果、黒色土層の堆積は30cmを測り、二層に細分することができた。上層（Ⅱａ層）は黒色砂層、下層（Ⅱｂ層）は暗褐色砂層であった。遺物はⅡａ層上面とⅡａ層中の二回にわたって取り上げた。なお、Ⅱｂ層中から遺物の出土はなかった。Ⅱａ層上面からは第１・３・５群土器が出土した。また、Ⅱａ層中からは第１～４群土器が出土している。なお、第54図の廃土一括としたものはⅡａ層中の土器精査時に地点が移動してしまった土器である。これは確実にⅡａ層中から出土したものであるが、一応分けて掲載した。その廃土中からは第1・2・3・5群土器が出土している。このように分層して取り上げたものの、両層の土器型式はほぼ同じであり、また幅広い年代の土器が認められる。層位的には安定した遺物のまとまりにはなっていない。なお、Ⅱａ層上面からは石鏃２点、石箆１点が出土している。

28トレンチ（第35・36図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.8m×1.7m四方でトレンチを設定した。調査の結果、Ⅰｂ層が70cmほど堆積し、下層から黒色土層が全面に確認された。さらに黒色土層の厚さを確認するため、トレンチの北東コーナーに80cm×70cmのサブトレンチを設定し掘り下げた。その結果、黒色土層は40cmの厚みをもち、分層することができた。上層（Ⅱａ層）は黒色砂層、下層(Ⅱｂ層)は暗褐色砂層であった。それぞれの層から土器が出土している。しかし、上層（Ⅱａ層）からは第２群Ａ類土器、下層（Ⅱｂ層）からは第３・４・６群土器が出土しており、やはり良好な層位資料といえるものではなかった。なお、Ⅱａ層上面からは摩滅した土器片のほか、石鏃１点が出土している。

31トレンチ（第55～59図）

黒色土層の広がりを把握するため、1.8m四方でトレンチを設定した。調査の結果、Ⅰｂ層が60cmほど堆積し、下層から黒色土層が全面に確認された。黒色土層上面から土器片や石器剥片、円礫が検出されたが、やはり土器の表面は摩滅していた。次にトレンチ西半分だけを掘り下げていった。その結果、黒色土層は40cmの厚みをもち、３層に分けることができた。上層（Ⅱａ

層）は黒色砂層、下層（Ⅱｂ・Ⅱｃ層）は暗褐色砂層であった。また、Ⅱａ層上層も含めて、５回にわたって層位的に遺物を取り上げることができた。Ⅱａ層上面（１回目）は先にも触れたとおり、土器の表面がほとんど摩滅しており、時期が不明である。Ⅱａ層中（２回目）では第４群土器が出土している（第56図471・472）。Ⅱｂ層中（３・４回目）からは第２・４～６群土器が出土している（第56図473～481）。Ⅱｃ層中（5回目）からは第２～６群土器が出土している（第57～59図482～508）。それぞれの層位からは幅広い年代の土器が認められ、層位的には安定した遺物のまとまりにはなっていない。

また、サブトレンチからは第２・４～６群土器が出土している（第59図509～514）。さらに、Ⅱｃ層中から敲石１点が出土している。地点不明となってしまったが、石箆１点も出土している。

84トレンチ（第61・65図）

黒色土層の広がりを把握するため、緩斜面に平行して南北方向に長さ10m、幅２mのトレンチを設定した。その結果、トレンチ北端においてわずかに黒色土層を確認した。なお、調査区の崩落により、土層断面図のみ作成して調査を終了した。また、黒色土層上面から第５群土器が出土している（第61図516・517）。

85トレンチ（第60・61図）

黒色土層の広がりを把握するため、緩斜面に平行して北西方向に長さ5.3m、幅1.4mのトレンチを設定した。調査の結果、一部にカクランがみられた。そのためⅠｂ層や黒色土層が削られ、安定した層位になっていない。黒色土層はトレンチ南側で確認された。遺物は黒色土層上面から出土している。やはり土器には摩滅したものが多い。黒色土層上面から第３・４群土器の土器（第61図518～520）のほか、石箆１点が出土している。

87トレンチ（第60・61図）

黒色土層の広がりを把握するため、緩斜面に平行して北西方向に長さ5.7m、幅1.5mのトレンチを設定した。その結果、トレンチ北端でわずかに黒色土層を確認した。黒色土層上面から第２群土器がまとまって出土している（第61図521～526）。また、黄褐色砂層面からは円礫・角礫のほか、表面が摩滅した土器がわずかに出土している。

第Ⅲ章　まとめ

ここでは調査の概要や具体的に明らかになってきた点についてまとめる。

1．立地と環境、地形と層位

五月女萢遺跡は十三湖北岸、津軽山地の山々が南西方向へのびる洪積台地の西縁にあたる砂丘低地帯に位置し、南東の相内川、北の唐川に挟まれている。また、今回の調査でヤマトシジミ主体の貝層ブロックが検出されたことで、遺跡が主体をなす縄文晩期にはすでに遺跡南側に広がる古十三湖の環境が現在と同じ汽水性の潟湖であったことを証明した。さらに本遺跡から日本海の海岸線までの距離が約1.1kmと間近な距離であり、季節風の影響といった自然環境の変化を受けやすい立地にある。地質学の成果によると、遺跡の基本層序は次のとおりである。日本海側の海岸砂丘が北西の季節風によって内陸部へと再堆積した砂層が遺跡の基盤層（Ⅲ層）を形成している。Ⅲ層は黄褐色砂層で旧期砂丘砂に対応する。続く上層には遺物を包含する黒色土層（Ⅱ層）が堆積しており、旧期クロスナ層に対応する。土器型式から黒色土層が縄文後期末葉から晩期後葉に堆積したものであることが明らかとなっており、この時期最も安定した自然環境にあったとみられる。続く上層には灰白色砂層（Ⅰｂ層）の新期砂丘砂が堆積している。Ⅰｂ層は深い場所で３ｍも厚く堆積しており、遺跡を完全に覆い隠した状態となっている。さらに上層は近現代の植林による黒松やカシワの木などの生育によって生み出された黒褐色砂層の腐食土(Ⅰａ層)が堆積している。このように海岸砂丘が季節風によって再堆積した砂層と植物が繁茂する安定した時期を示す黒色土層が堆積し、現在の五月女萢遺跡周辺の環境をつくりだしたと考えられる。また、測量調査の結果、遺跡が残る北側調査区では現在の標高が6.5～11mの起伏のある海岸線に直交した、いわゆる縦列砂丘の高まりが連続する地形となっている。

2．遺跡の時期

調査で出土した土器の型式から、五月女萢遺跡は縄文時代後期末葉（十腰内Ⅴ式）～晩期後葉（大洞Ａ式）まで継続して営まれた遺跡であることが判明した。十三湖北岸に縄文晩期の拠点集落が存在したものとみられる。ここで重要な点は黒色土層上面から出土する土器の表面がほとんど摩滅していることである。これは季節風による砂の移動によって、土器表面が摩滅した結果とみられること。さらに遺跡の最終時期については晩期末葉の大洞Ａ´式が全く出土していないことである。また、隣接する遺跡に大洞Ａ´式の良好な遺物包含層が確認された岩井・大沼遺跡〔市浦村教育委員会　2001〕が存在することから、この時期以降に自然環境を一変させるような季節風の影響等で内陸部へ集落移動をせざるを得ない状況が生まれたものと想定する。

3．出土遺物

遺物には縄文時代の土器、土製品（土偶・勾玉・有孔土製品)、石器（石鏃・石錐・石匙・石箆・スクレイパー類・磨製石斧・石棒・砥石・敲石)、石器の剥片・原石、動物遺存体、ヤマトシジミなどが出土している。ただし、カクラン層から古代の須恵器片（五所川原産）がわずかに１点出土している。

また、石器の剥片・原石が膨大に出土したが頁岩で占められている。また、玉髄の剥片・原石も多く、赤鉄鉱（ベンガラ）も出土している。動物遺存体にはイノシシ、カンガモ科（オオハクチョウサイズ)、スズキがある。しかし、動物遺存体の多くは24トレンチのヤマトシジミの貝層ブロックに含まれていたものとみられるが、盗掘によるカクラン層からの出土であった。

4．遺跡の概要、範囲と性格

トレンチ調査と測量調査の結果、北側調査区（五所川原市相内545番地)の北半部に遺物を包含する黒色土層、いわゆる土器捨て場が確認され、 遺跡が残る範囲は南北200m×東西90mの約18,000㎡に及ぶことが明らかとなった。遺跡の実態は東西方向に舌状に伸びるように３列の平行する黒色土層域が展開しているとみられる。それぞれ北側から順に黒色土層域①～③と呼称し、さらに黒色土層域の間を黄褐色砂層域Ⅰ～Ⅲと呼称した(第５図)。次にその概要を説明する。

まず、黒色土層域①では14～18・86・88トレンチから黒色の砂質土ではなく、シルト土層が堆積することが明らかとなった。黒色土層の標高が5.6～7.0mと他のトレンチ区で確認された黒色土層の標高と比べて低く、当時は低湿地の環境にあったものとみられる。今回、遺物等は全く出土しなかったが、調査が進めば植物遺存体などの有機質遺物が発見される可能性がある。また、９・11・87トレンチでは黒色（暗褐色）の砂質土と黄褐色砂層の境界線が確認されており、黒色土層域①の範囲を推測することができた。

次に黒色土層域②では１・２・４～８トレンチで黒色の砂質土と黄褐色砂層の境界線が確認されており、黒色土層域の範囲を推測することができた。黒色土層の標高は6.9～8.3mの高さにあり、調査区東側へ向かうに従って標高が高くなっている。また、黒色土層には多くの遺物を包含していることが判明したが、１トレンチなど盗掘坑によるカクラン箇所が多く確認されている。

さらに黒色土層域③では22～25・27・28・84・85トレンチで遺物を包含する黒色土層を確認することができた。黒色土層の標高は6.9～8.3mの高さにあり、やはり調査区東側へ向かうに従って標高が高くなっている。この地点では黒色土層が細分され、遺物を層位的に取り上げることができたトレンチ区もあったが、単一の土器型式でまとまることはなく、すべて数型式にまたがる時間幅のある層位資料であった。また、特筆すべきは24トレンチで縄文晩期前葉のヤマトシジミの貝層ブロックが確認されたことであったが、残念なことに大きくカクランを受けており、動物遺存体もそのカクラン層から出土している。

また、こうした遺物を包含する黒色土層域との間に黄褐色砂層域が展開している。黄褐色砂層域は谷地形となっており、遺跡の基盤層とした旧期砂丘砂（Ⅲ層）である。旧期砂丘砂が形成された頃にはすでに縦列砂丘による谷地形で、続く黒色土層（Ⅱ層・旧期クロスナ層）も堆積していたものとみられる。しかし、縄文晩期後葉（大洞A´式）以降の自然環境の変化、つまり季節風による砂の移動作用で谷地形がさらに深く抉り取られ、存在したはずの黒色土層も削り取られてしまったものとみられる。その後に堆積した新期砂丘砂（Ⅰb層）に覆われることによって、現在認められるような起伏のある縦列砂丘の高まりが連続する地形を生み出したとみられる。

また、部分的な調査であるため断定は避けなければならないが、竪穴住居や土壙墓などの遺構は今回全く検出されていない。起伏のある地形であることから、生活空間としては適していない。恐らく遺跡東側の隣接地が生活・居住空間の中心域とみられるが、すでに開発等によって破壊されており、消失してしまった可能性が高い。

≪引用・参考文献≫

青森県史編さん自然部会　2003「青森県の生物呼称」『青森県史自然編　生物（別冊）』

岩崎繁芳　2005「市浦村史」第三巻　市浦村教育委員会

小泊村教育委員会・早稲田大学文学部考古学研究室　1991『縄文沼遺跡発掘調査報告書』小泊村文化財調査報告第２集

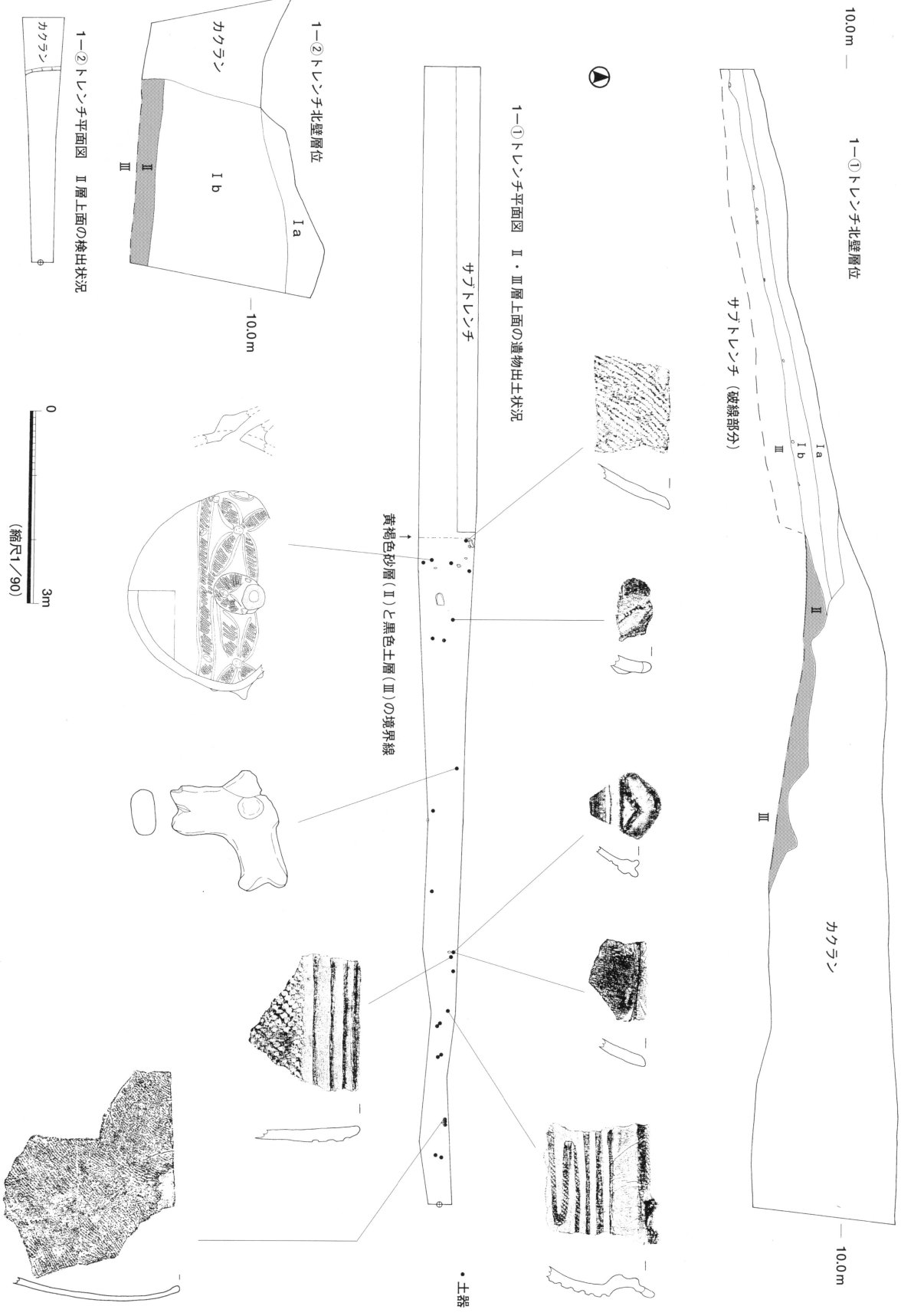
市浦村教育委員会　1983「市浦村五月女萢遺跡」

市浦村教育委員会　2001「岩井・大沼遺跡～県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告～」

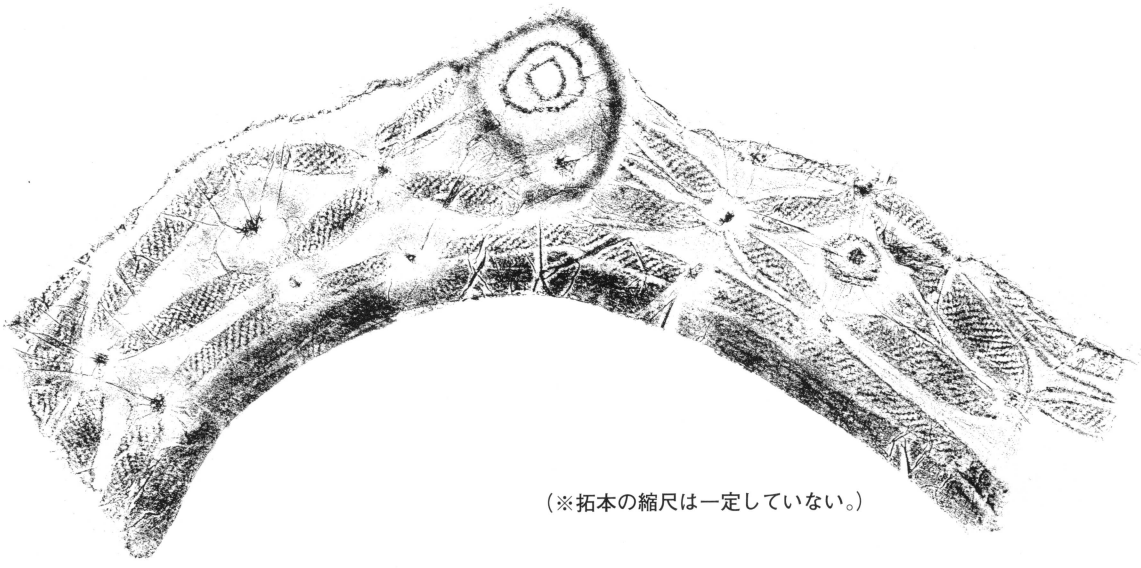
関根達人　2002「沢上貝塚晩期縄文土器の再検討」『宮城考古学』第４号

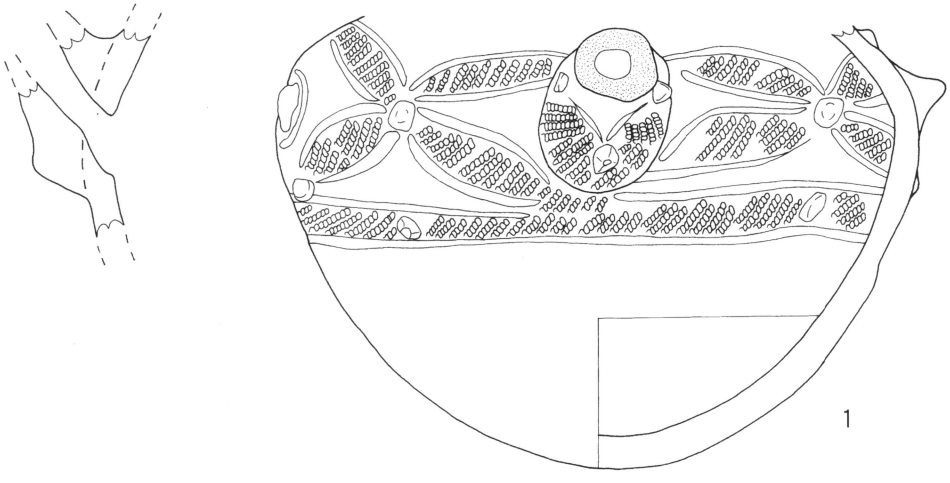
関根達人　2005「『十腰内』Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器』に関する今日的理解『北奥の考古学』葛西勵先生還暦記念論文集刊行会

弘前大学人文学部　2004「亀ヶ岡文化遺物実測集」日本考古学研究室研究報告１



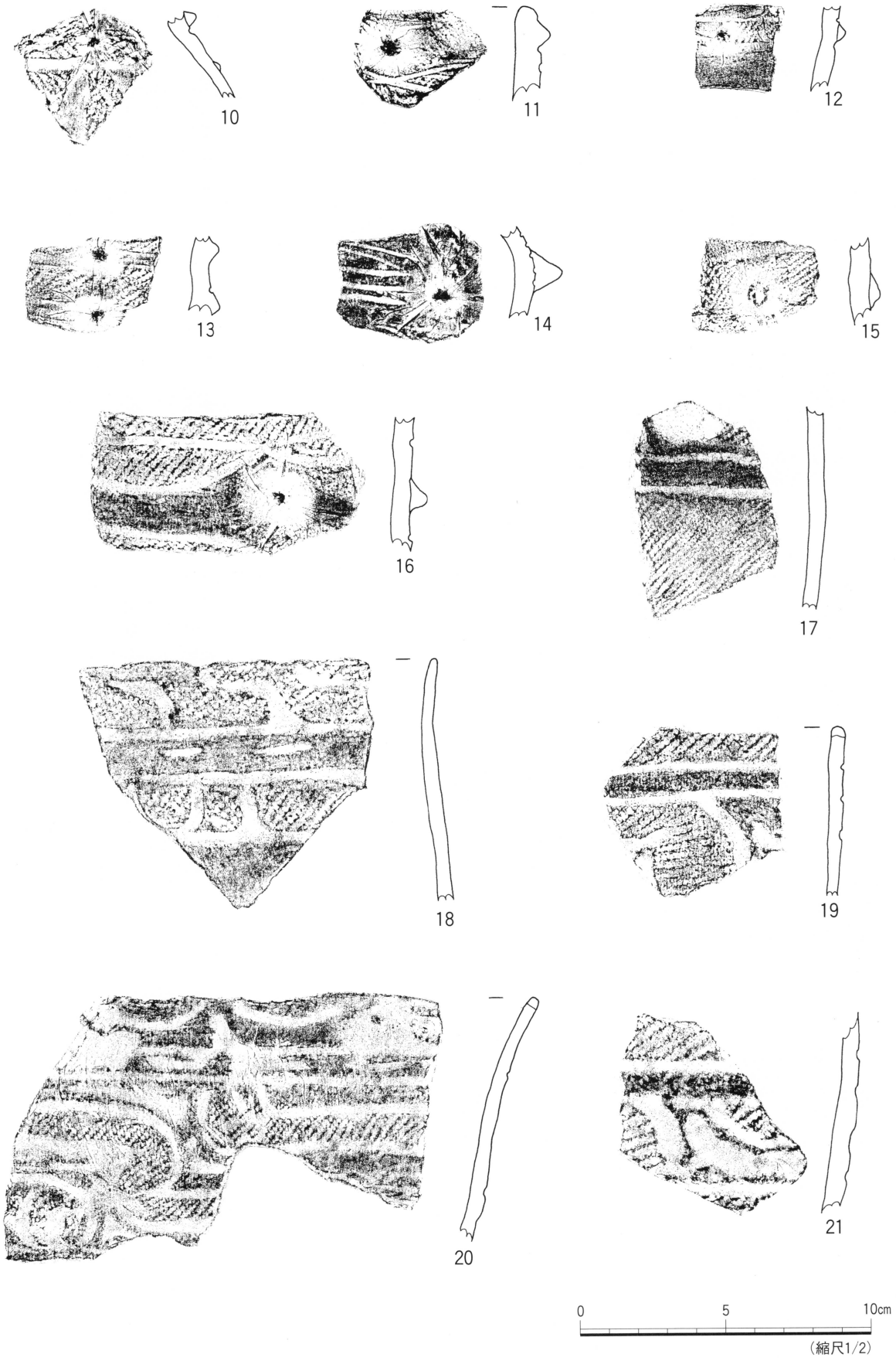
第7図　1トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況





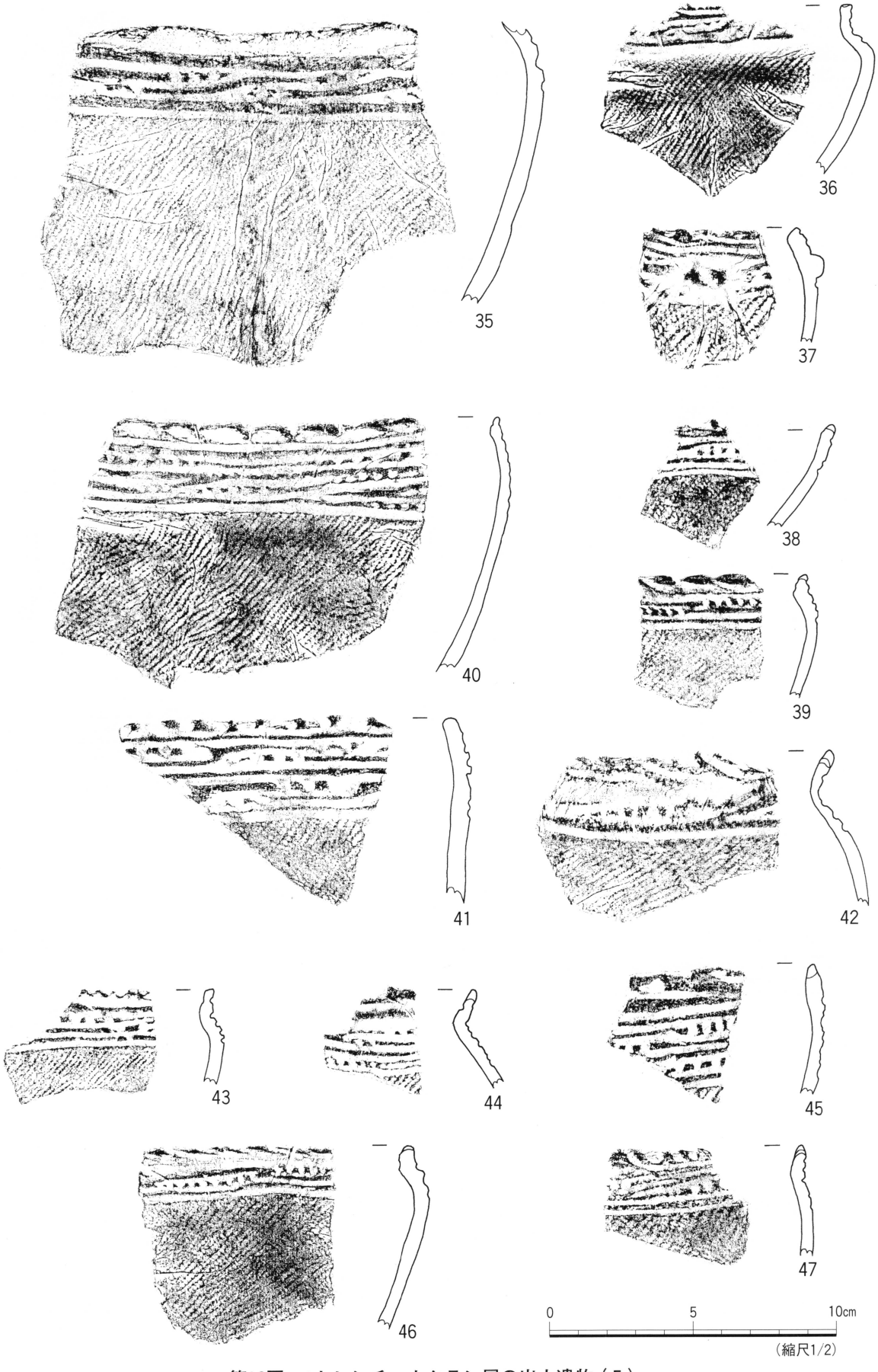
第8図　1トレンチ　黒色土層（Ⅱ層）上面の出土遺物（1）

第9図　1トレンチ　黒色土層(Ⅱ層)上面の出土遺物(2)

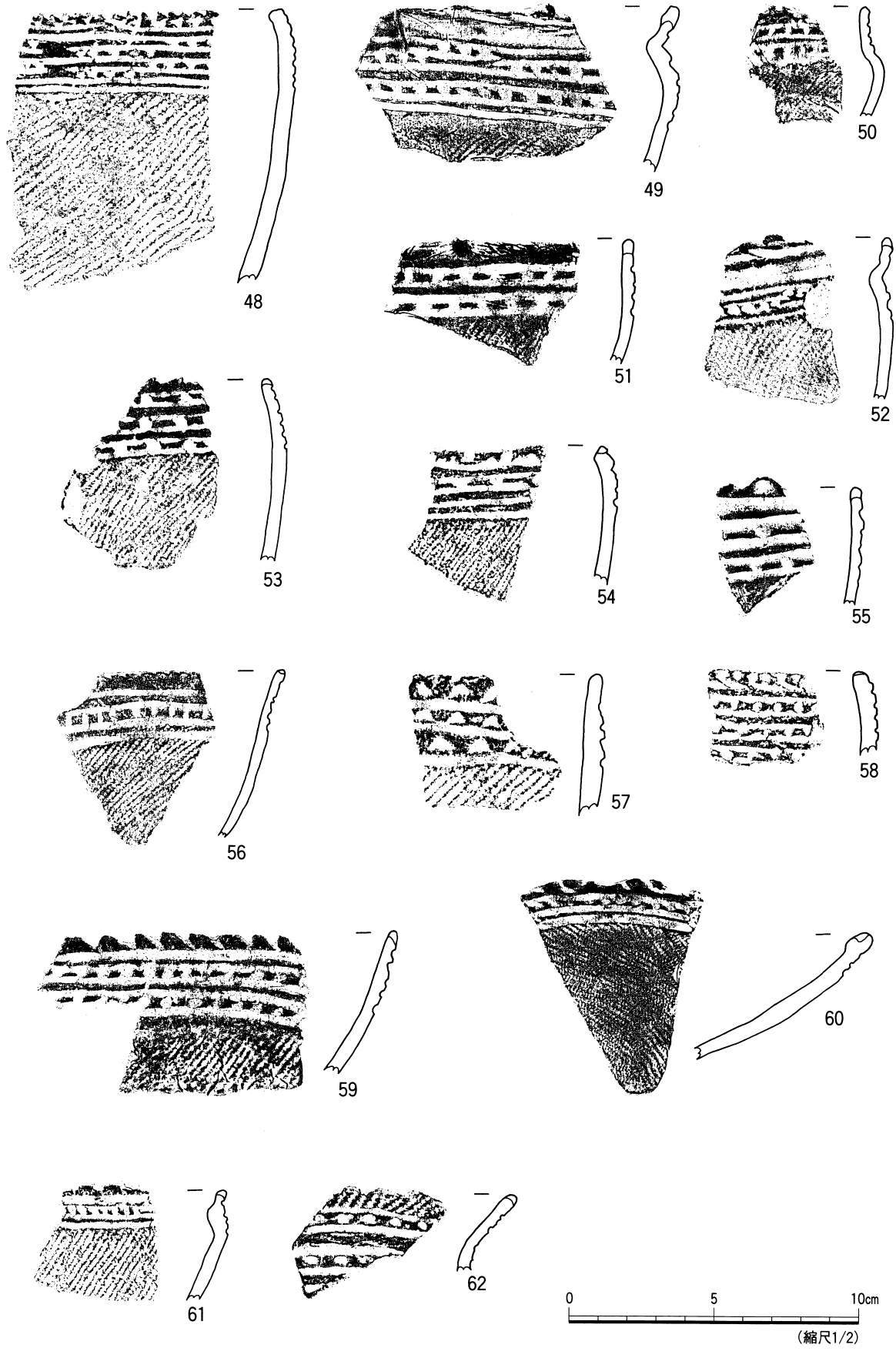


第10図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（3）

第11図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（4）

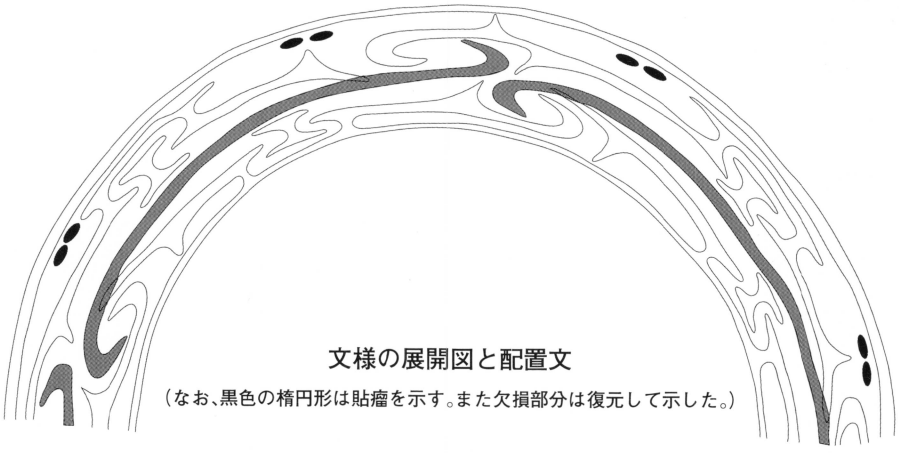


第12図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（5）



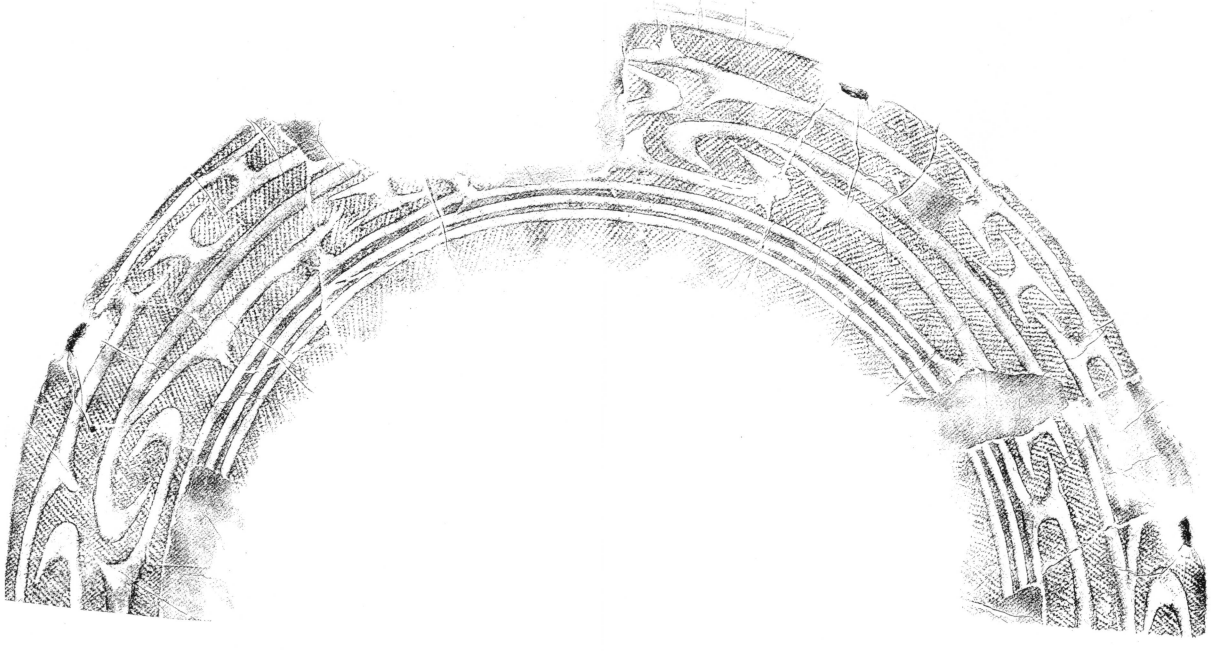
第13図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（6）

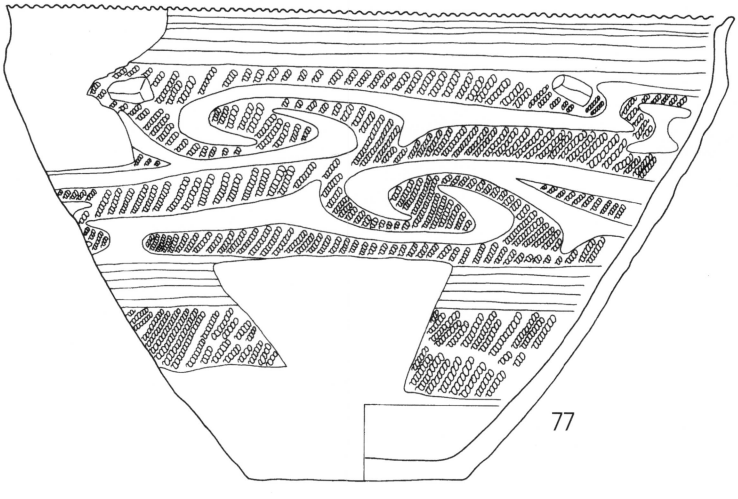
第14図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（7）



文様の展開図と配置文

（なお、黒色の楕円形は貼瘤を示す。また欠損部分は復元して示した。）



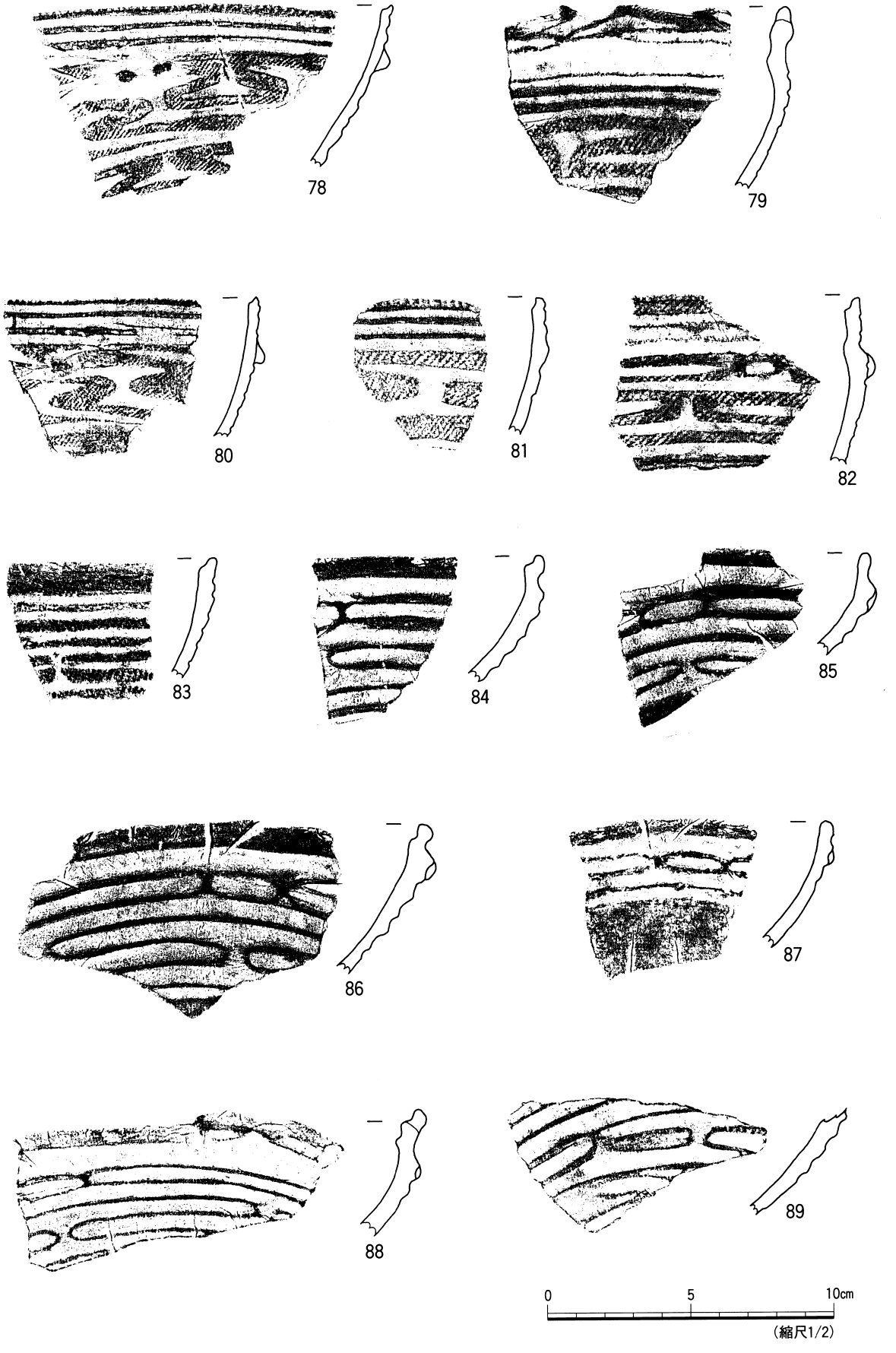


（※ただし、拓本と展開図の縮尺は一定していない。）

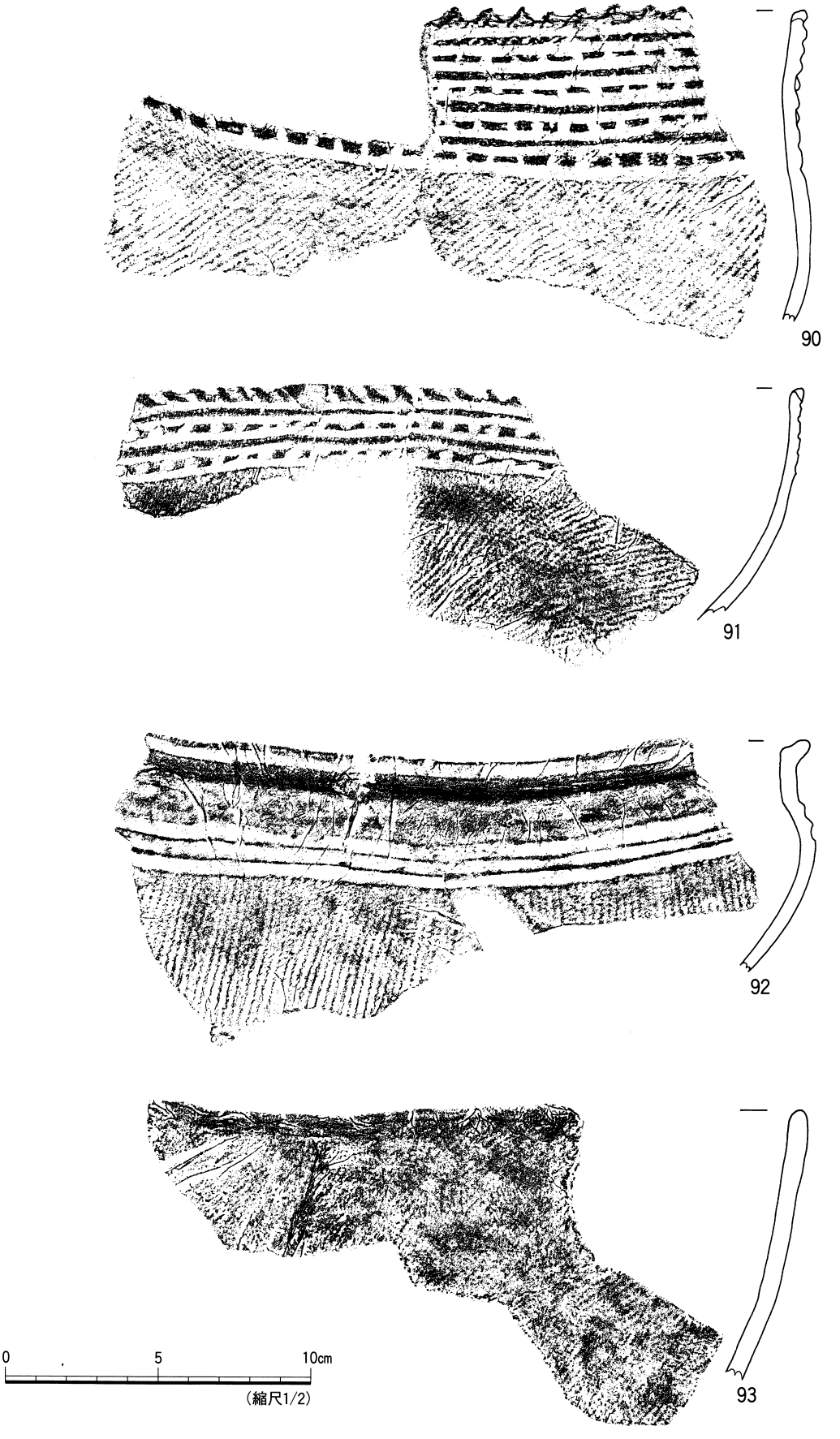
0　5　10cm

（縮尺1/2）

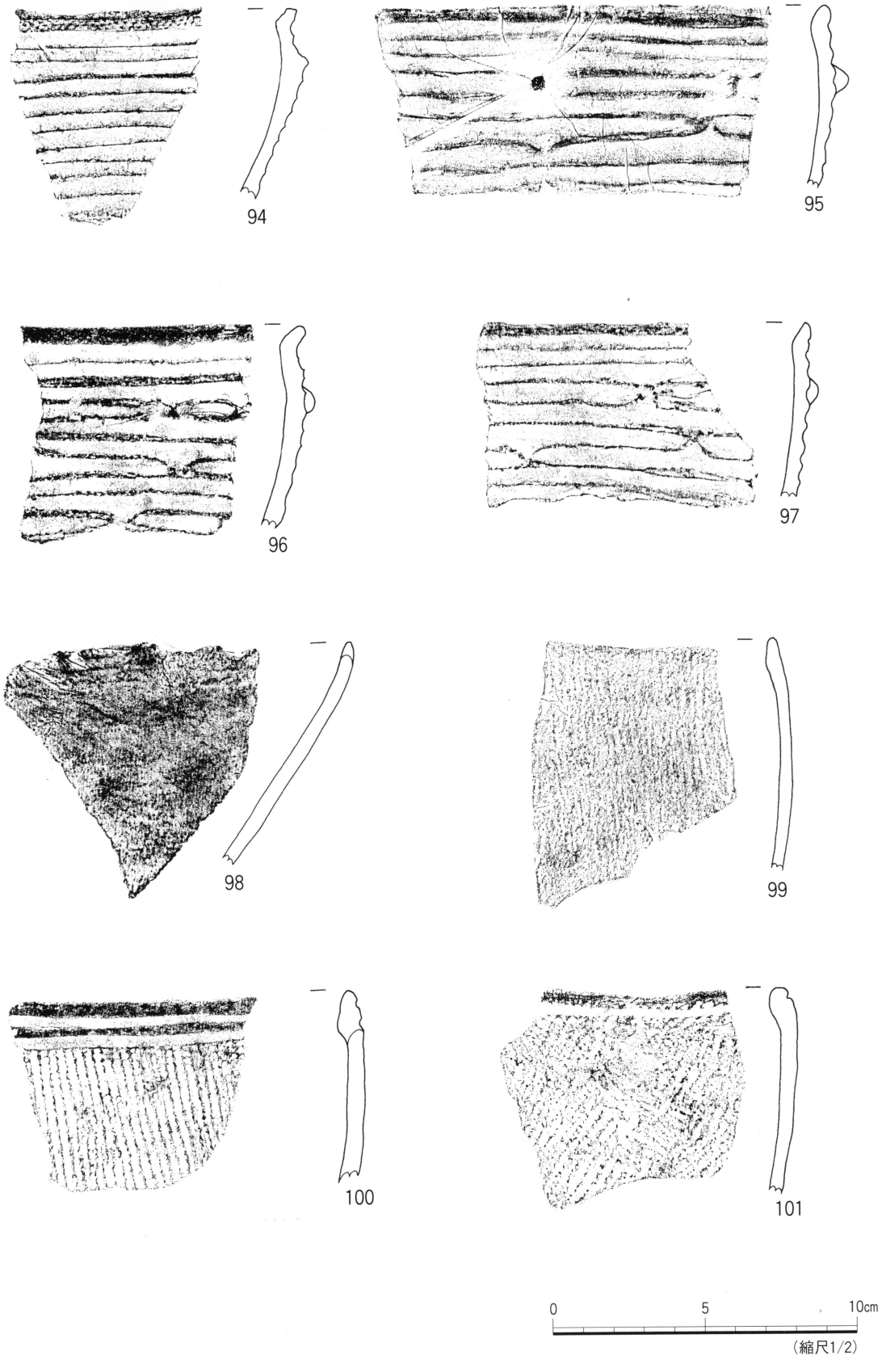
第15図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（8）



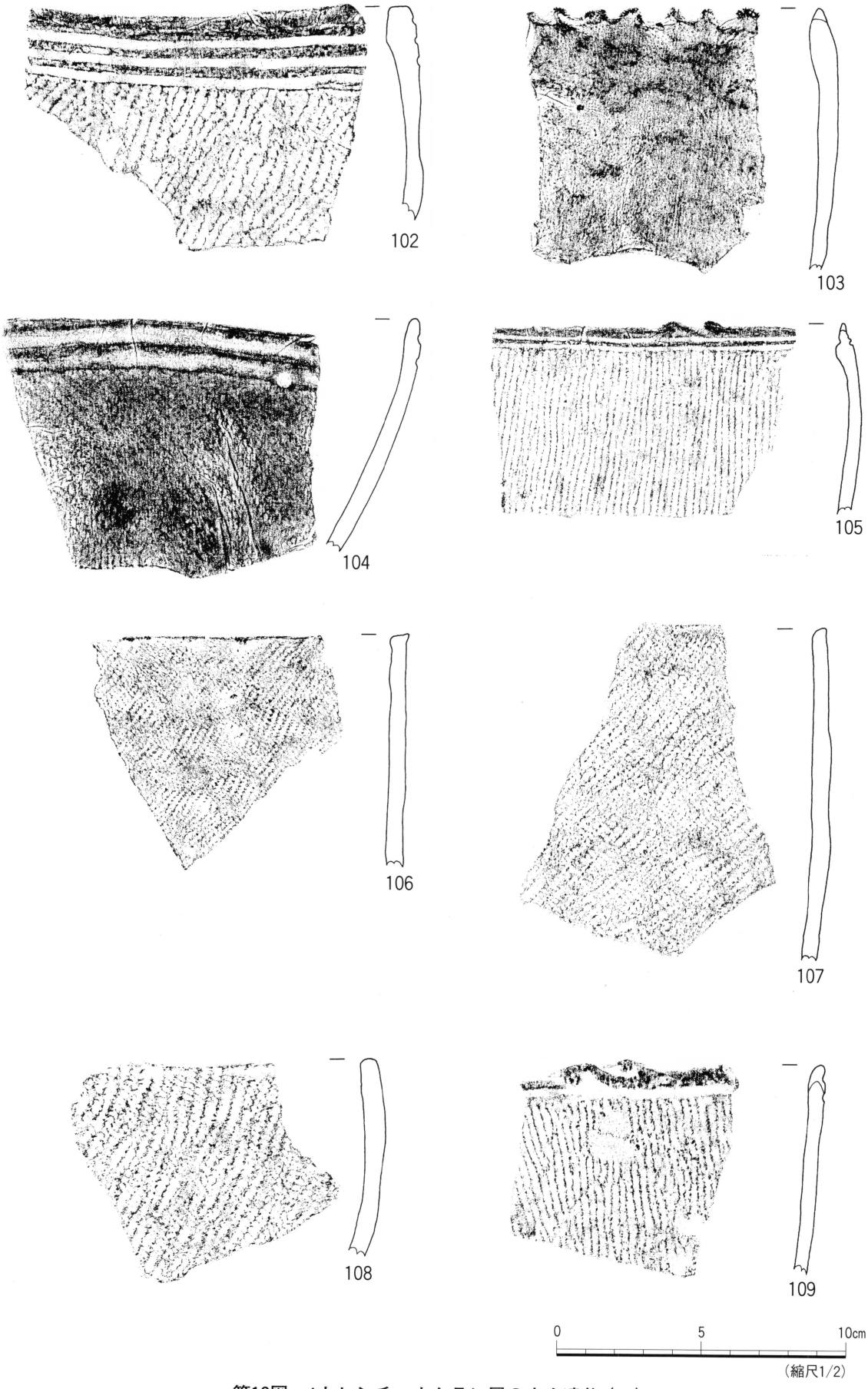
第15図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（9）



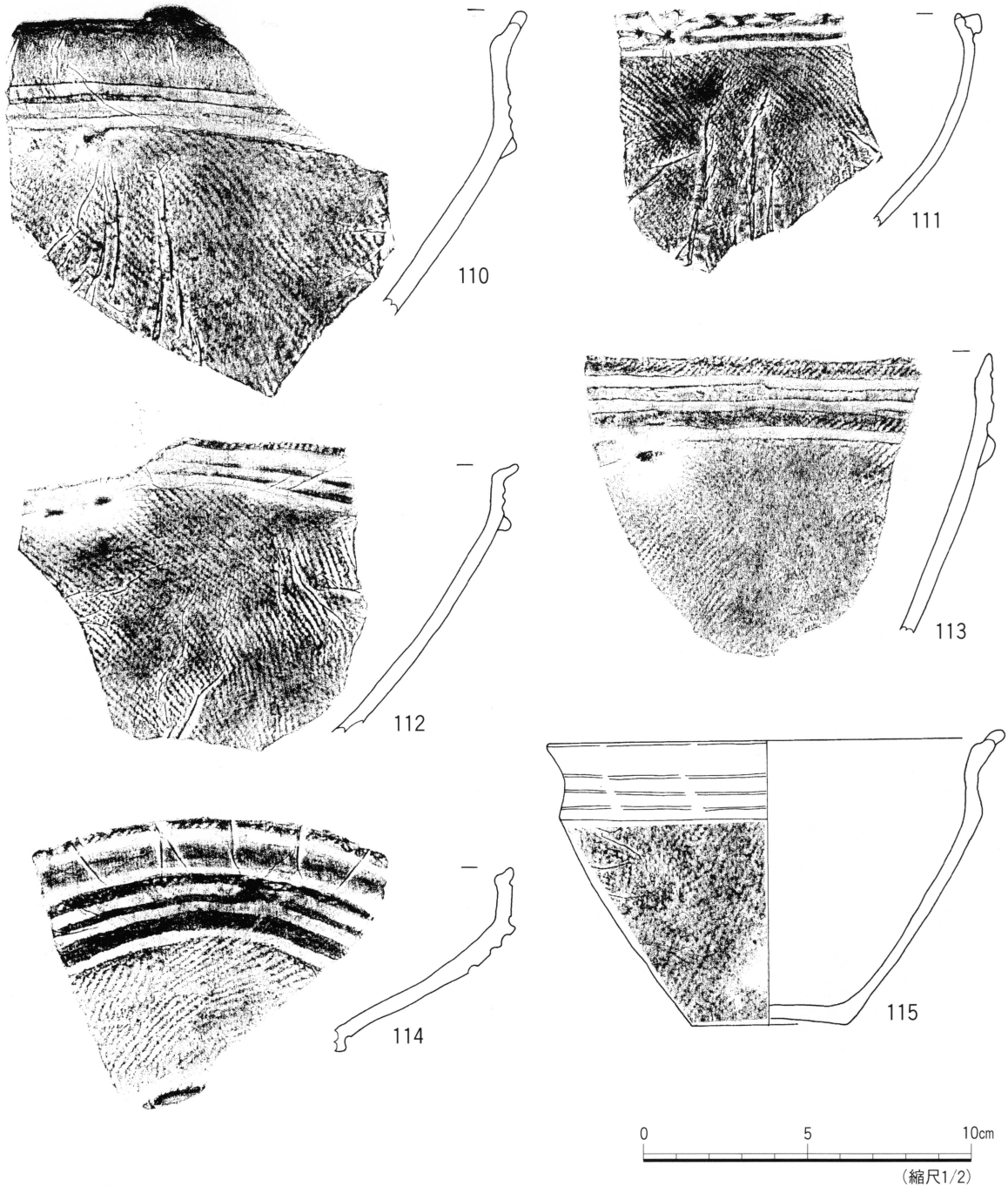
第17図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物 (10)



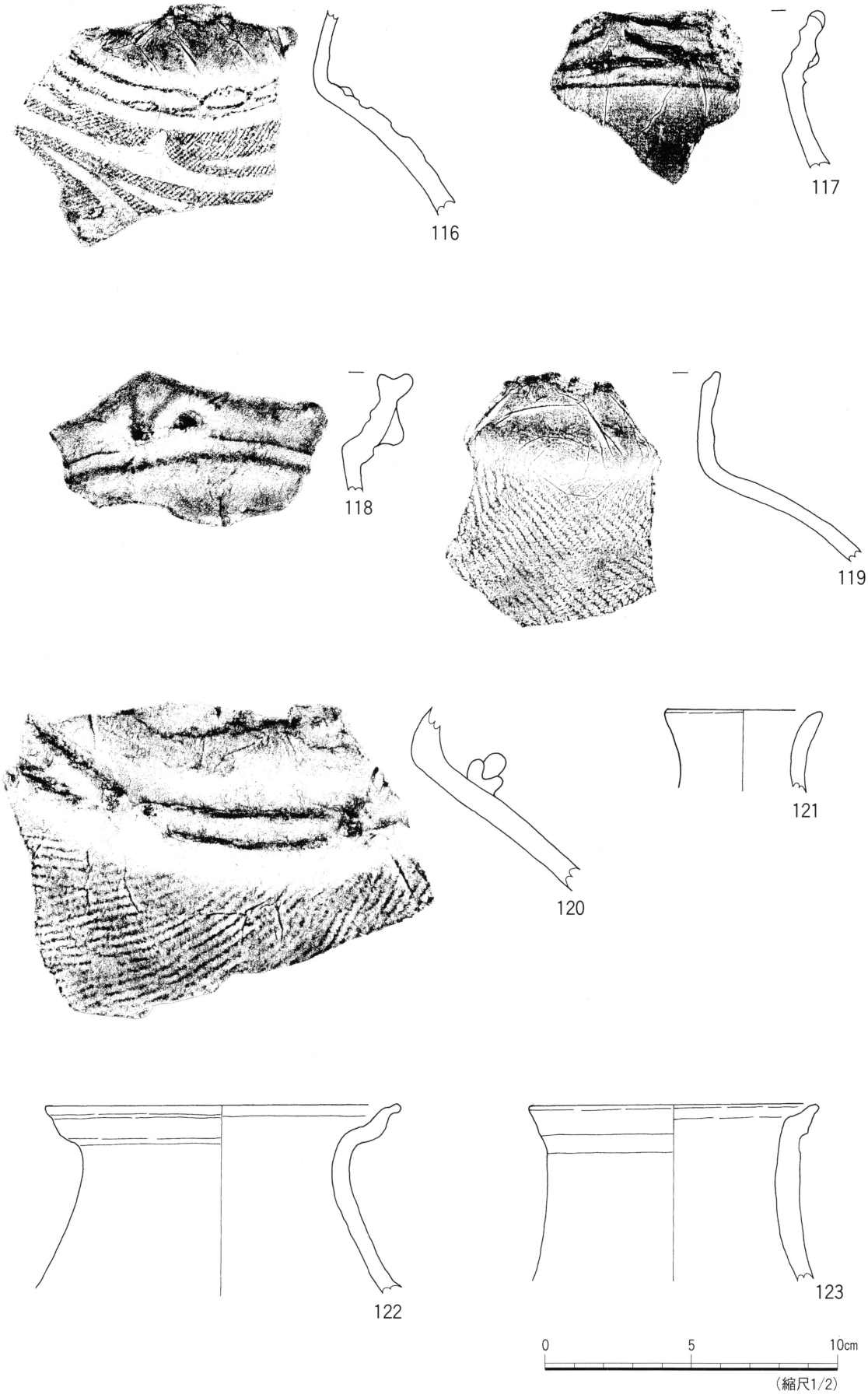
第18図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（11）



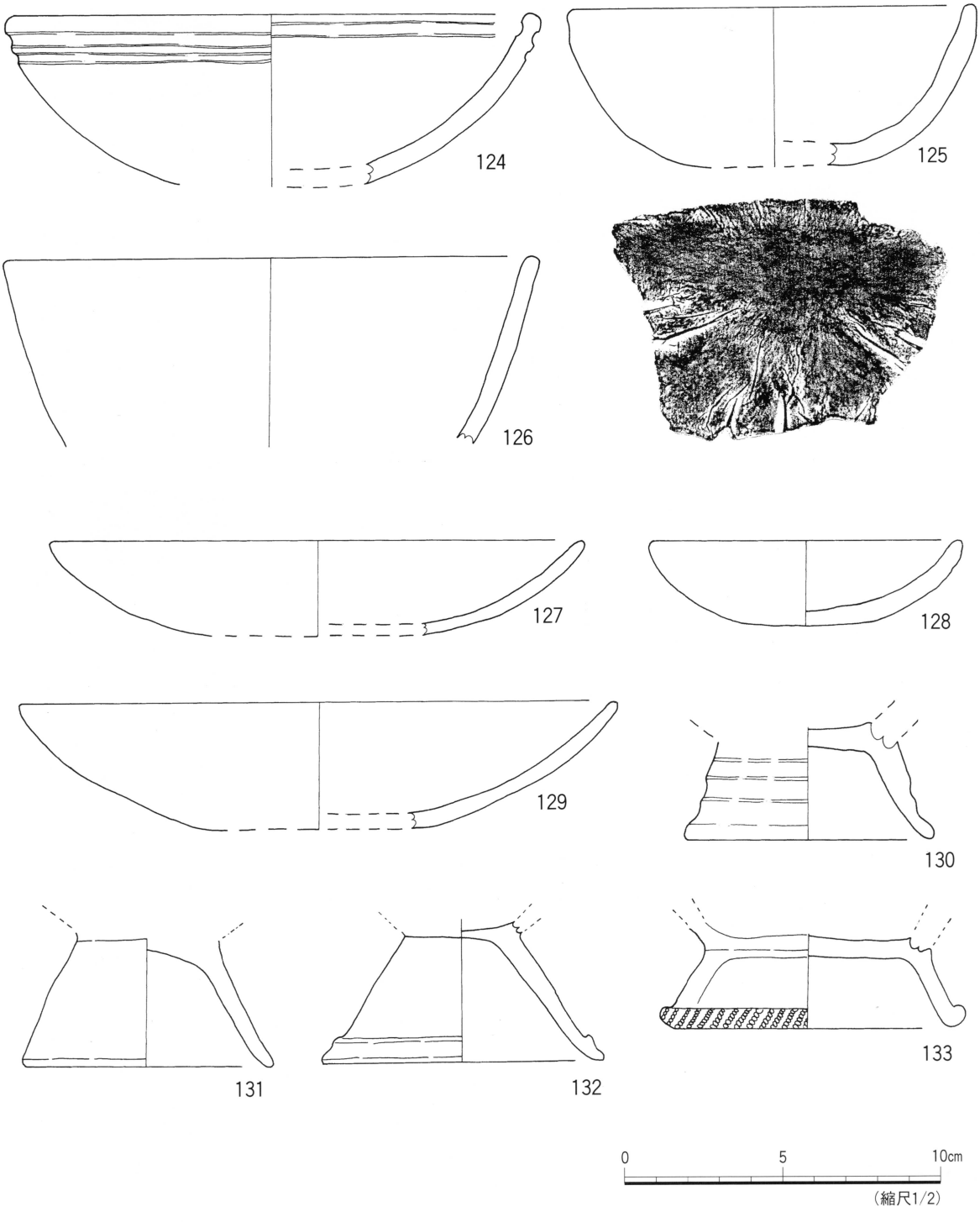
第19図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物 (12)



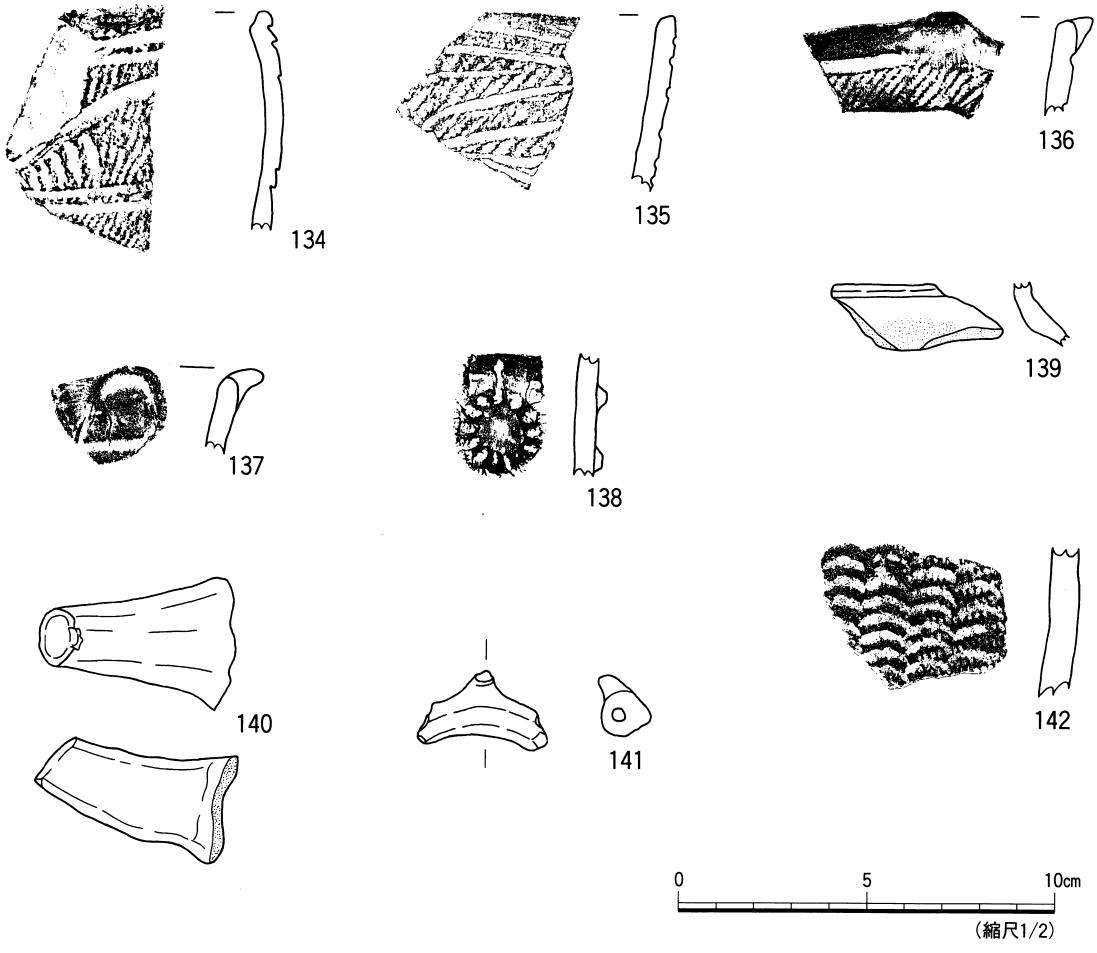
第20図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物 (13)



第21図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物（14）

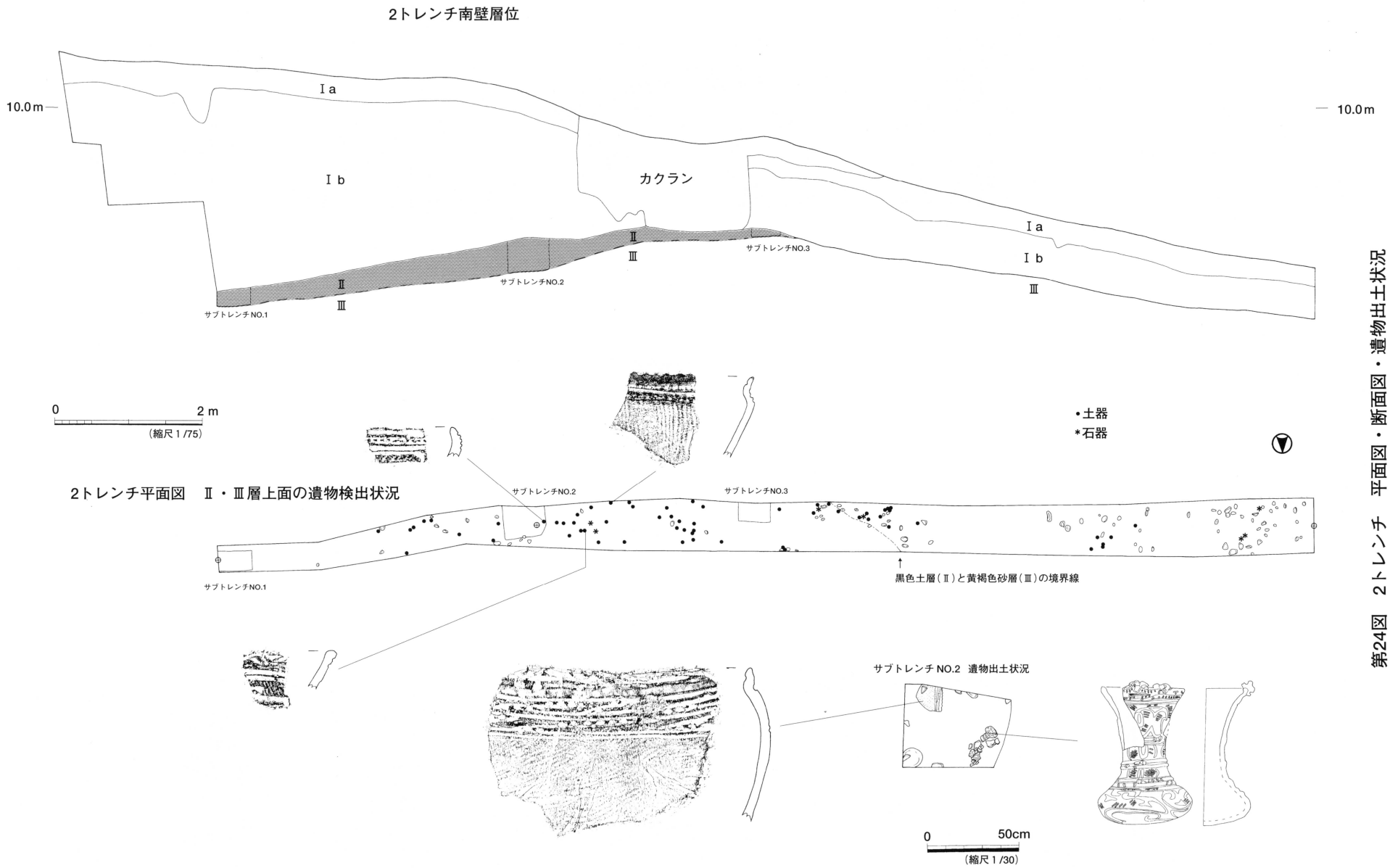


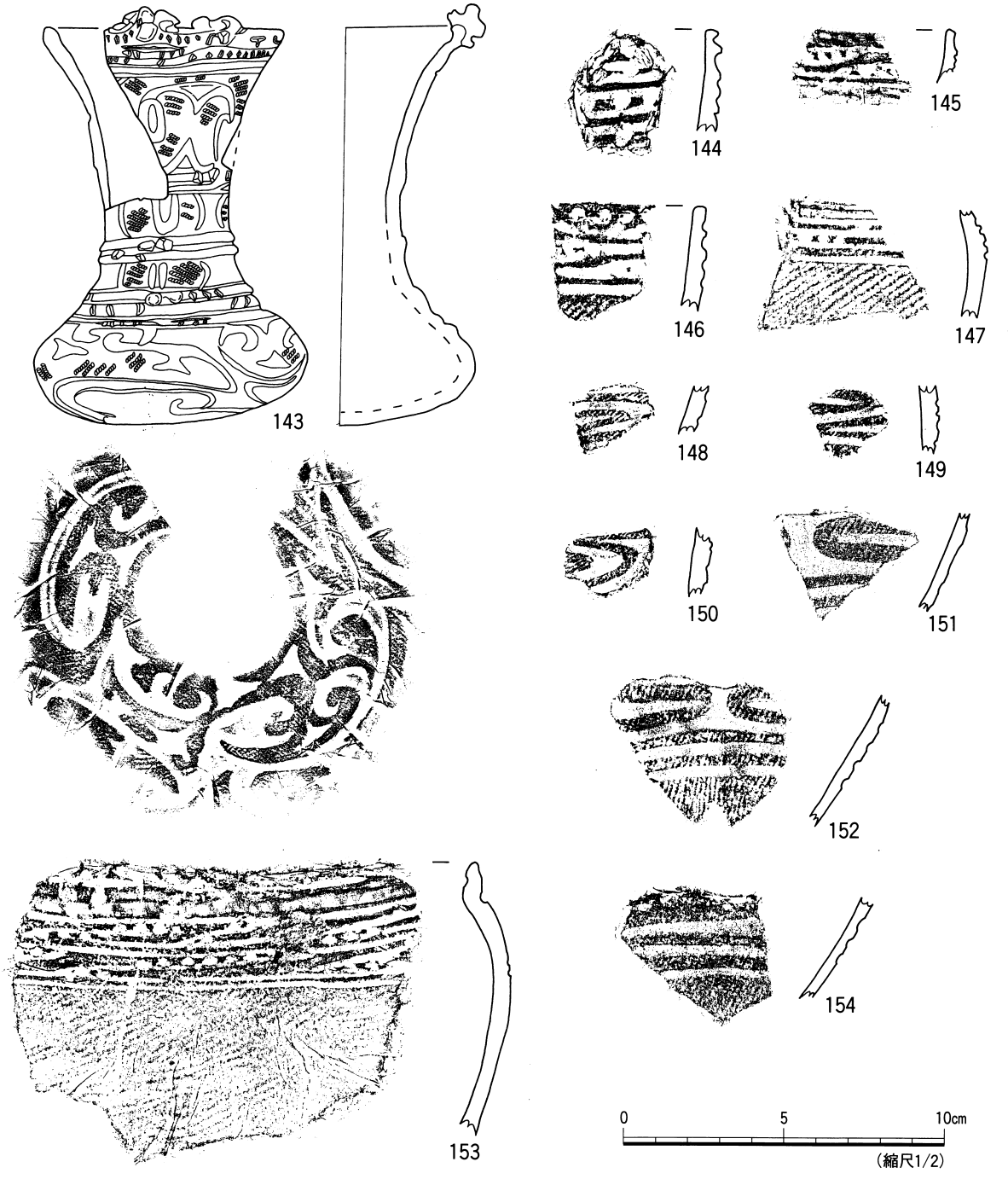
第22図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物 (15)



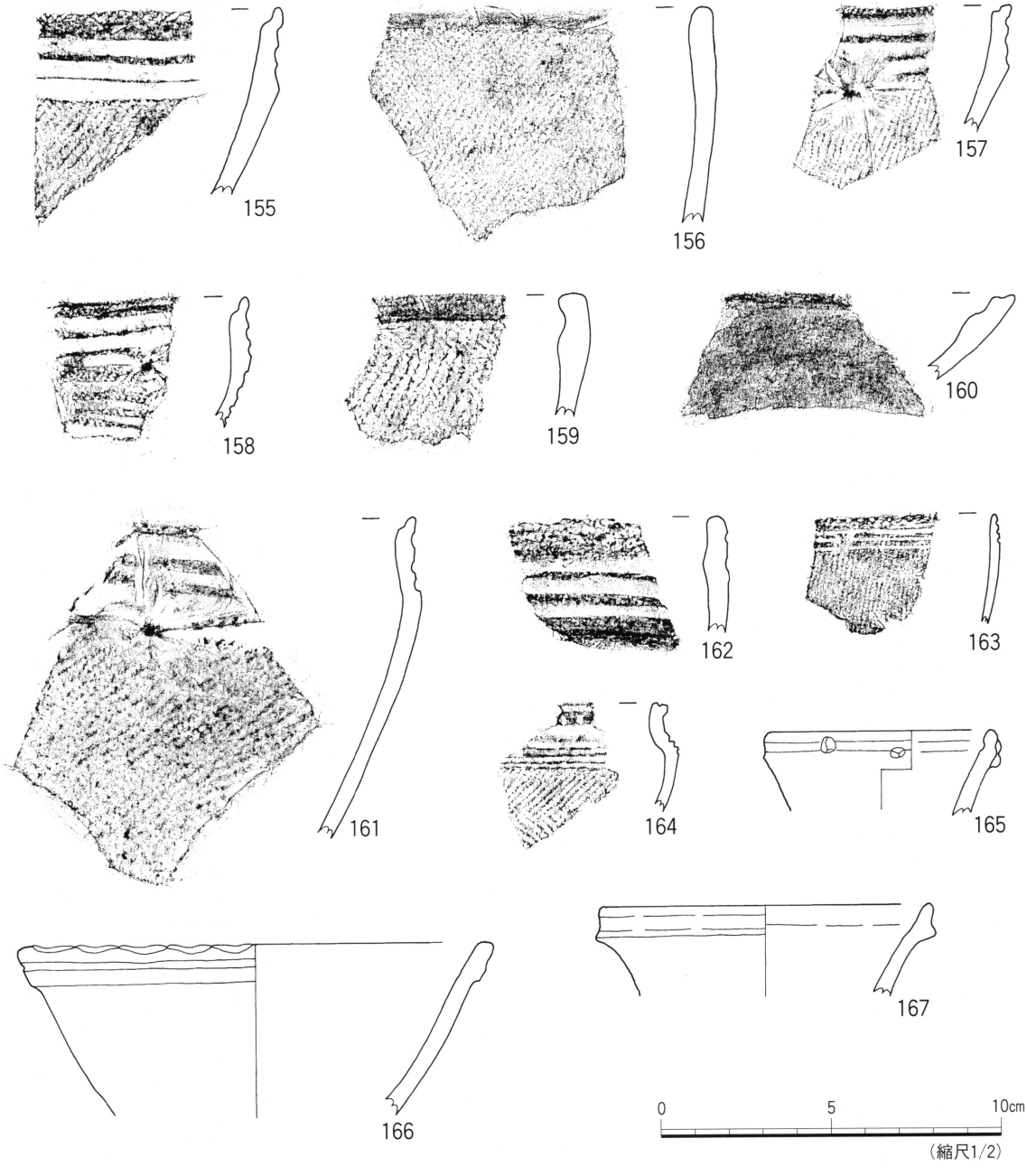
第23図　1トレンチ　カクラン層の出土遺物 (16)

第24図　2トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況

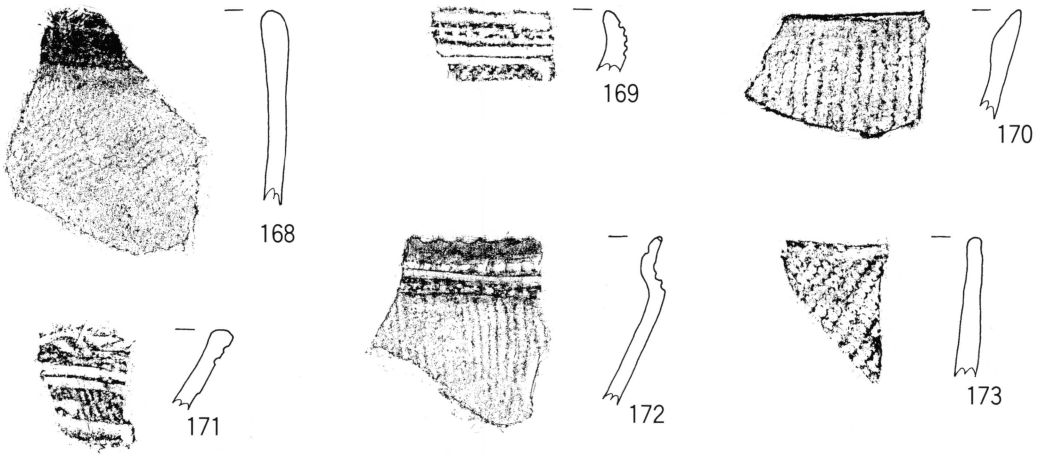




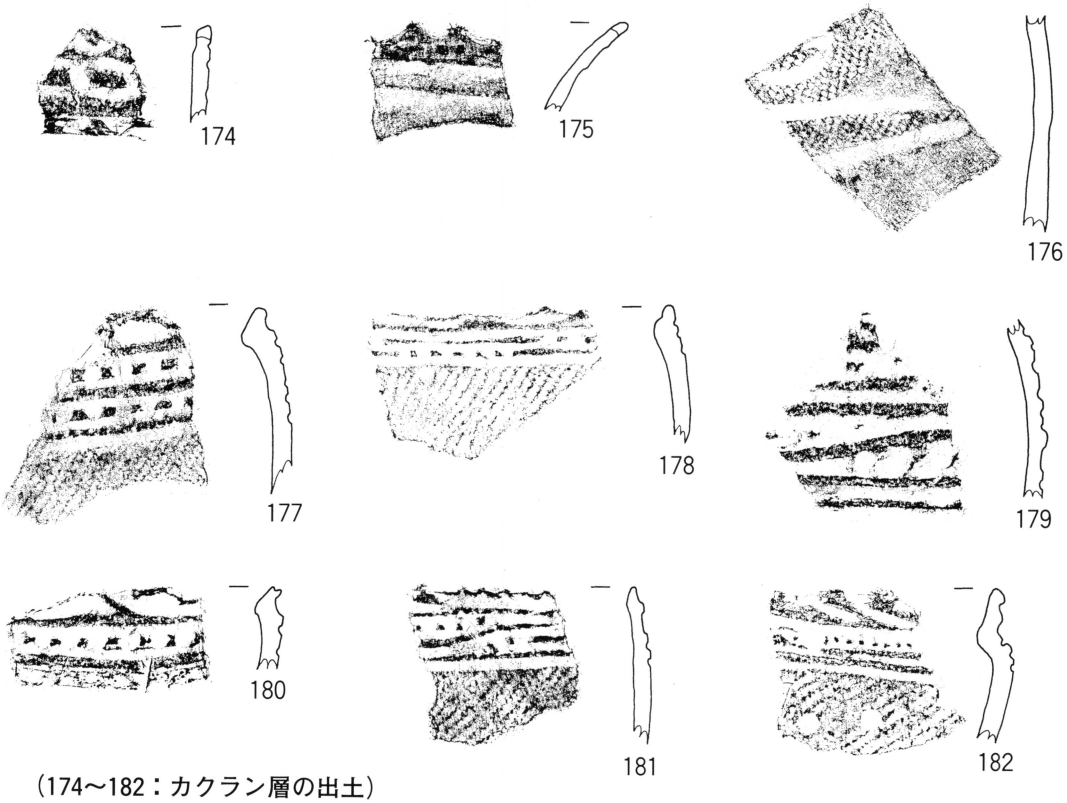
第25図　2トレンチ　黒色土層(Ⅱ層)・サブトレンチNo. 2の出土遺物(1)



第26図　2トレンチ　黒色土層(Ⅱ層)・ザフトレンチNo. 2の出土遺物(2)



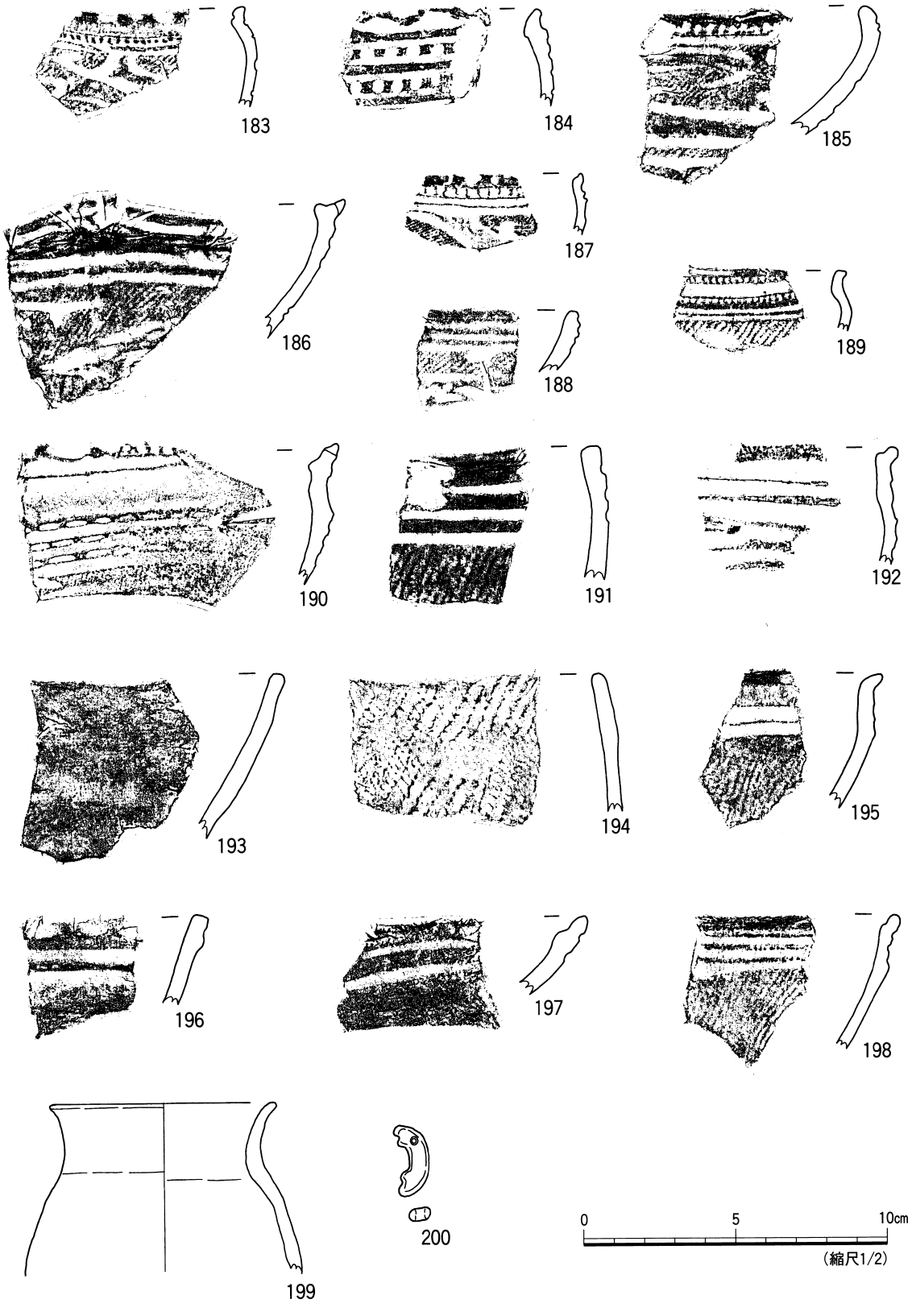
（168～173：黒色土層の一括出土）



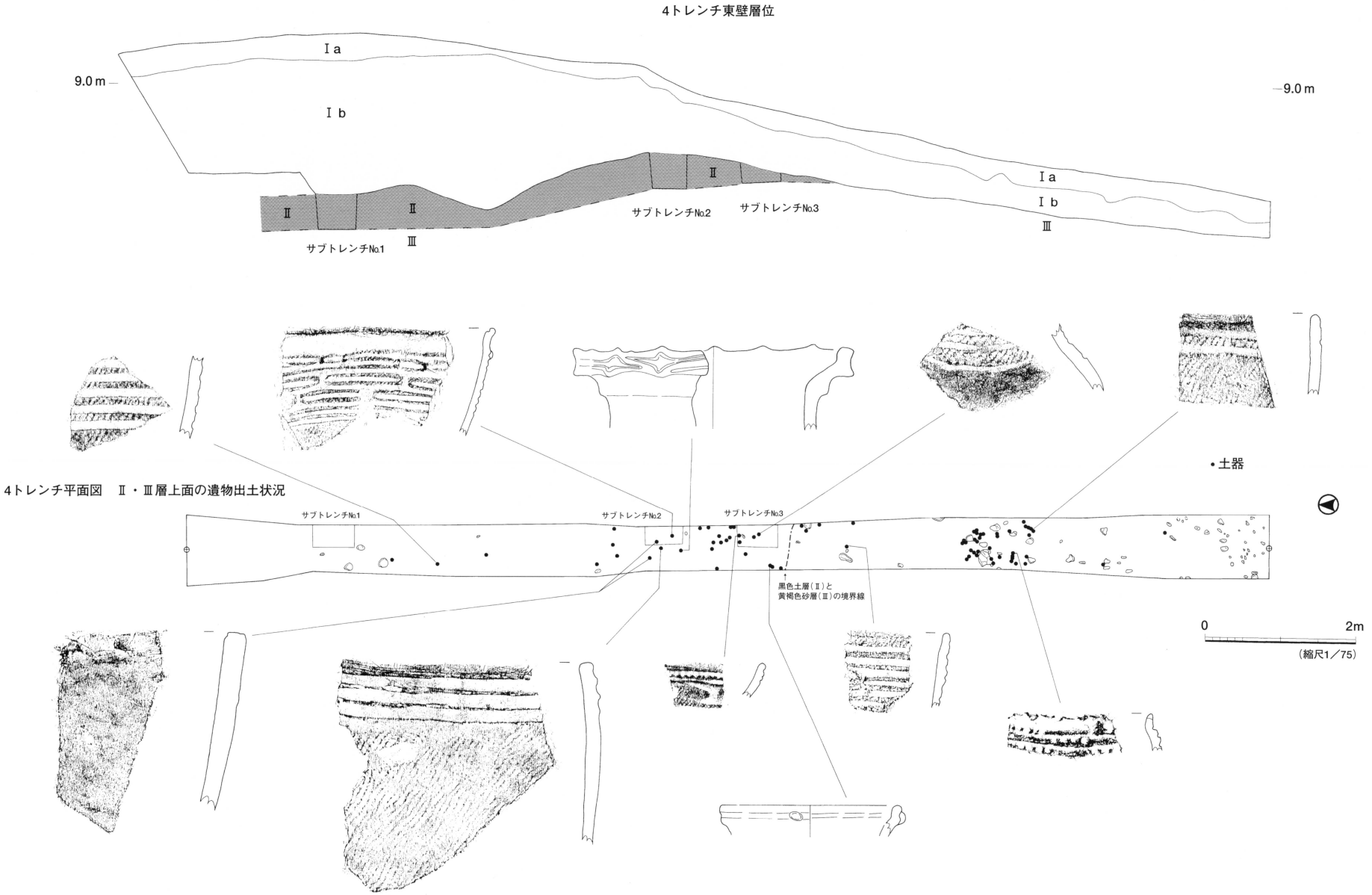
（174～182：カクラン層の出土）

0　5　10cm
（縮尺1/2）

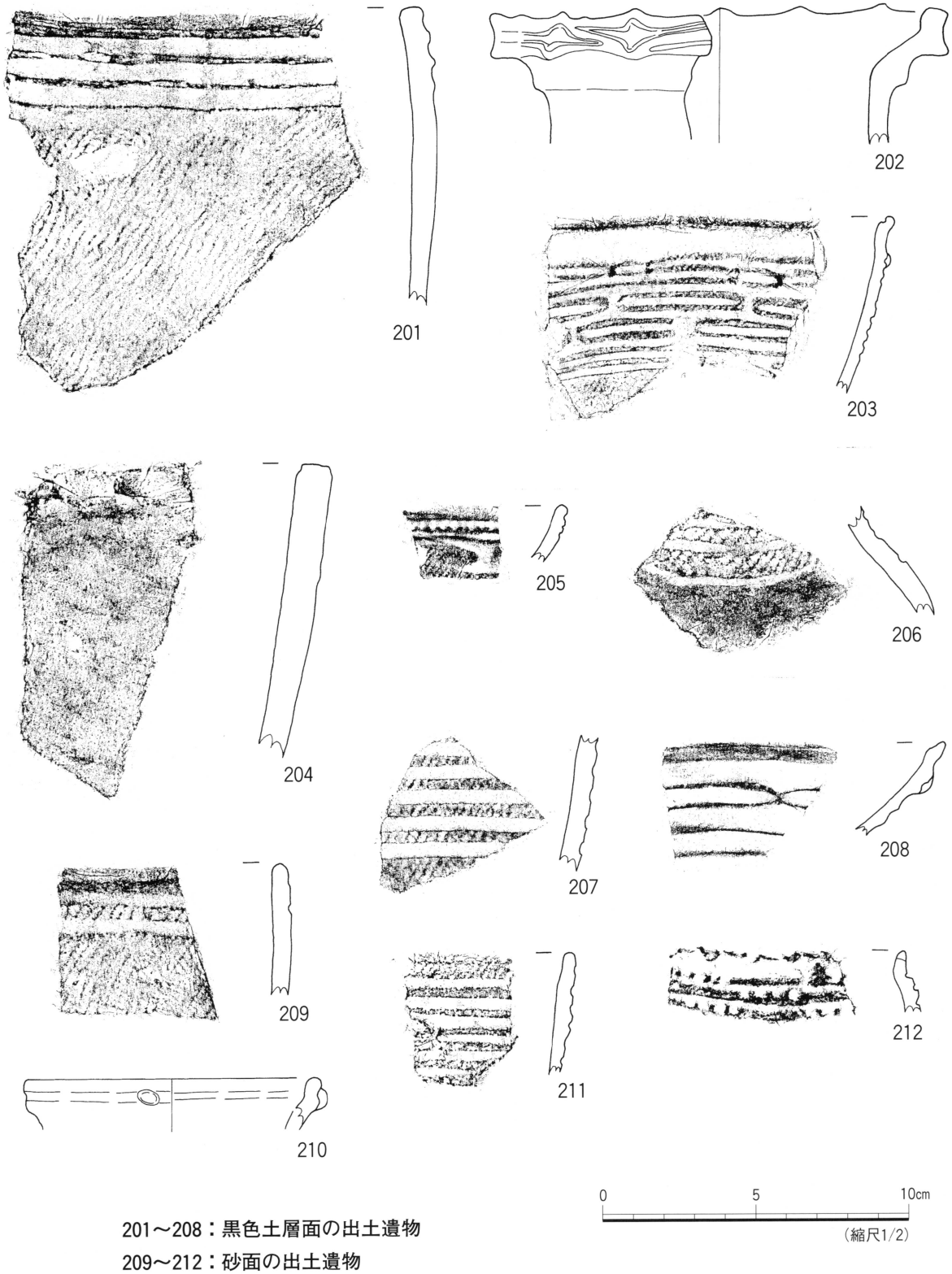
第27図　2トレンチ　黒色土層（Ⅱ層）一括とカクラン層の出土遺物（3）



第28図　2トレンチ　カクラン層の出土遺物（4）



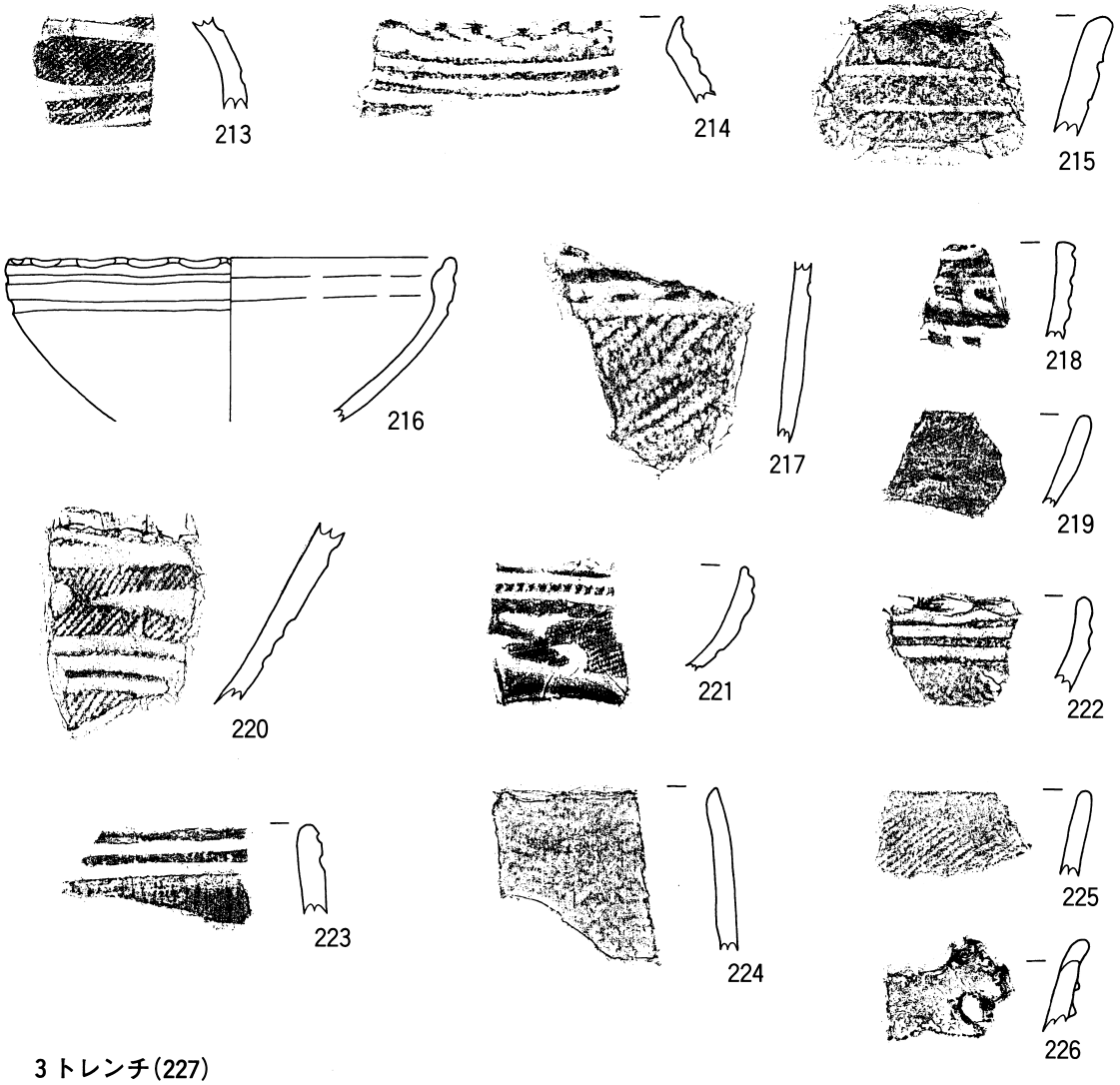
第29図　4トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



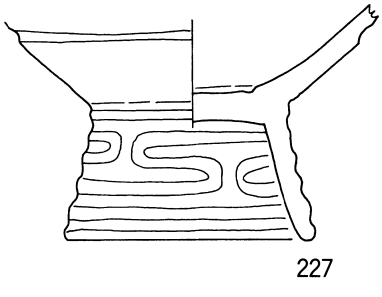
201～208：黒色土層面の出土遺物
209～212：砂面の出土遺物

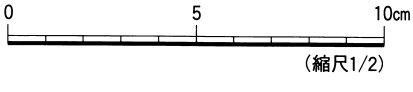
第30図　4トレンチ　出土遺物（1）

4 トレンチ(213〜226)

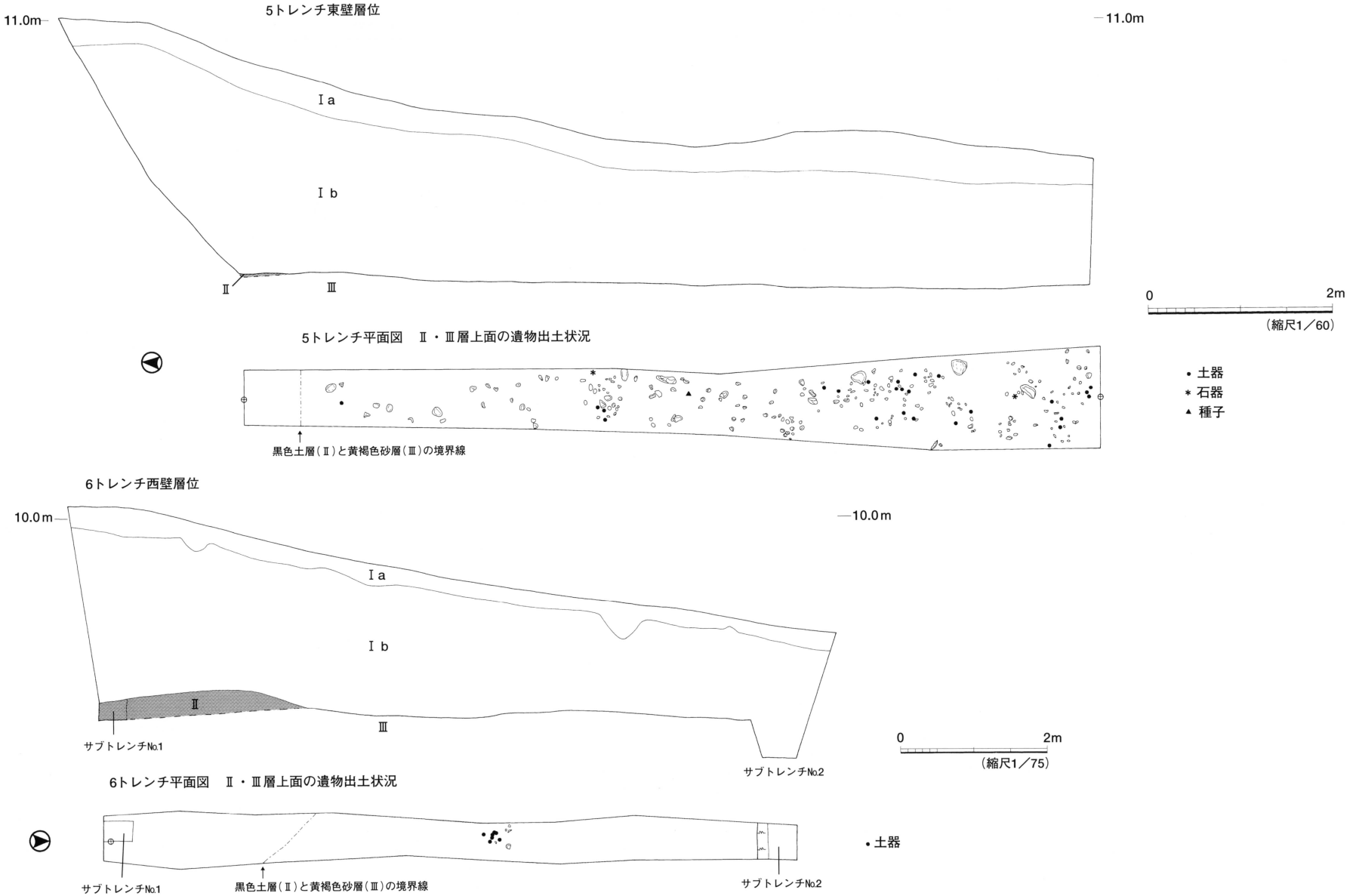


3 トレンチ(227)

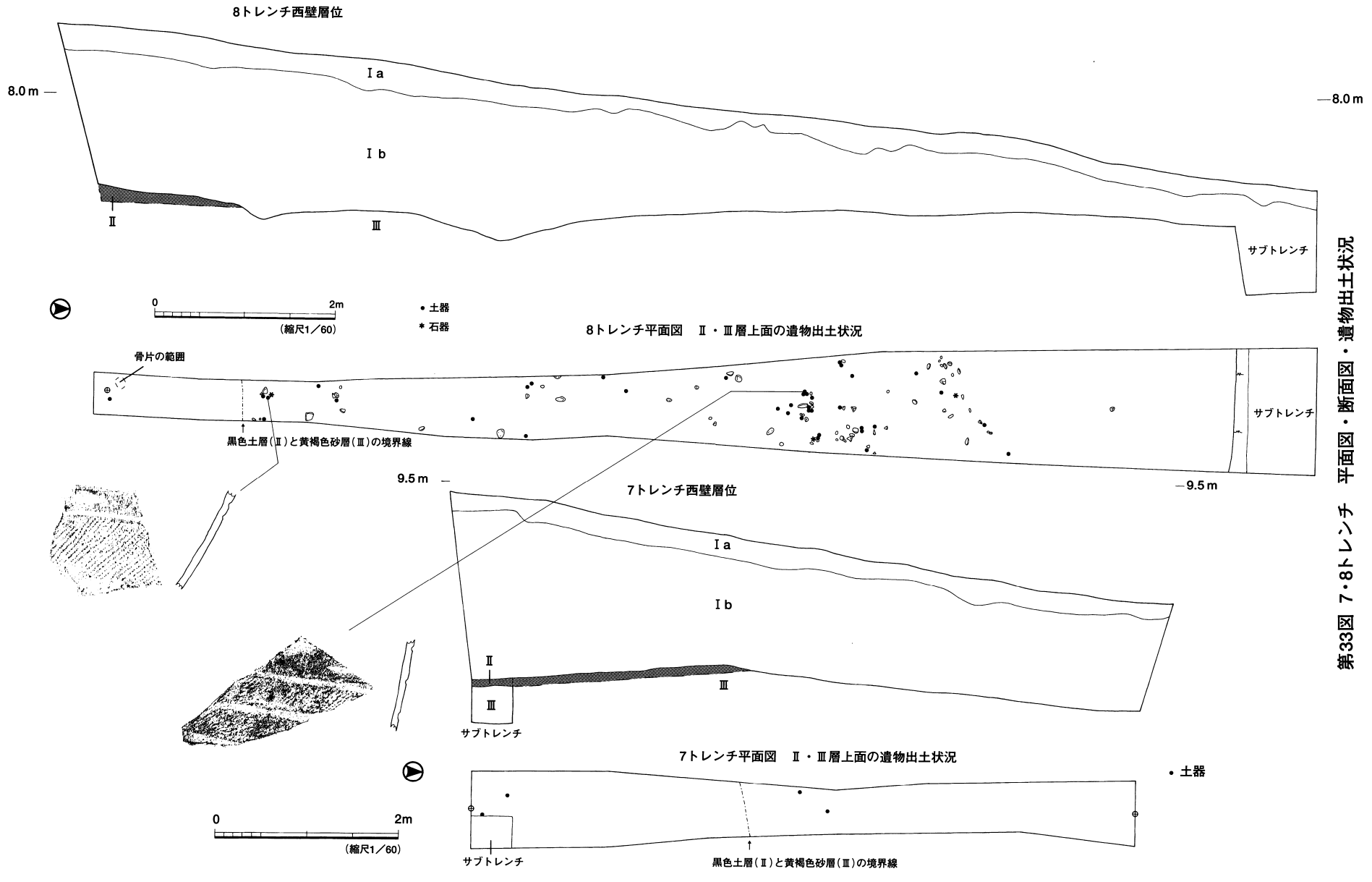




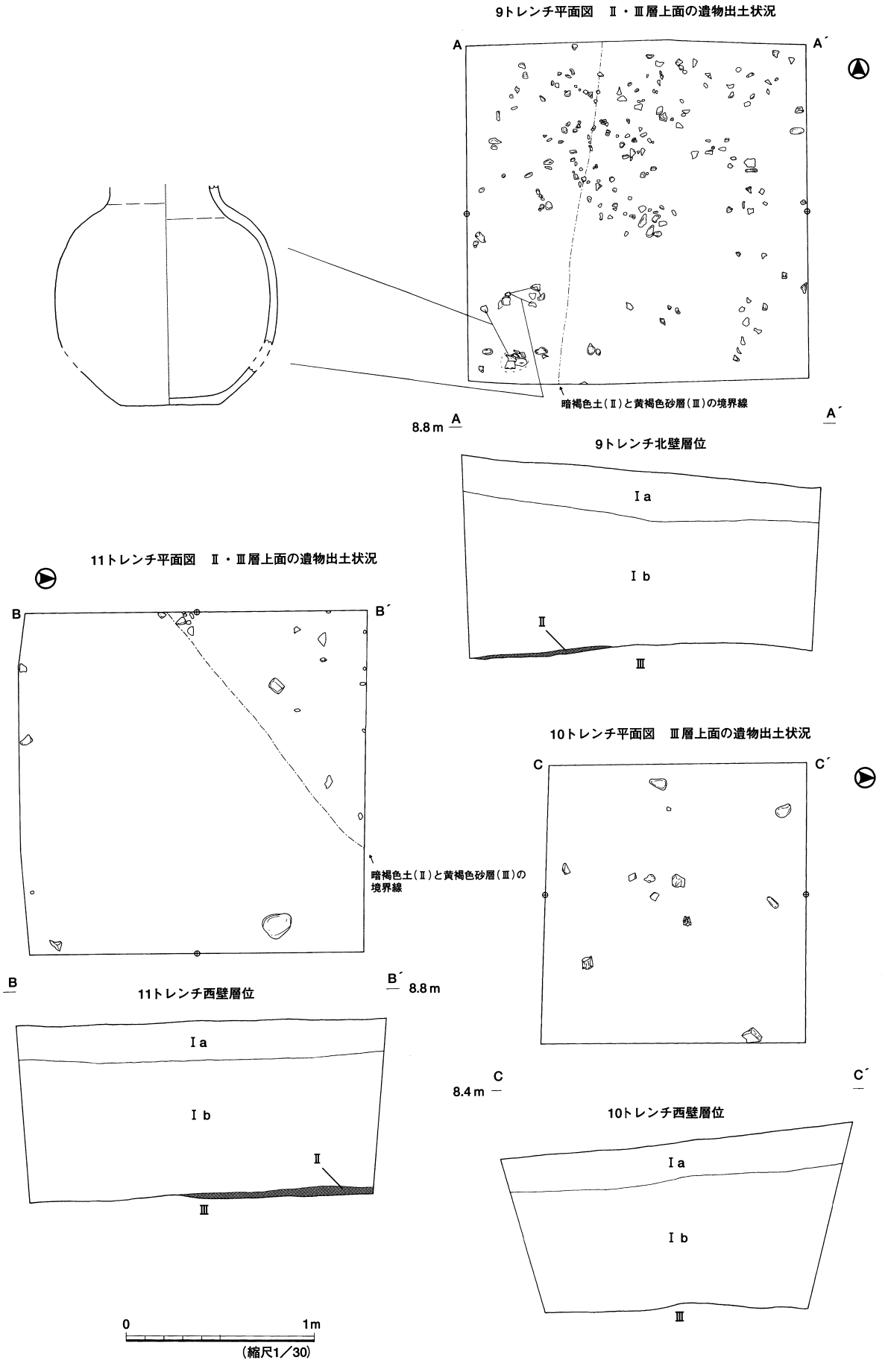
第31図　4・3トレンチ　出土遺物（2）



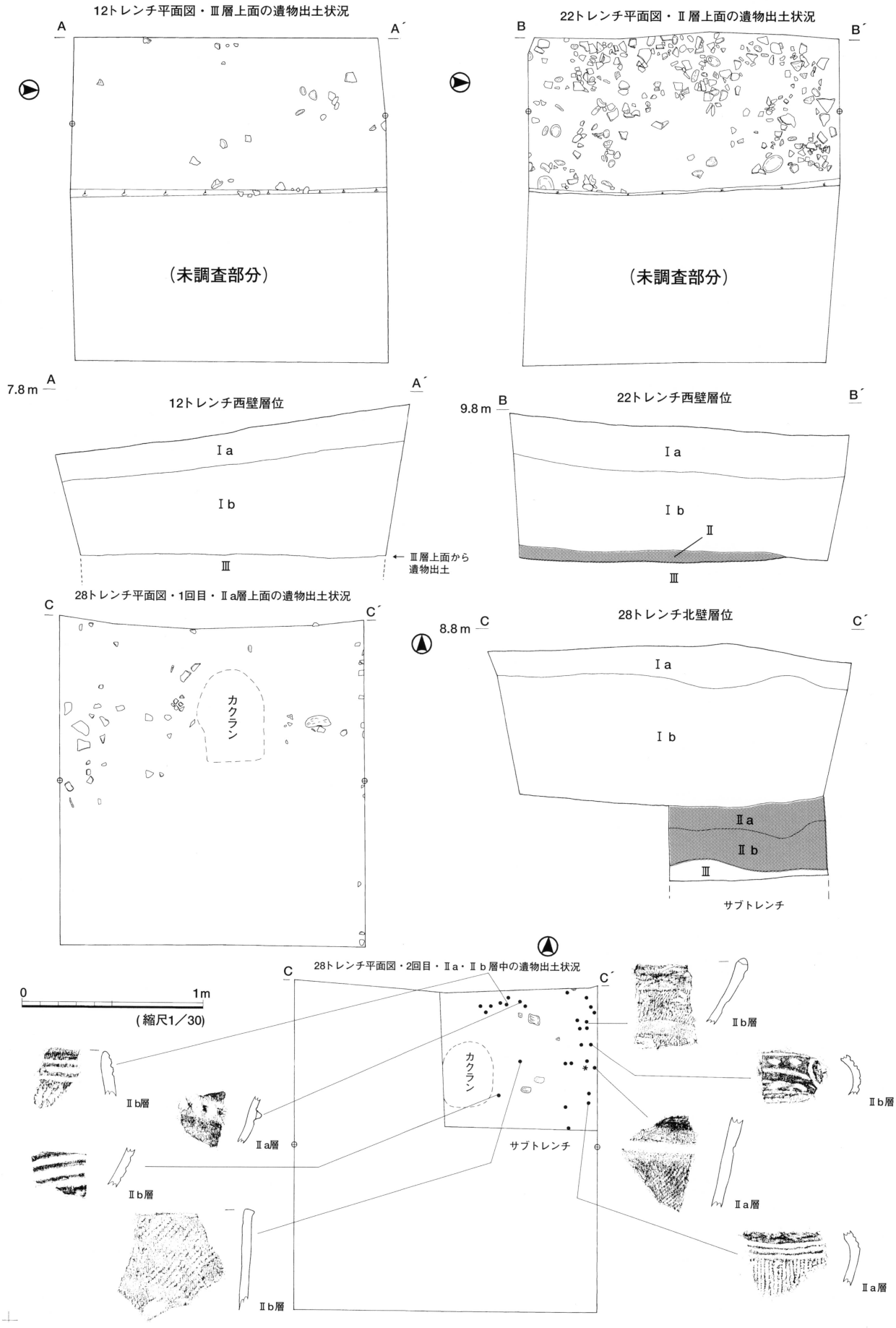
第32図　5・6トレンチ　平面図・断面図



第33図 7・8トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



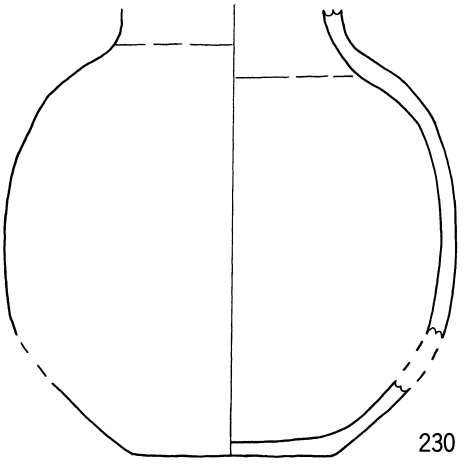
第34図　9・10・11トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



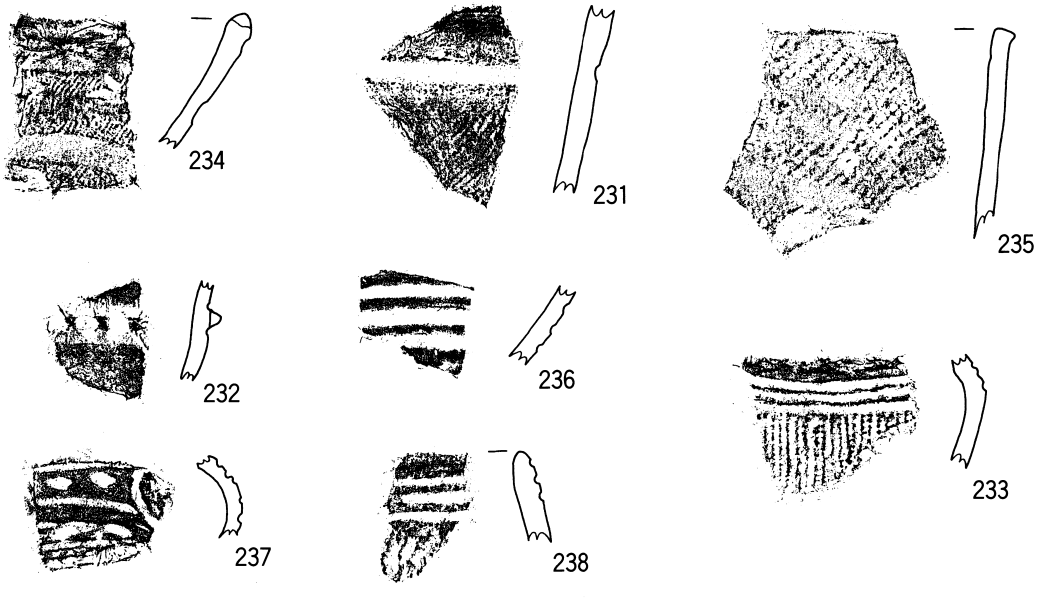
第35図　12・22・28トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況

8 トレンチ(228・229)

9 トレンチ(230)



28トレンチ(231～238)

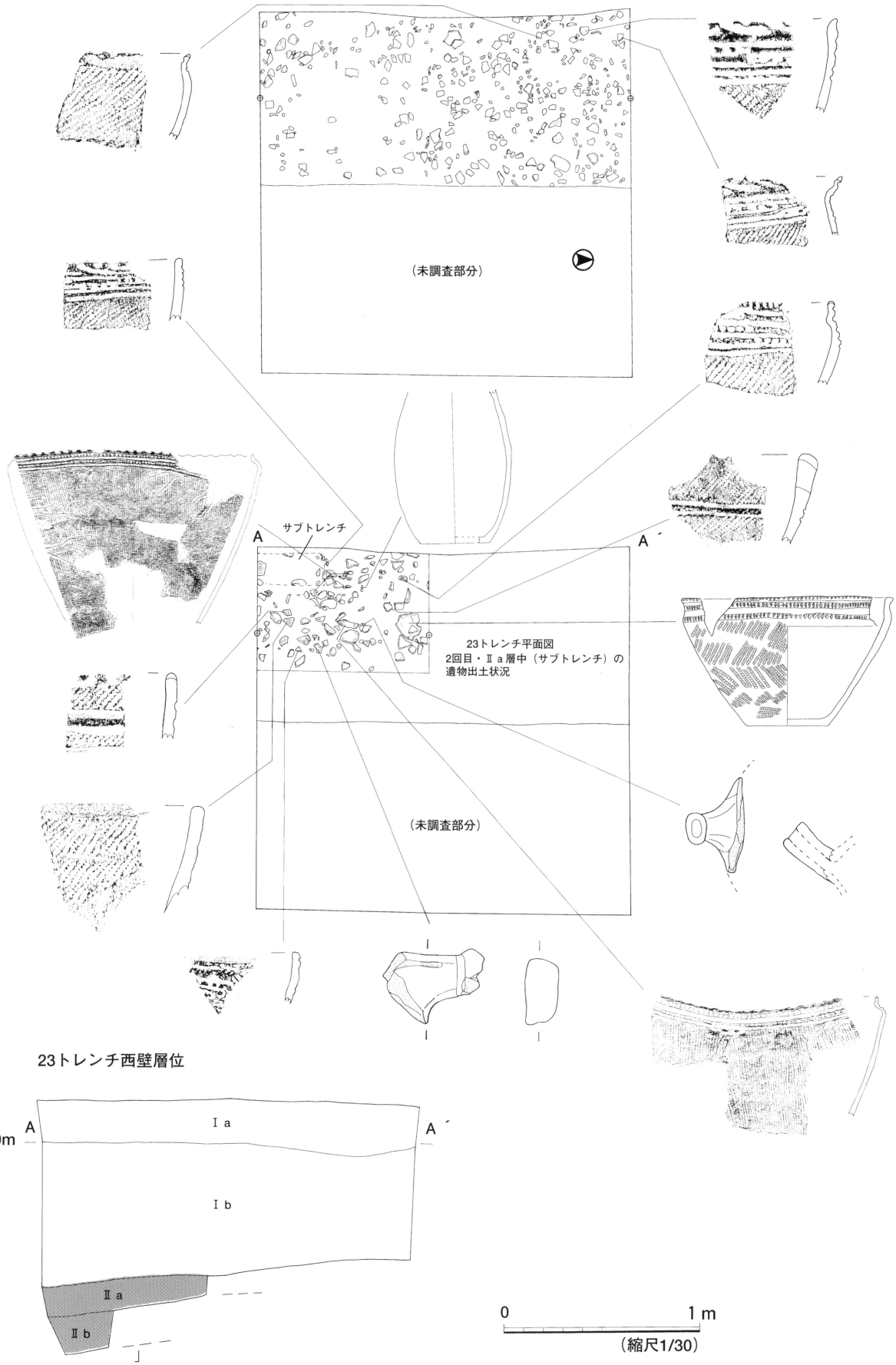


231～233：Ⅱa層の出土遺物
234～238：Ⅱb層の出土遺物

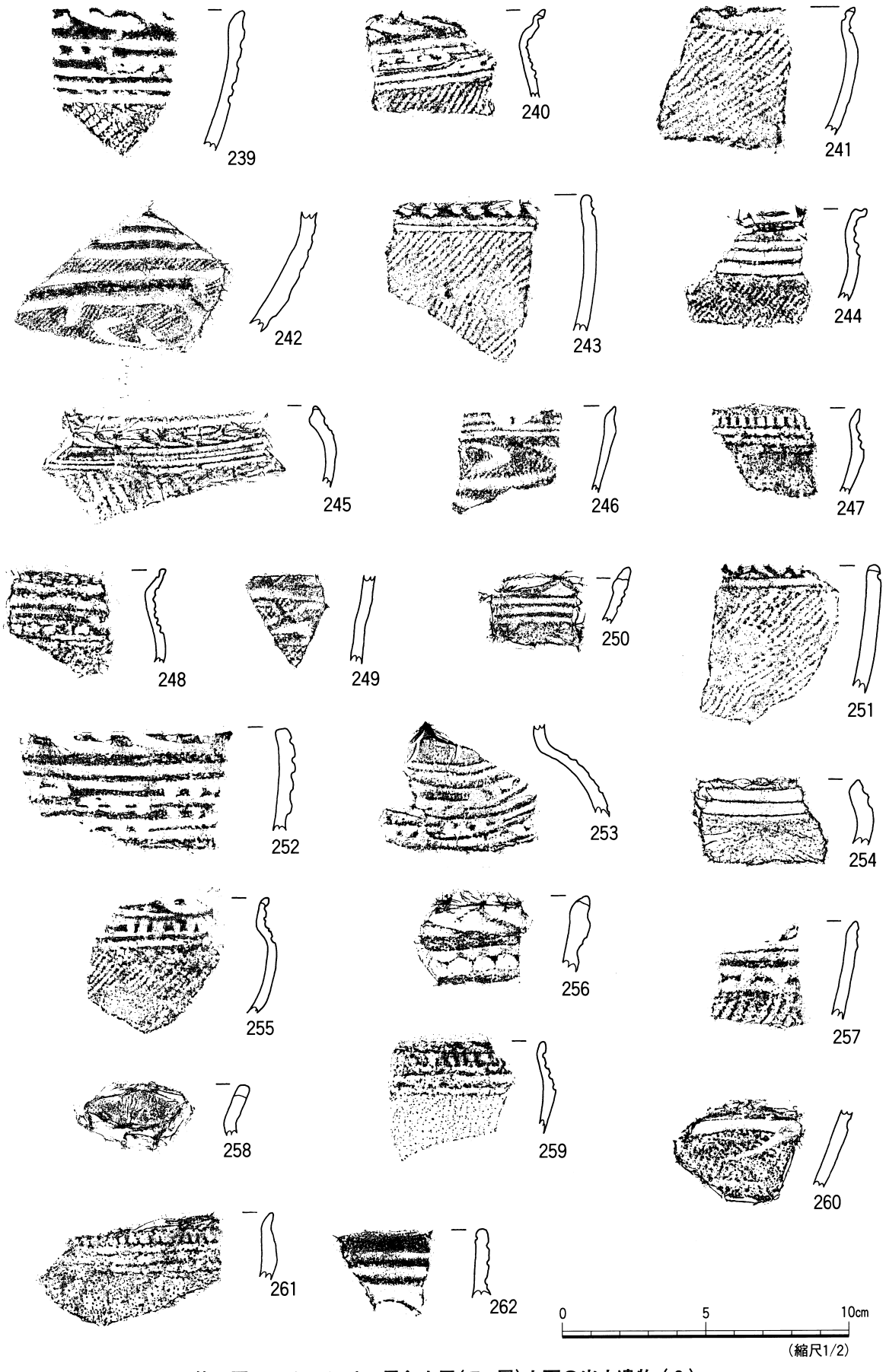
0　5　10cm
(縮尺1/2)

第36図　8・9・28トレンチ　出土遺物

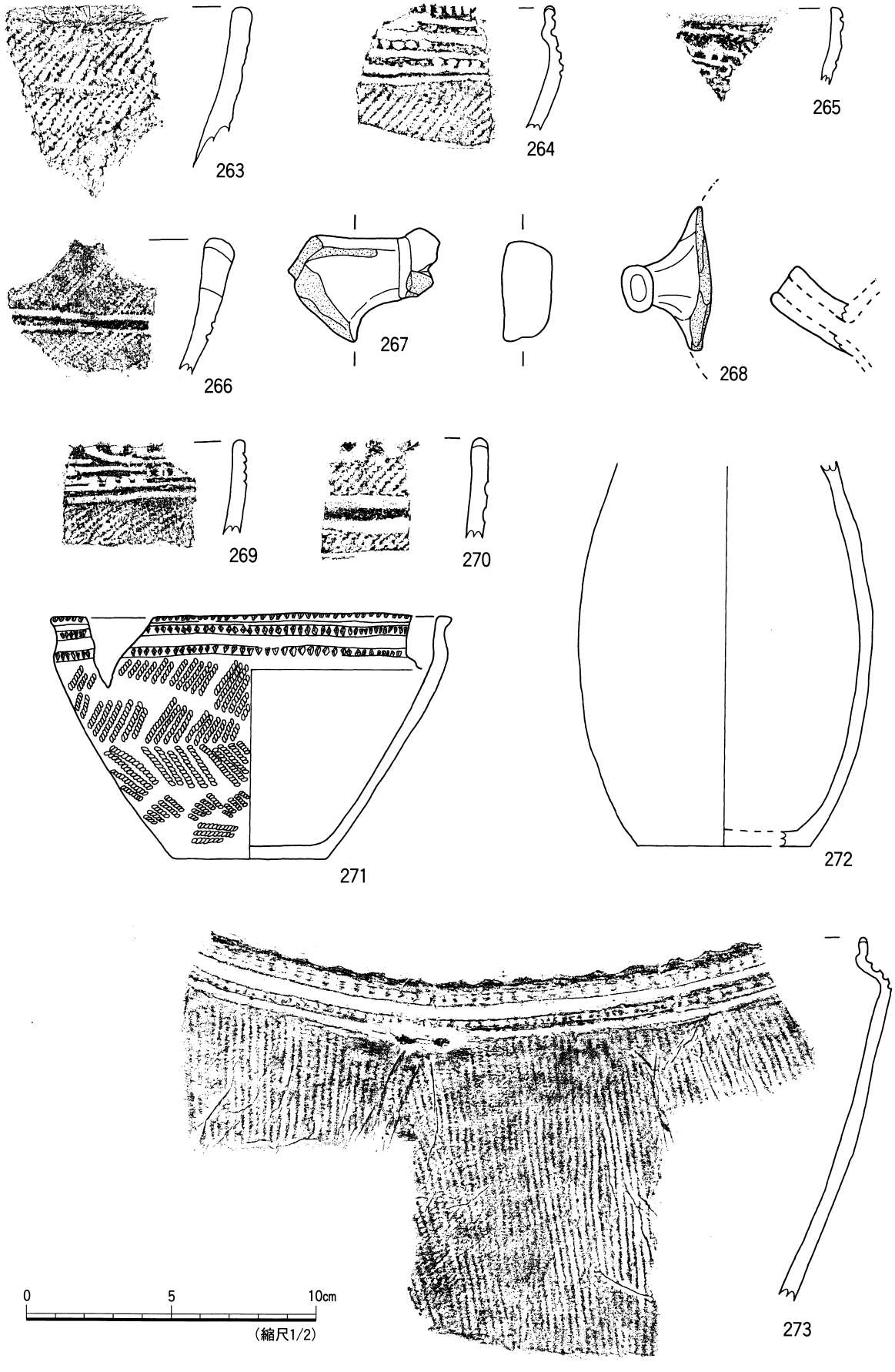
23トレンチ平面図 1回目・Ⅱa層上面の遺物出土状況



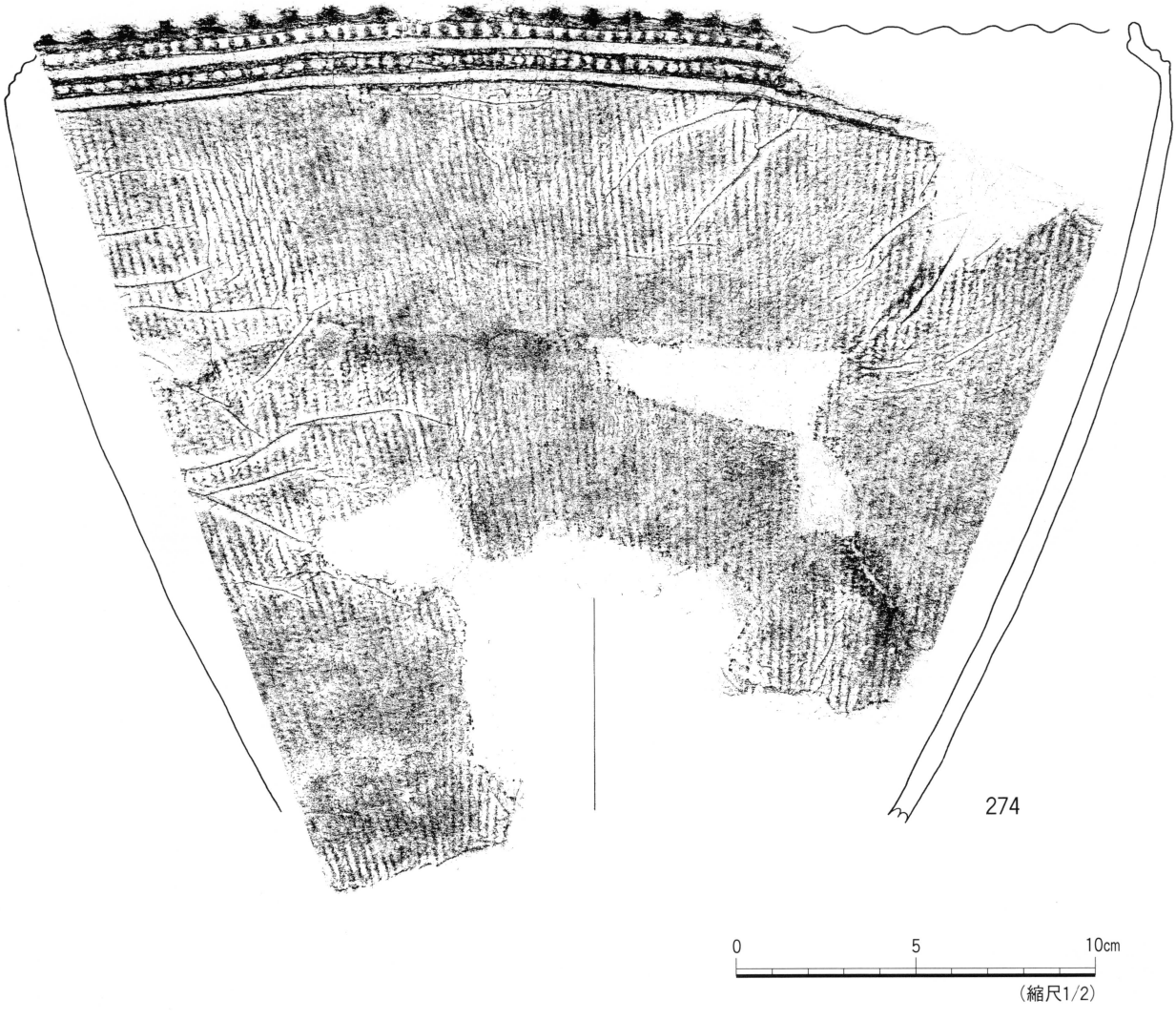
第37図　23トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



第38図　23トレンチ　黒色土層(Ⅱa層)上面の出土遺物(2)

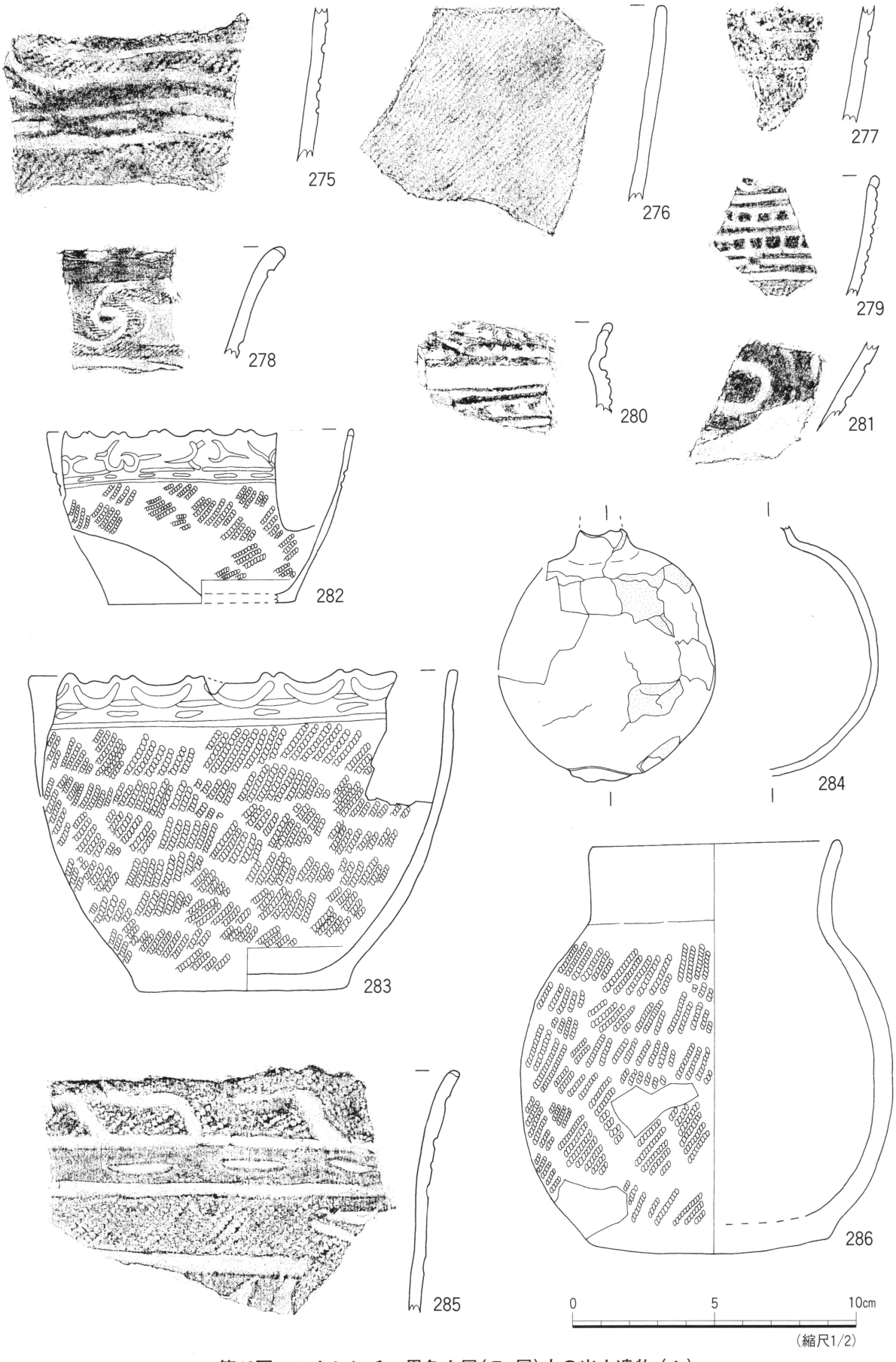


第39図　23トレンチ　黒色土層(Ⅱa層)中の出土遺物(2)

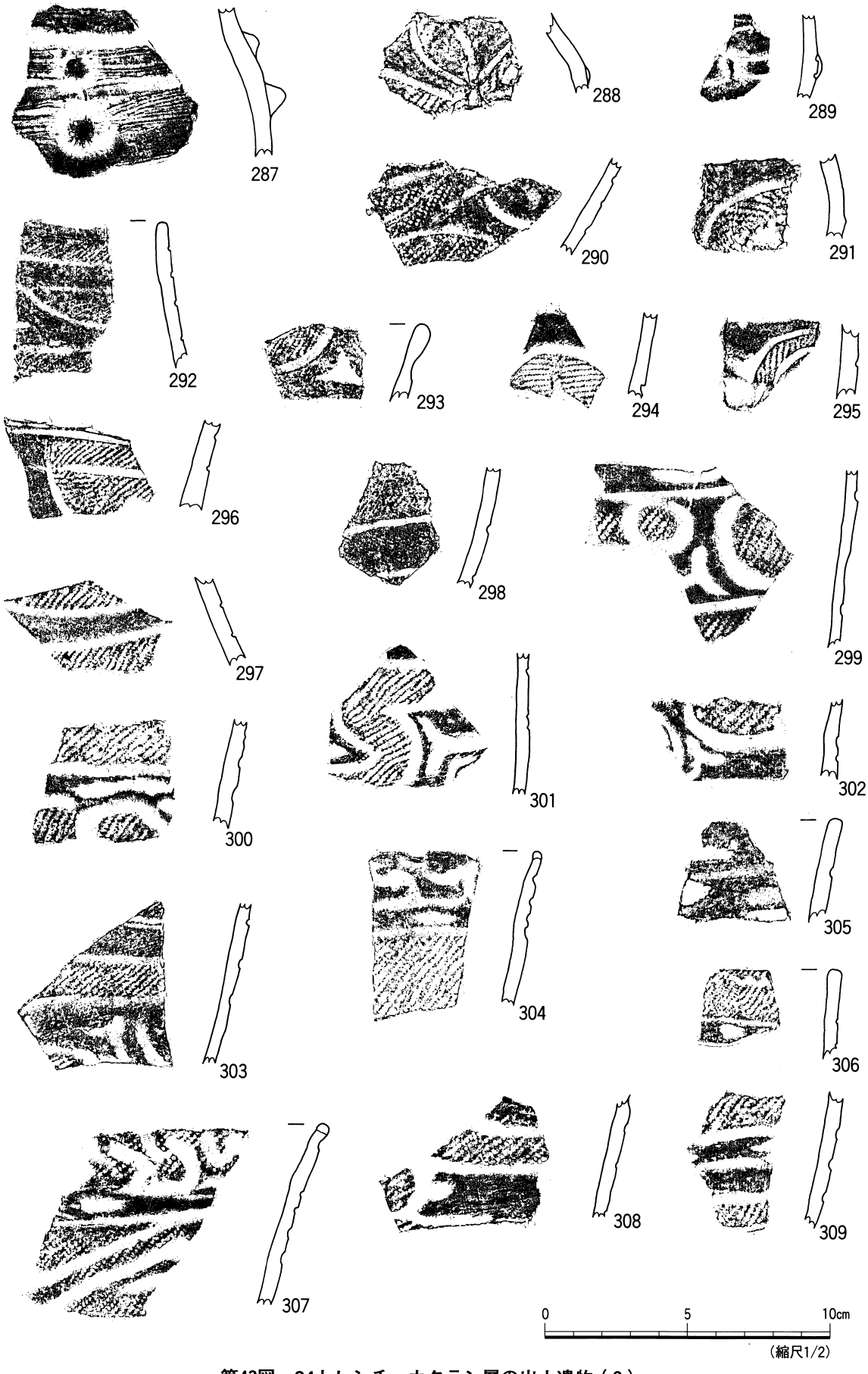


第40図　23トレンチ　黒色土層(Ⅱa層)中の出土遺物(3)

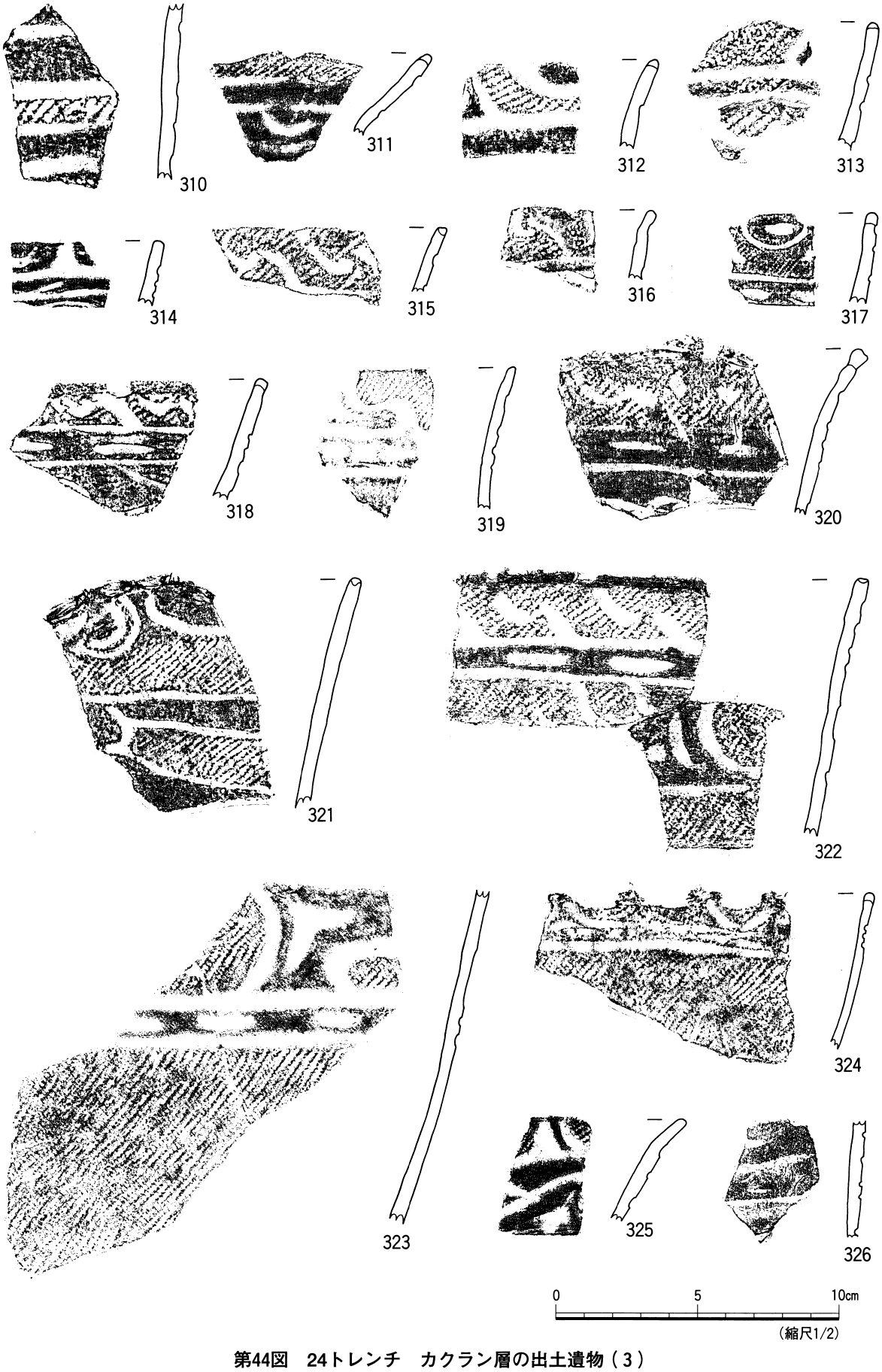
第41図　24トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



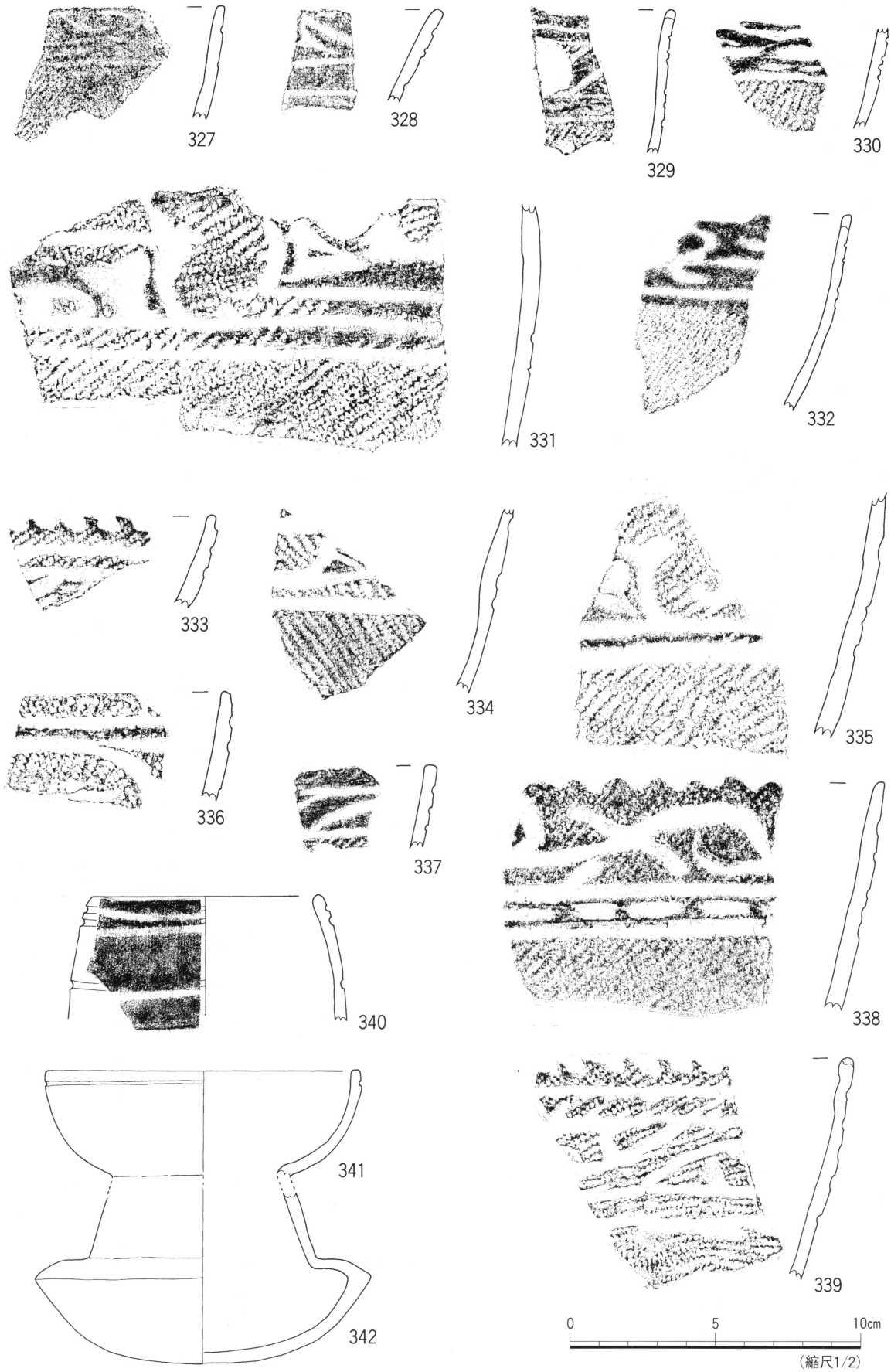
第42図　24トレンチ　黒色土層(Ⅱc層)中の出土遺物(1)



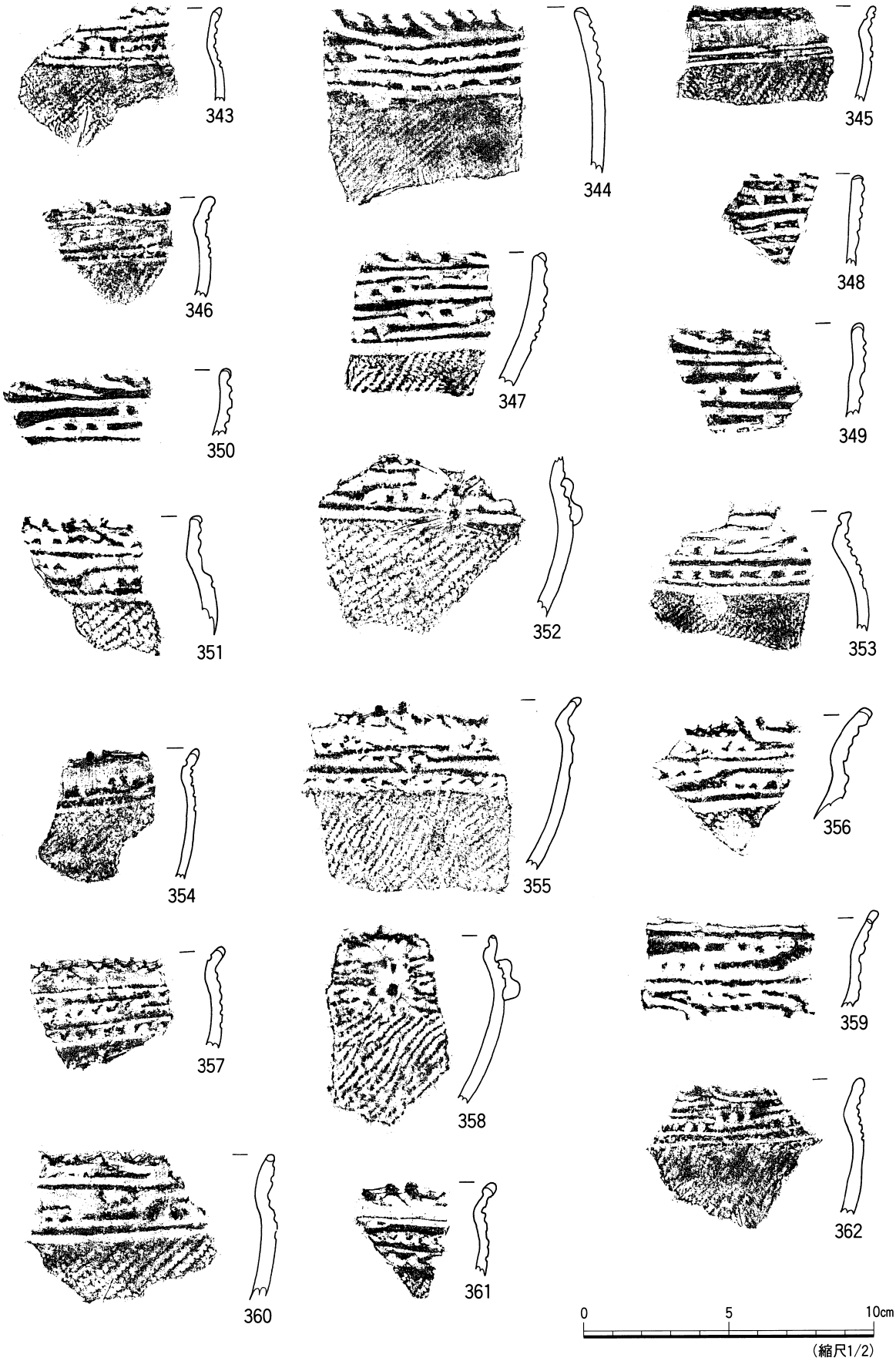
第43図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（2）



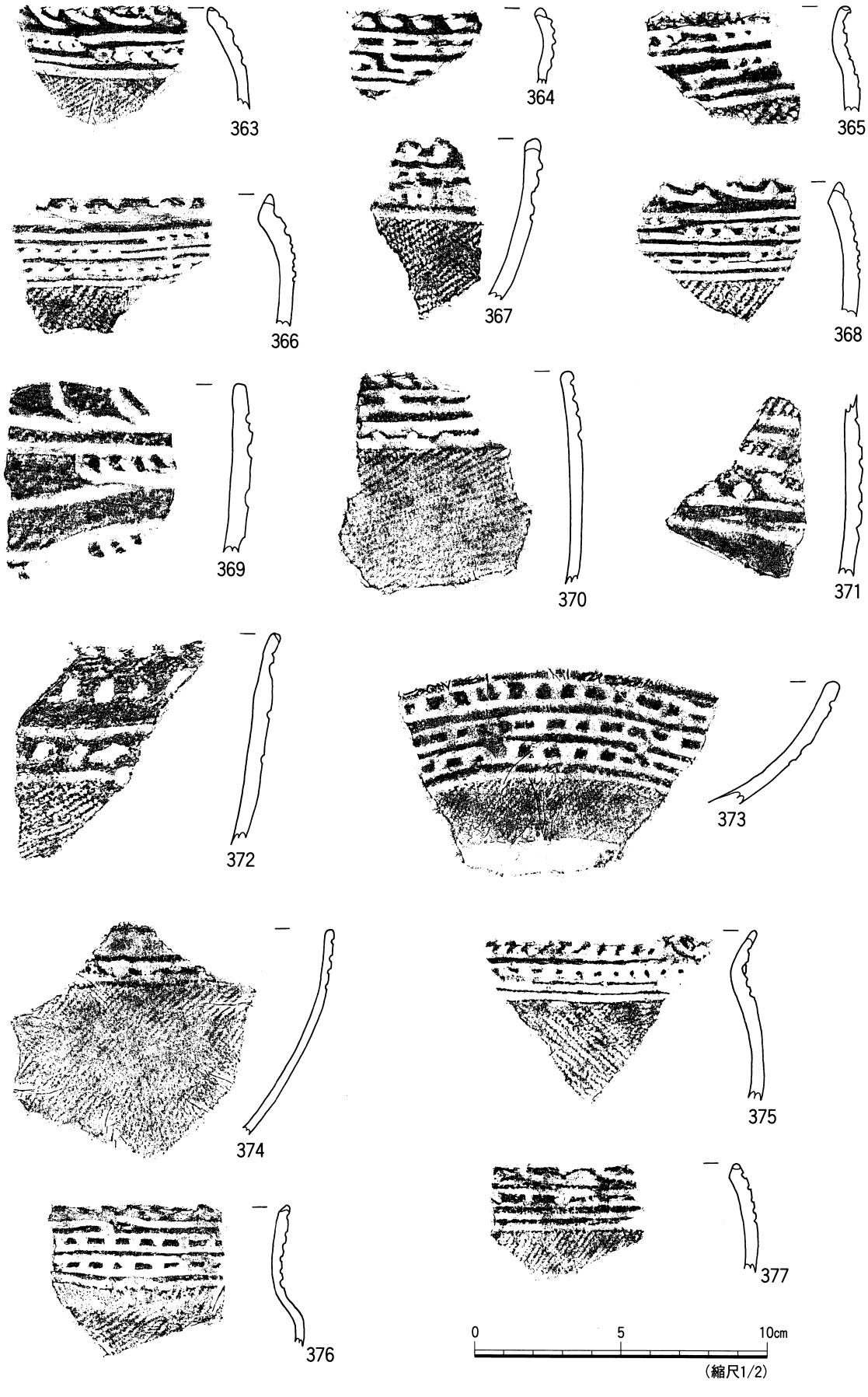
第44図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（3）



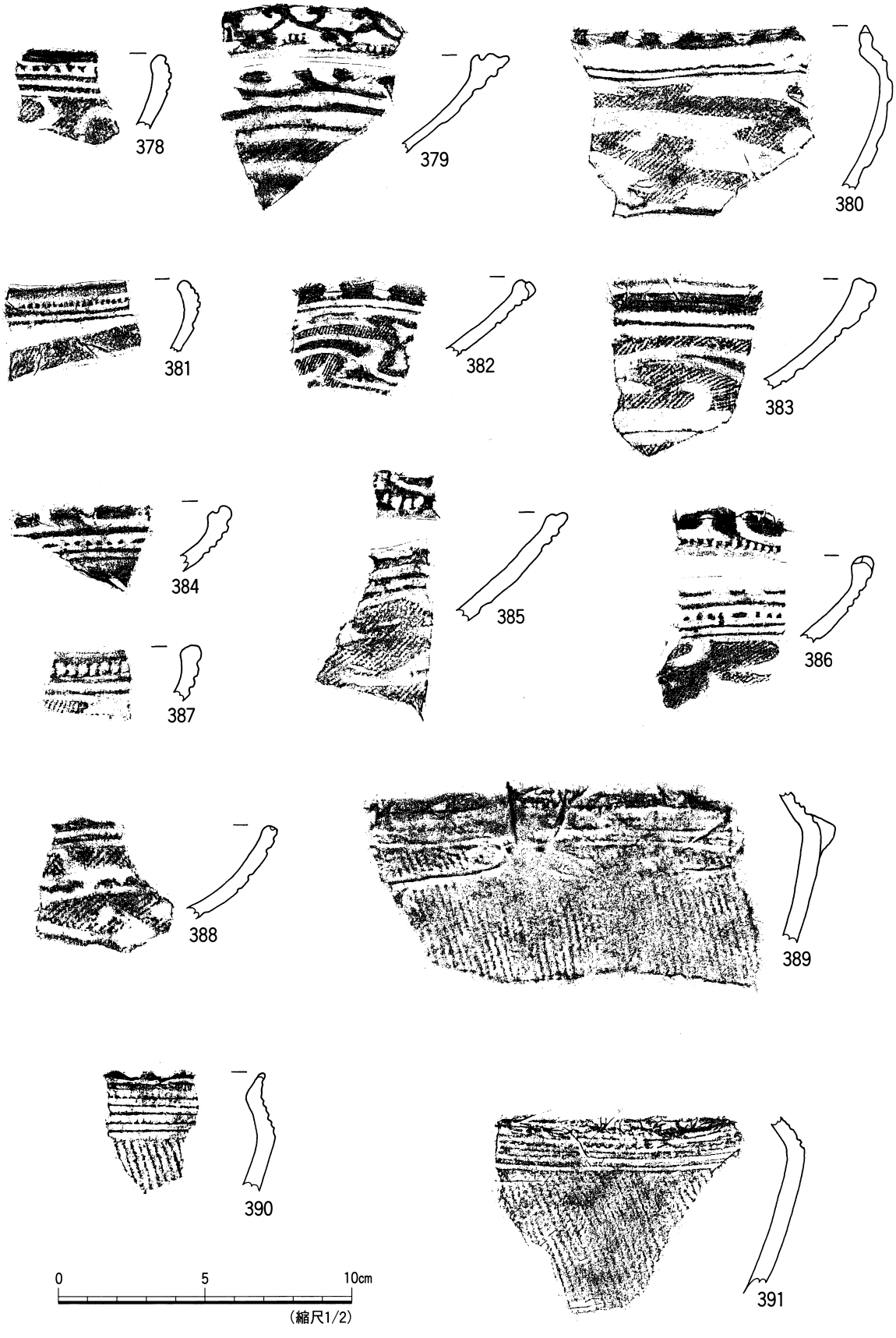
第45図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（4）



第46図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（5）

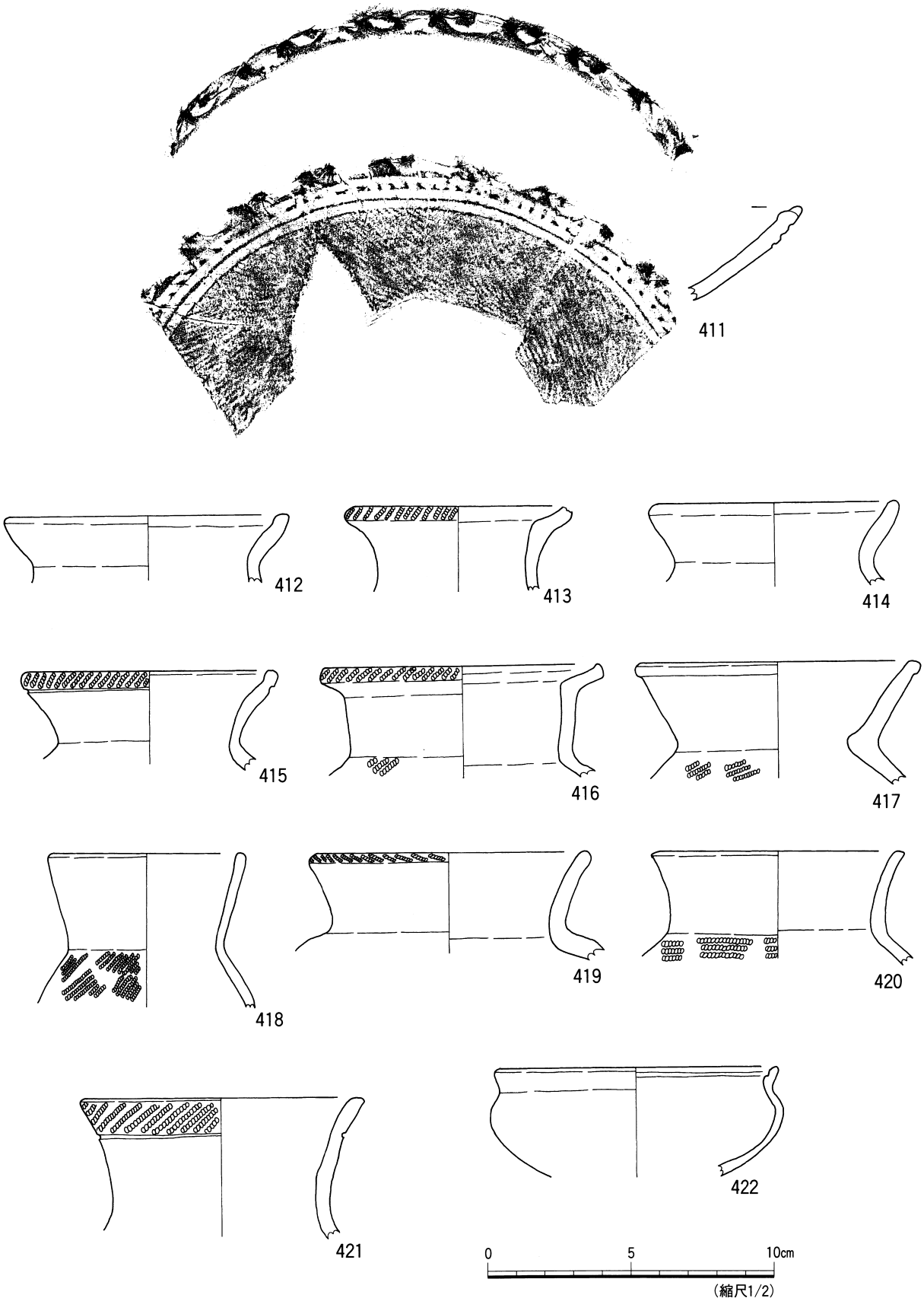


第47図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（6）



第48図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（7）

第49図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（8）



第50図　24トレンチ　カクラン層の出土遺物（9）

24トレンチ平面図　Ⅱ層直上の遺物出土状況

A　A´

（未調査部分）

24トレンチ西壁層位

A　A´

9.6m

Ⅰa

Ⅰb

Ⅱ

25トレンチ平面図　1回目・Ⅱa層上面の遺物出土状況

（未調査部分）

25トレンチ平面図　2回目・Ⅱa層中の遺物出土状況

B　B´

（未調査部分）

25トレンチ東壁層位

B　B´

9.6m

Ⅰa

カクラン

Ⅰb

Ⅱa

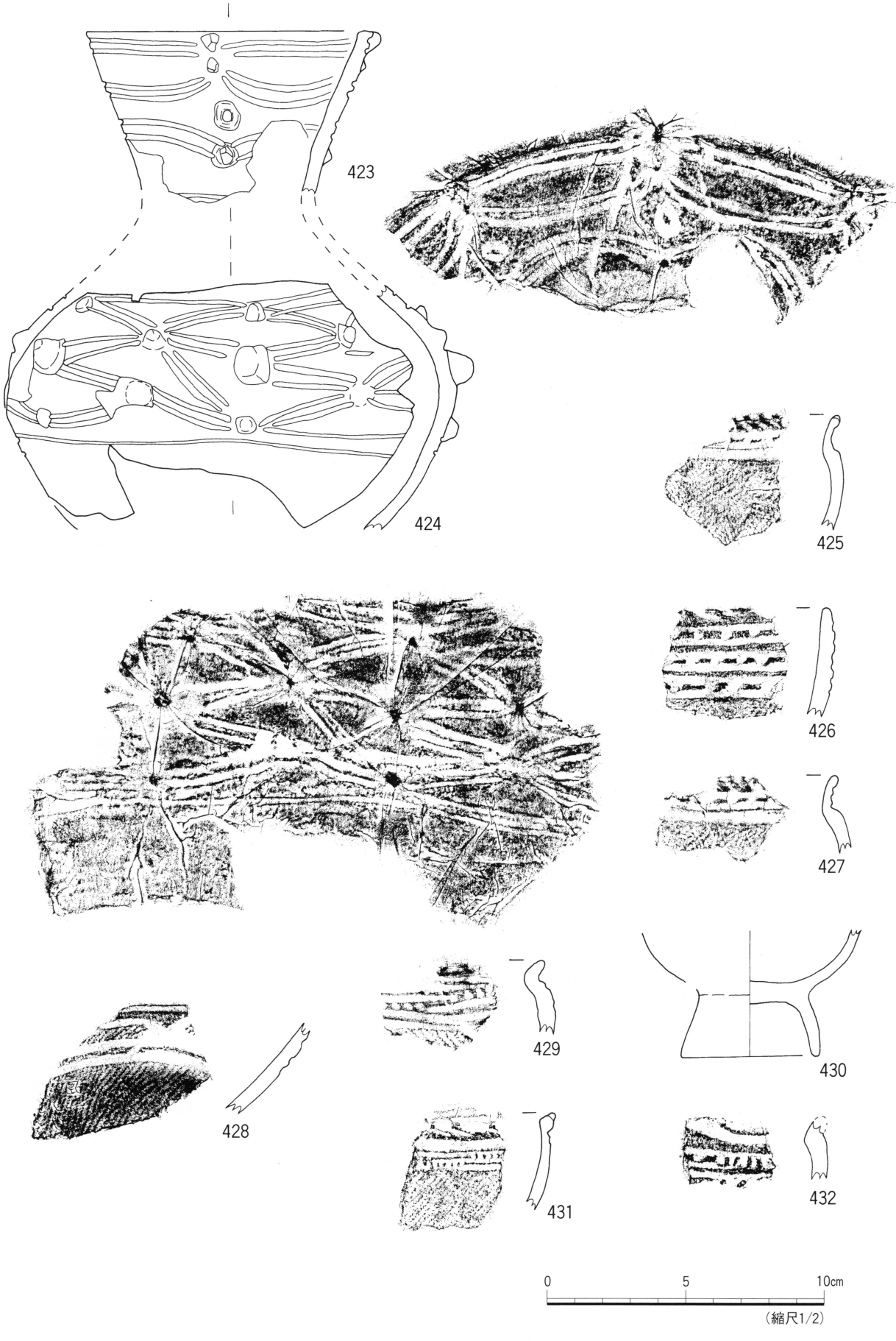
Ⅱb

Ⅲ

0　1m

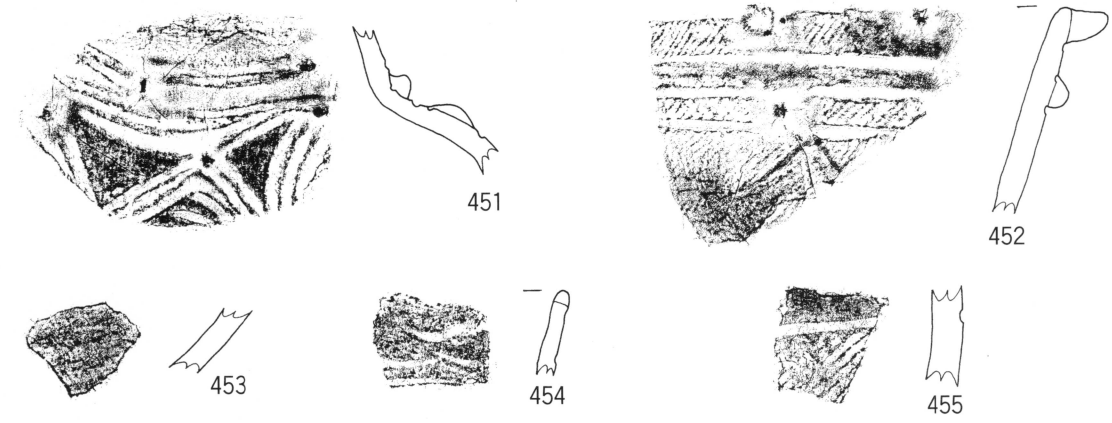
（縮尺1/30）

第51図　24・25トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況

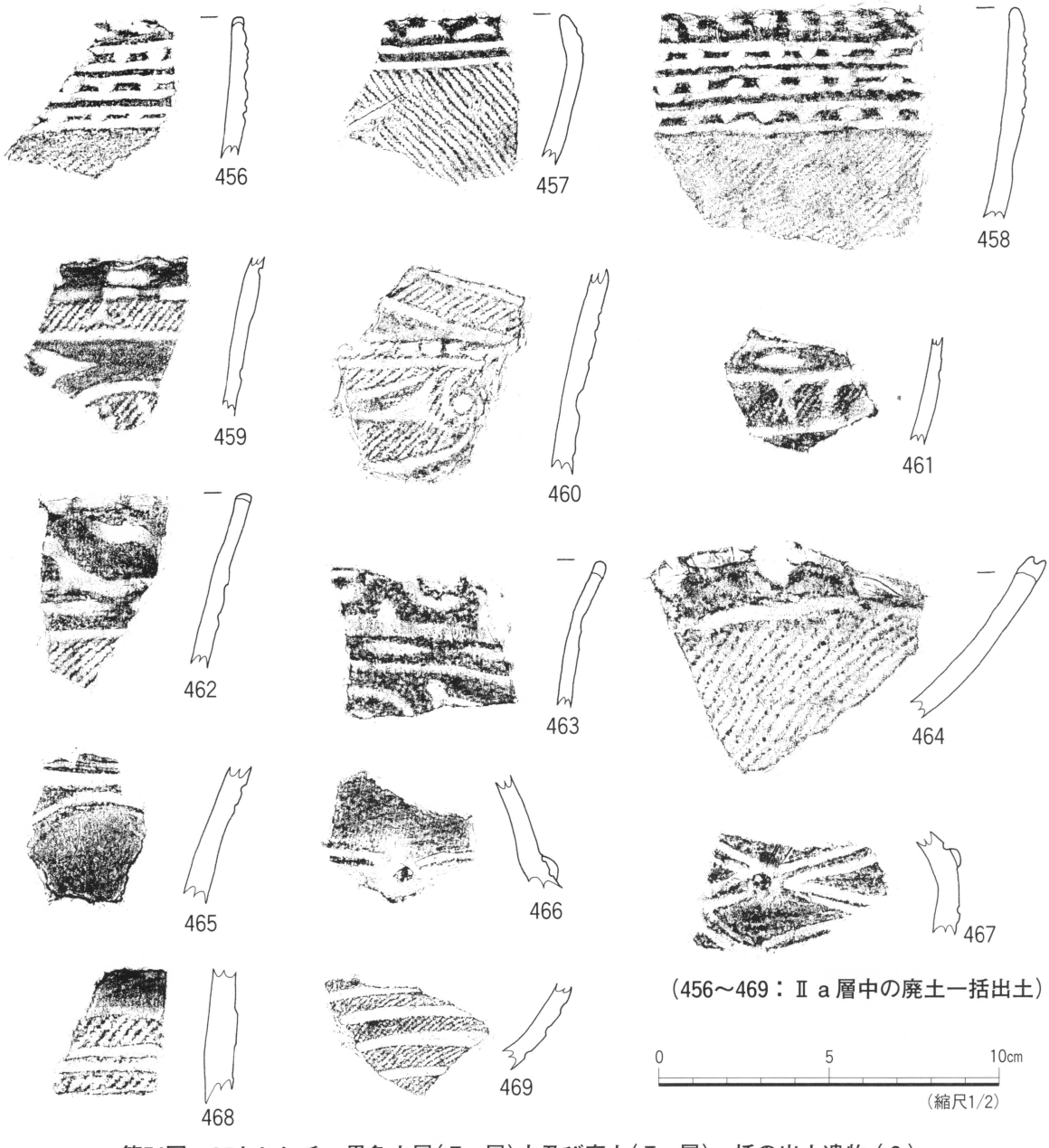


第52図　25トレンチ　黒色土層(Ⅱa層)上面の出土遺物(1)

第53図　25トレンチ　黒色土層(Ⅱa層)中の出土遺物(2)

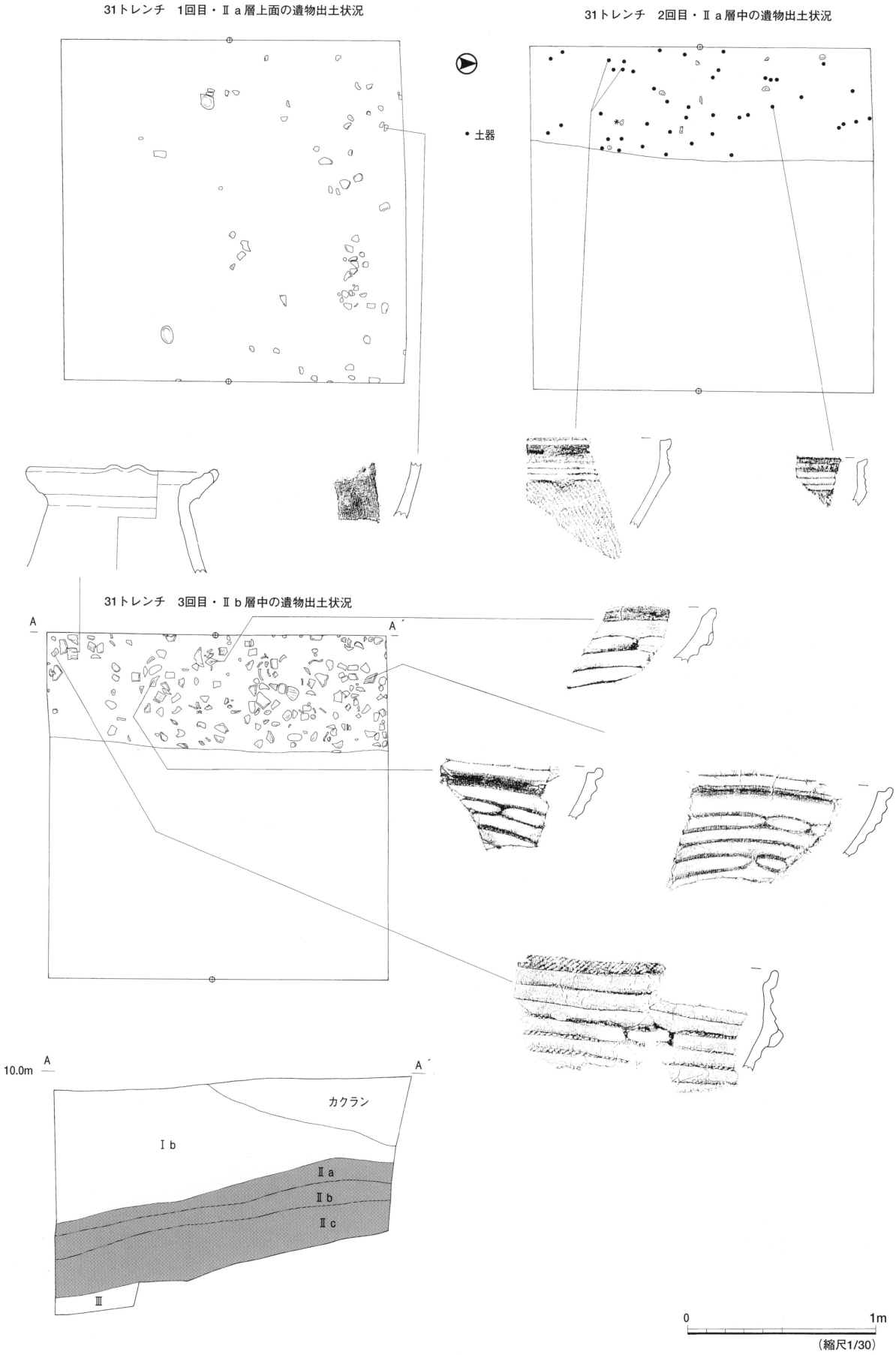


（451～455：Ⅱa 層中の出土）

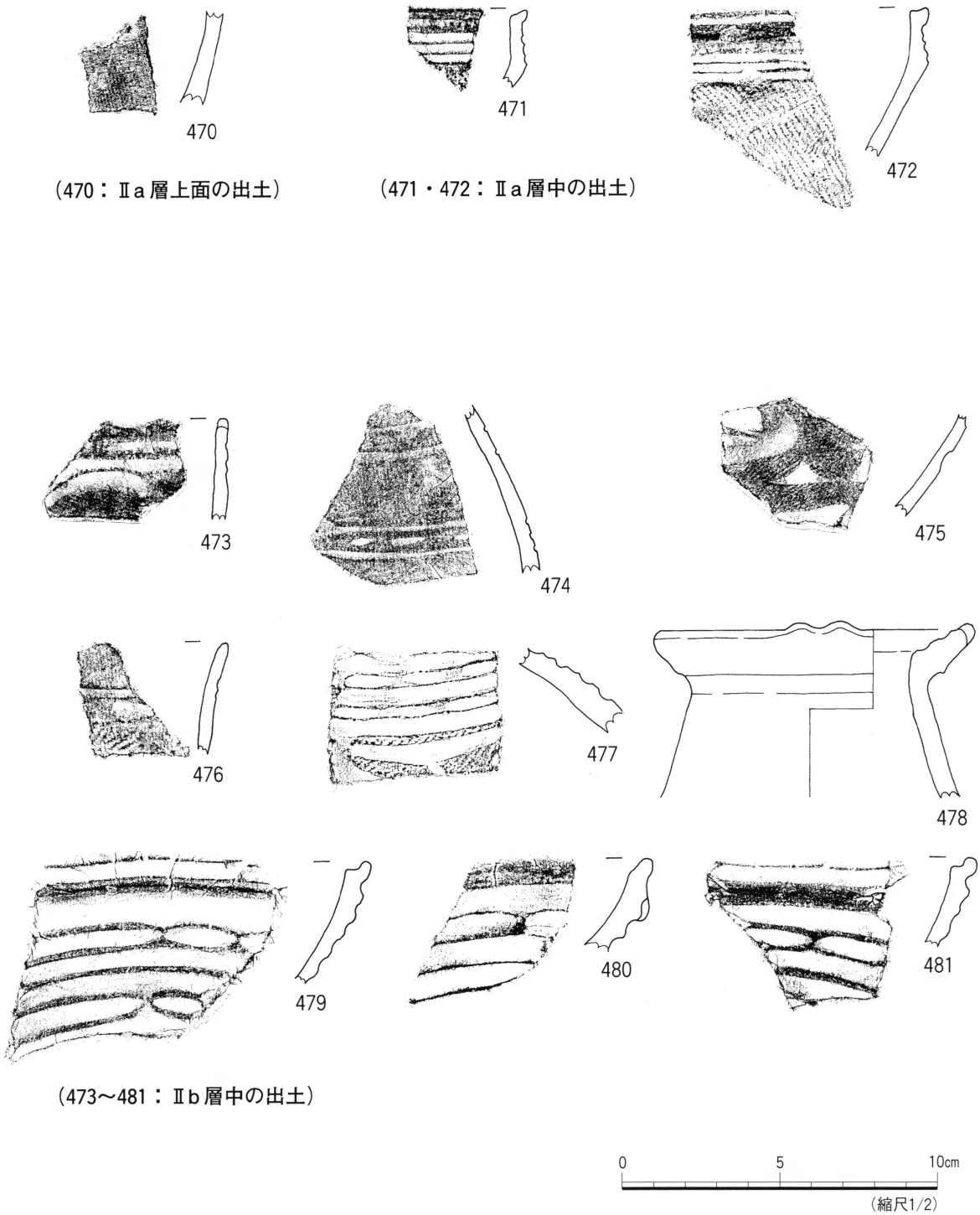


（456～469：Ⅱ a 層中の廃土一括出土）

第54図　25トレンチ　黒色土層（Ⅱa 層）中及び廃土（Ⅱa 層）一括の出土遺物（２）



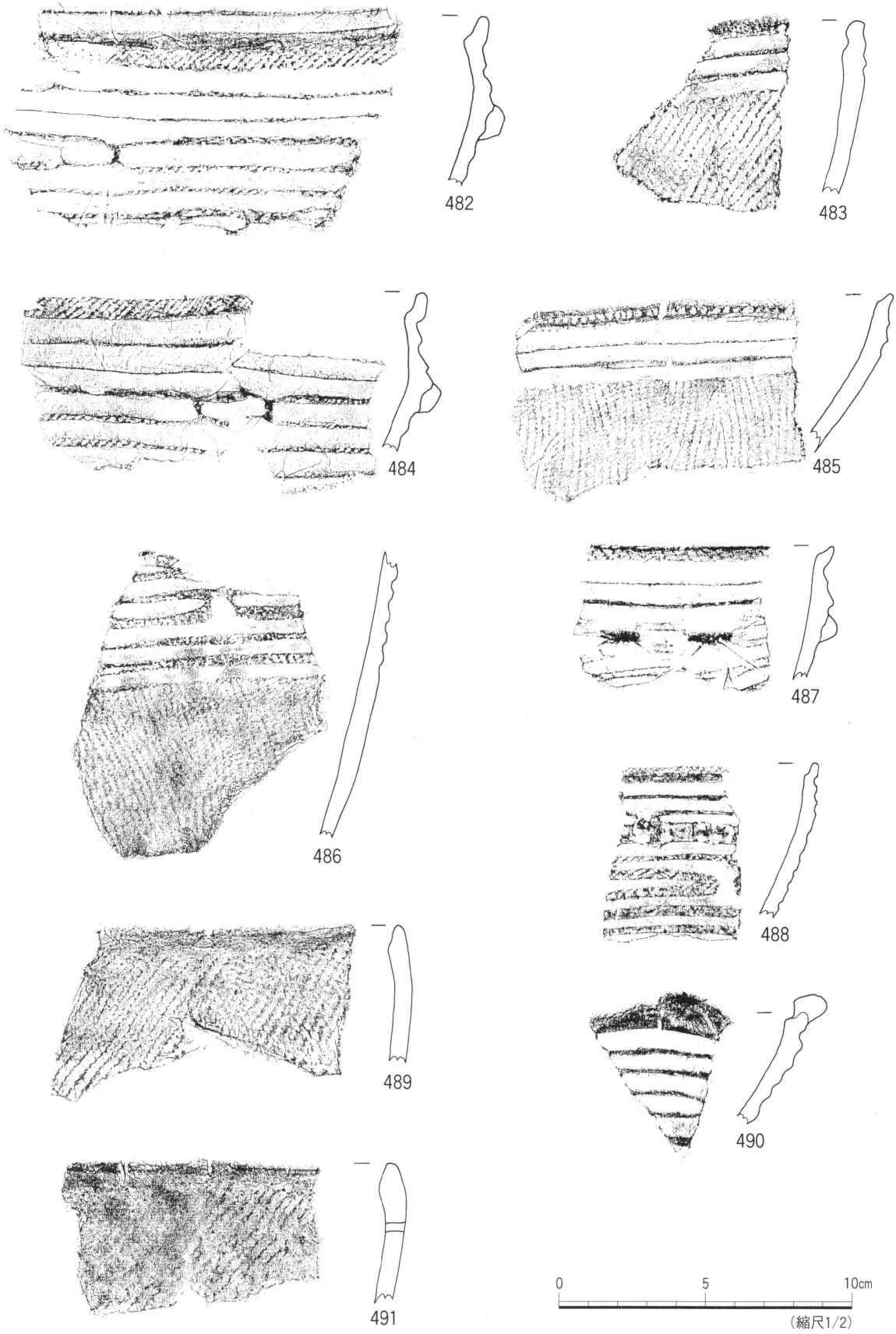
第55図　31トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況



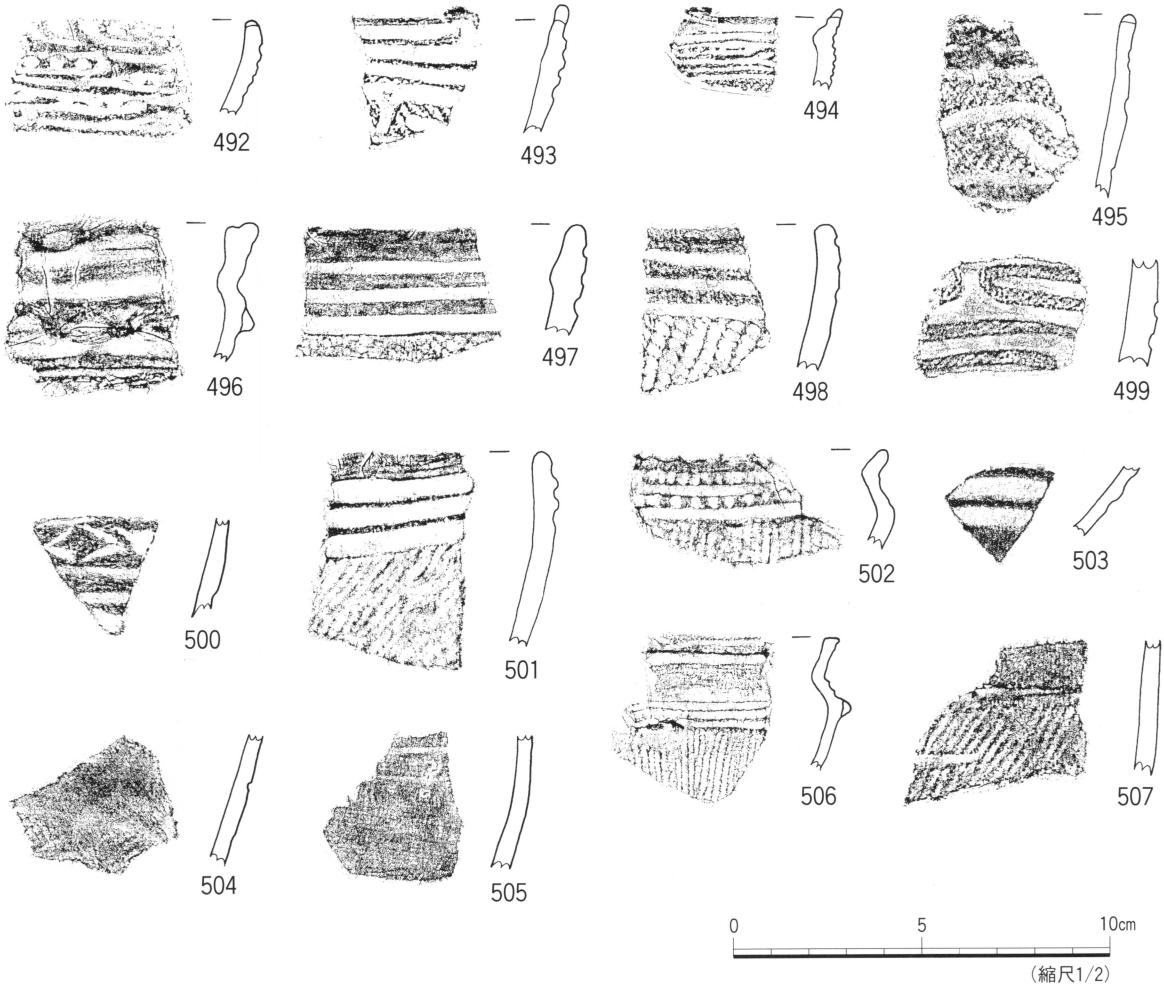
(470：Ⅱa層上面の出土)　(471・472：Ⅱa層中の出土)

(473～481：Ⅱb層中の出土)

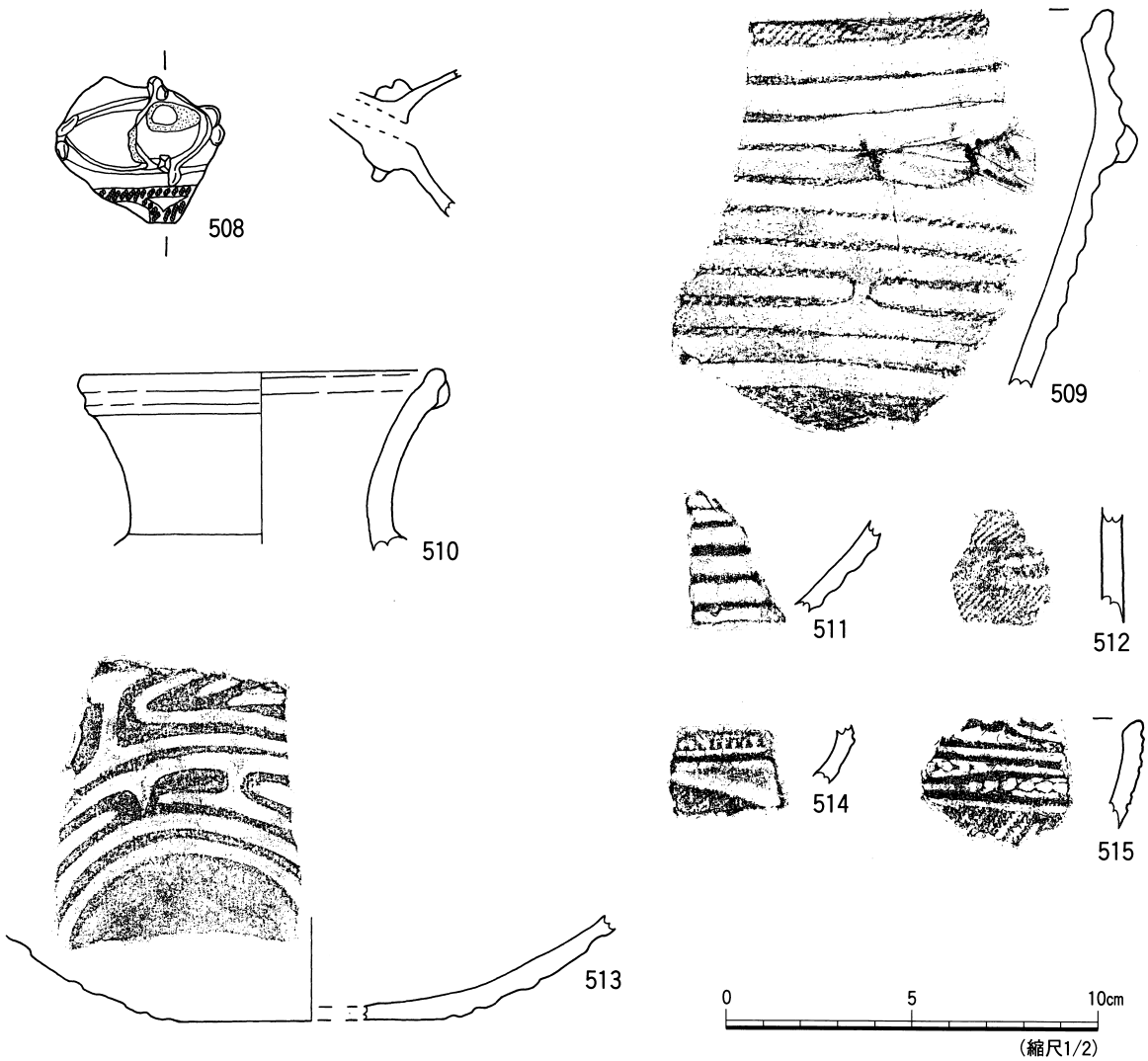
第56図　31トレンチ　黒色土層(Ⅱa・Ⅱb層)の出土遺物(1)



第57図　31トレンチ　黒色土層(Ⅱc層)中の出土遺物(2)

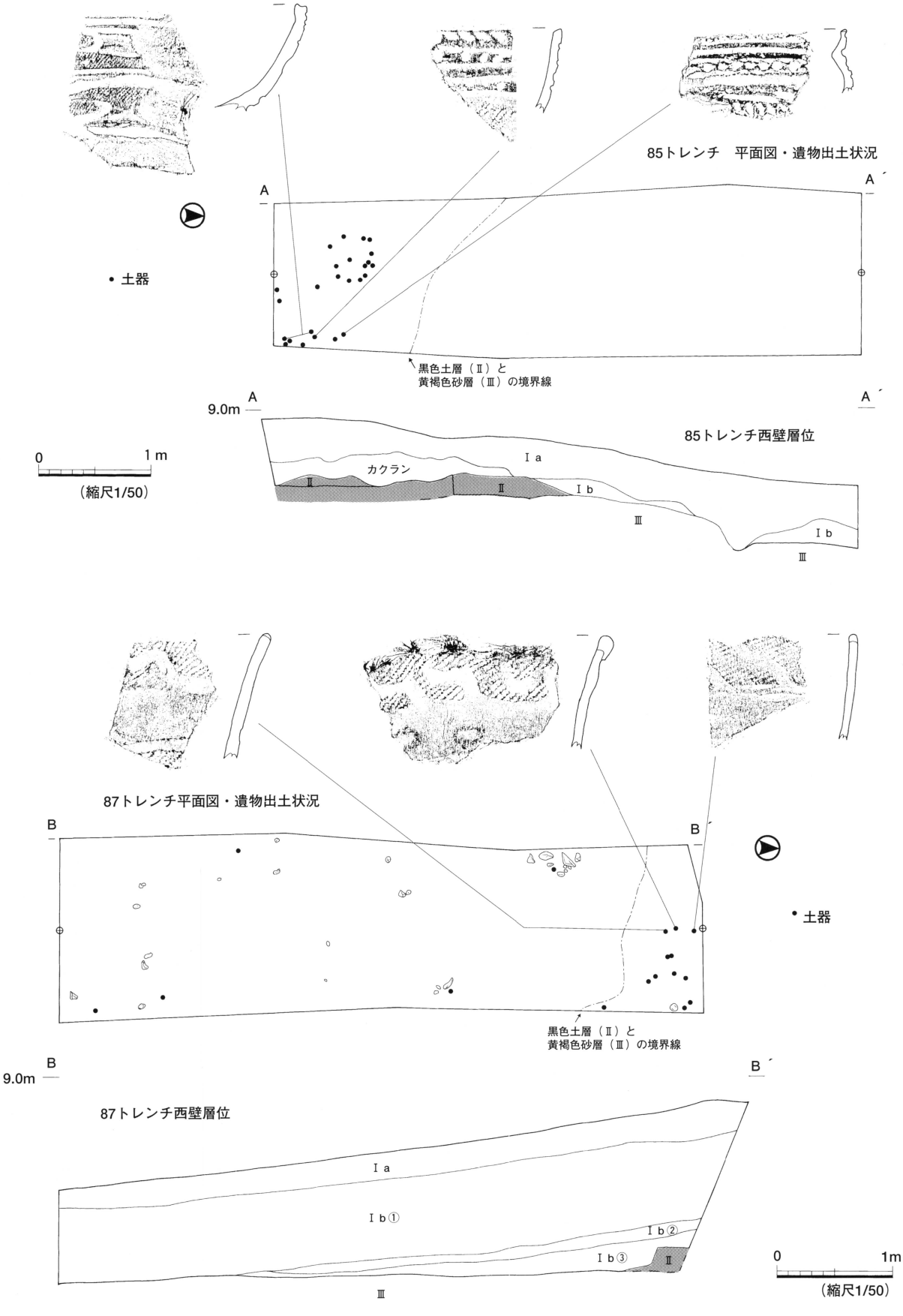


第58図　31トレンチ　黒色土層(Ⅱc層)中の出土遺物(3)



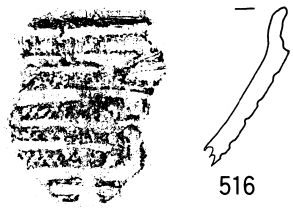
(507・508：Ⅱc層中の出土
509～514：サブトレンチ出土)

第59図　31トレンチ　黒色土層(ⅡC層)中及びサブトレンチの出土遺物(4)

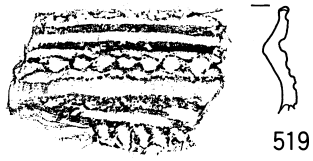


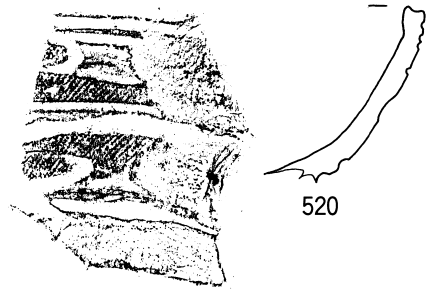
第60図　85・87トレンチ　平面図・断面図・遺物出土状況

84トレンチ(516・517)

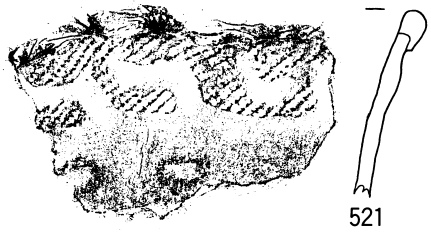


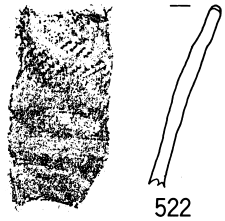
85トレンチ(518～520)

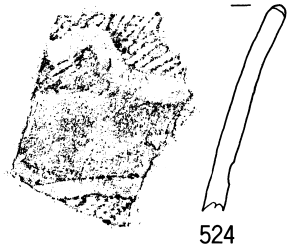


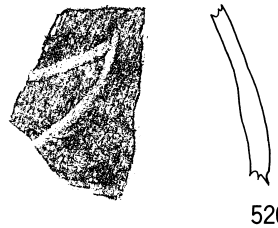


87トレンチ(521～526)



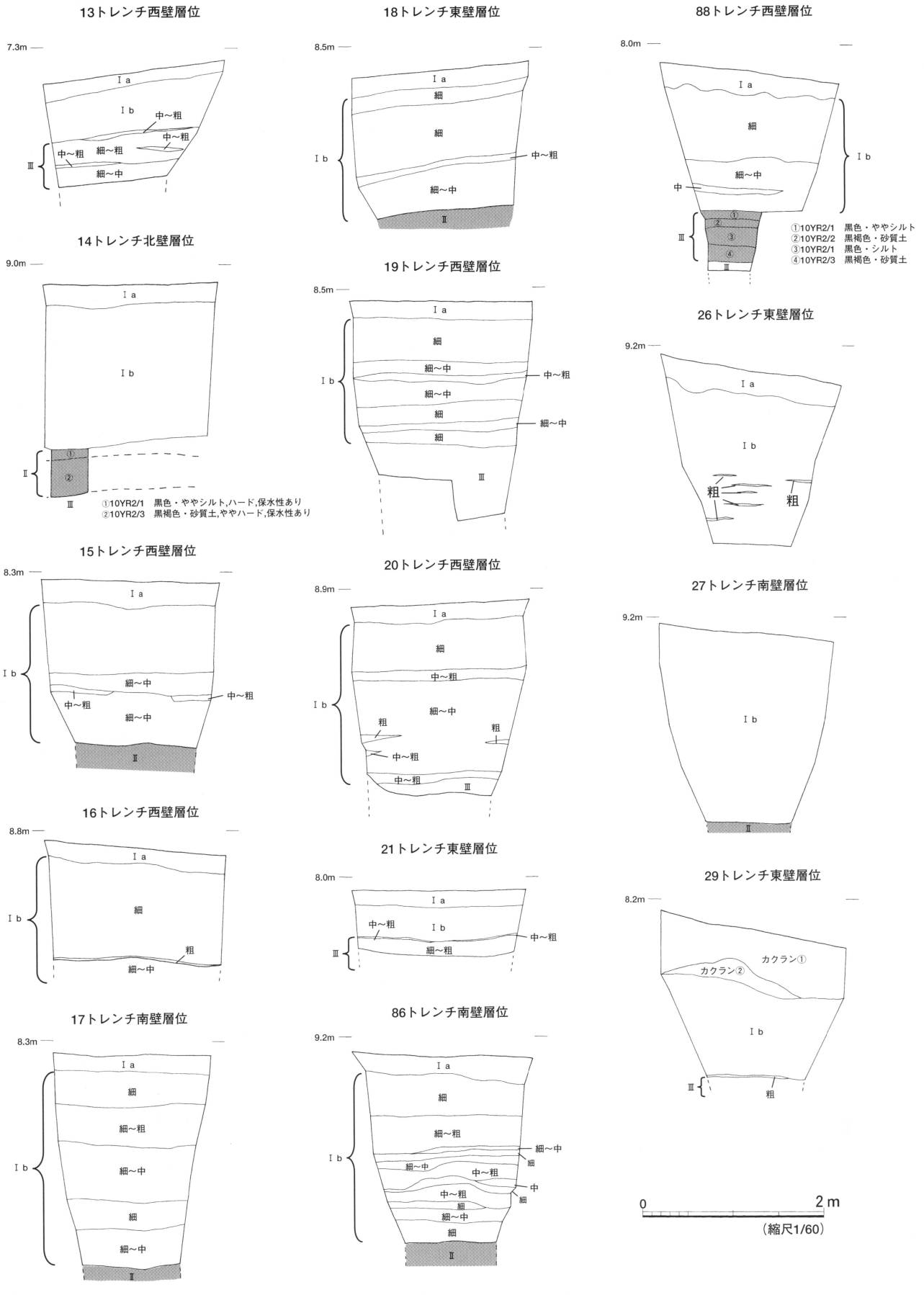




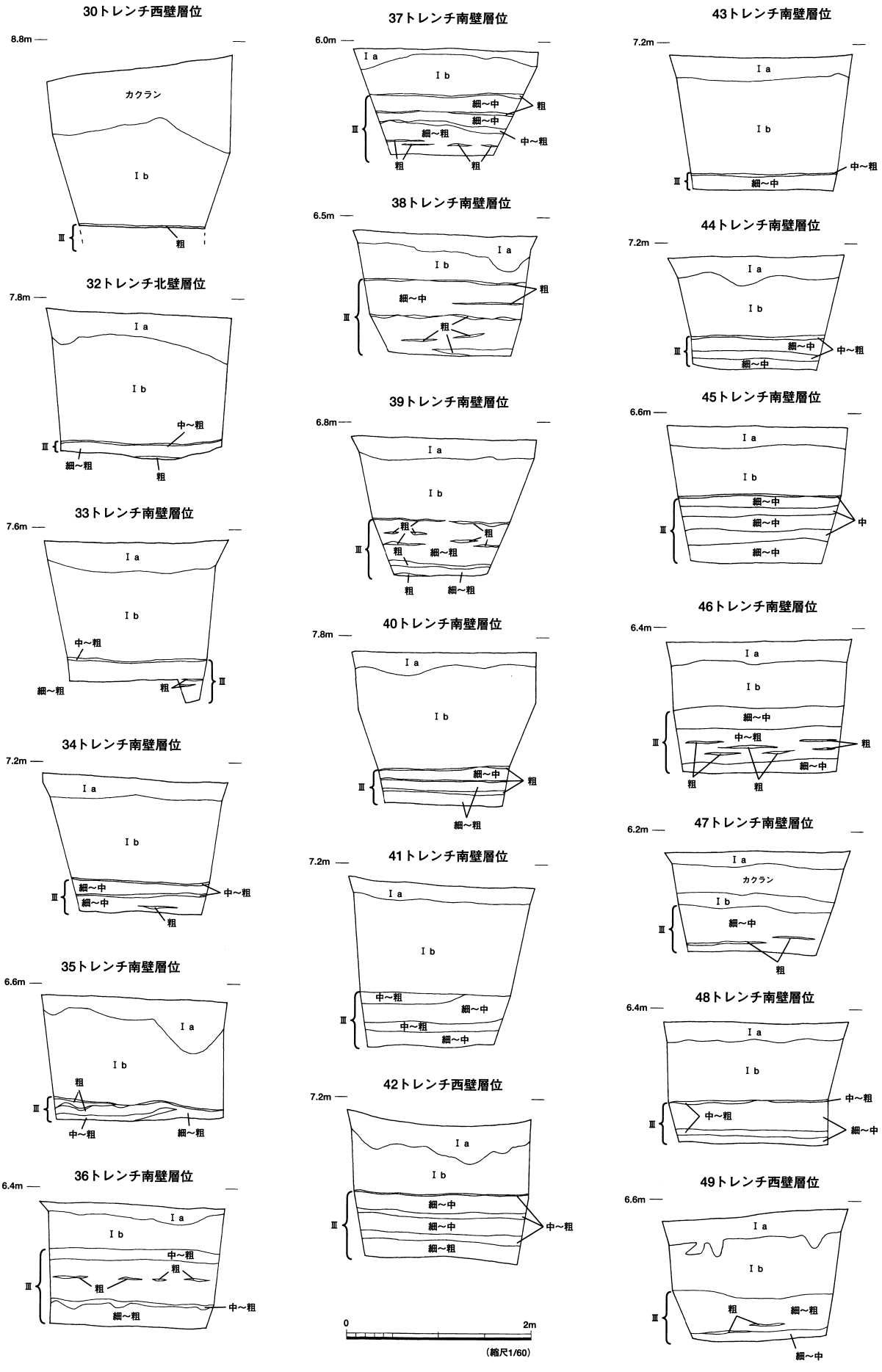


0　5　10cm
(縮尺1/2)

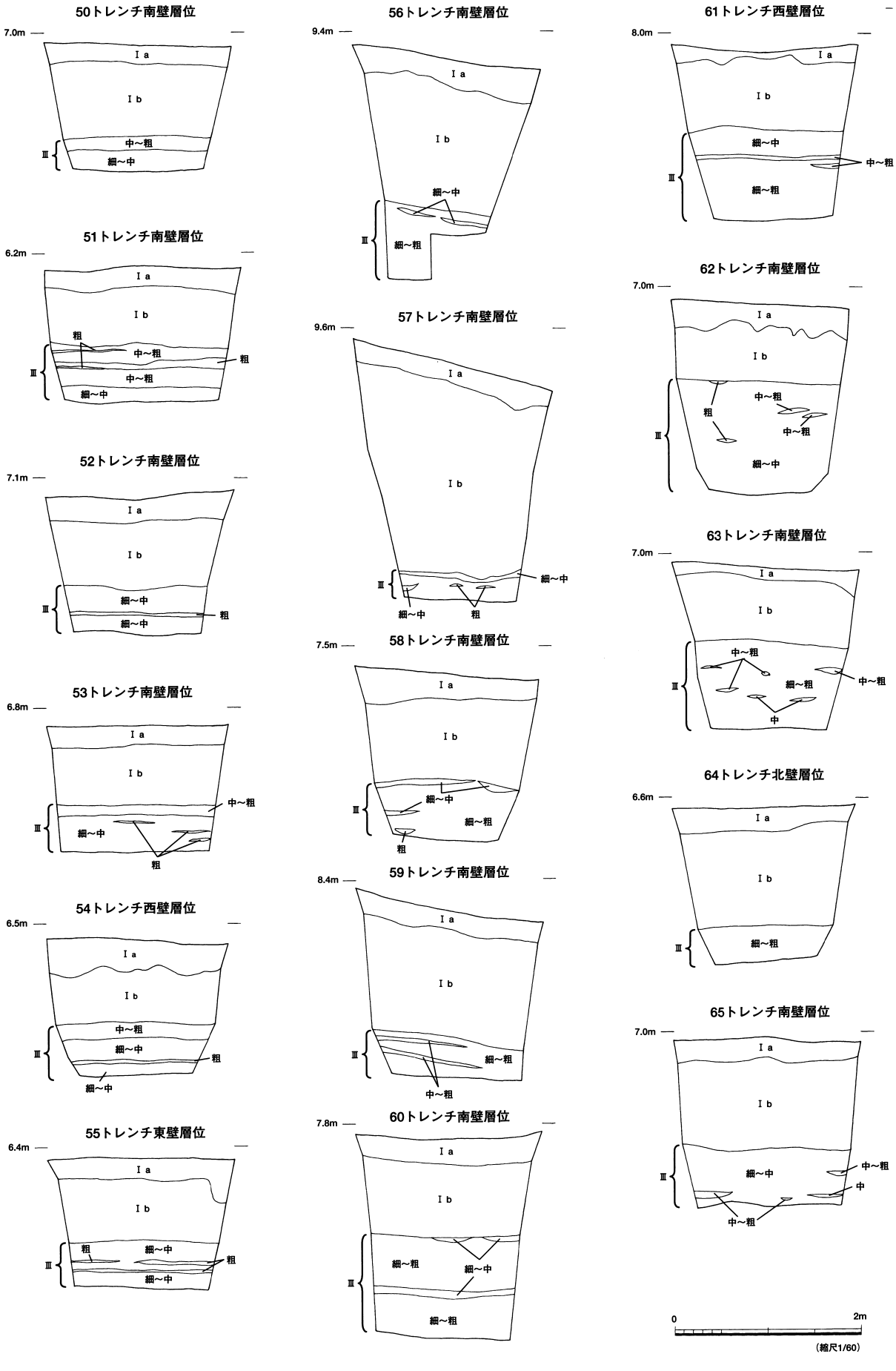
第61図　84・85・86トレンチ　出土遺物



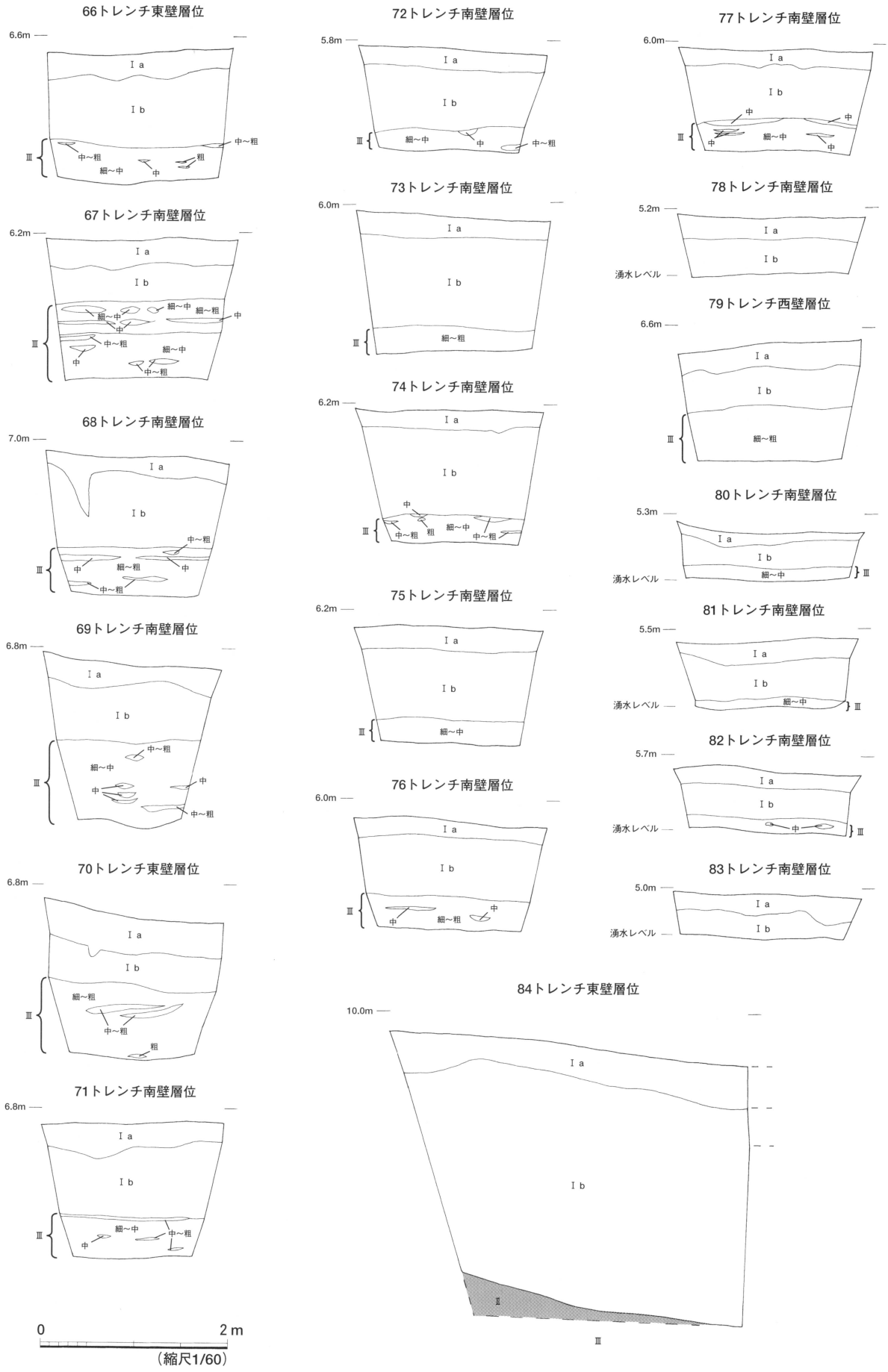
第62図　13～21・26・27・29・86・88トレンチ　断面図



第63図　30・32～49トレンチ　断面図



第64図　50～65トレンチ　断面図



第65図　66～84トレンチ　断面図

付　章　　五月女菟遺跡の地学的見解

日本地学教育学会会員　　川　村　眞　一

1．屏風山周辺の砂丘・クロスナ層の層序

屏風山周辺の砂丘・クロスナ層の層序は新しいものから古い方へ次のようになっている〔葛西攻　1991〕。

(新)新　砂　丘　Ⅱ　平安時代前後以降から現代にかけて形成されたもの。現海岸沿いに大規模に発達。最近の600～700年間に砂の移動が激しかったことを示唆。

新期クロスナ層　古墳時代から奈良時代の比較的短い間に形成。一層だけでなく、二層ないし数層からなることもある。

新　砂　丘　Ⅰ　弥生時代末期から古墳時代にかけて形成された。東日本で大規模に発達。

旧期クロスナ層　主要層は縄文時代後期から弥生時代にかけてできた。砂丘はこの時期最も安定していた。

旧　　砂　　丘　縄文時代前期中葉から縄文時代後期前葉に形成。主要時期は縄文時代中期。

(古)古　　砂　　丘　更新世最大海進時（酸素同位体ステージ５ｅ約12.5万年前）以降約4.5万年前までに形成された砂丘で形成時期は古砂丘Ⅰ～古砂丘Ⅳに分けられる。

上記層位中のクロスナ層とは、長期にわたり砂の移動が行われず、きわめて安定した時期に形成された土壌層のことで、砂粒子の間を黒土で充填しており、遺物包含層となっている。砂丘上に植物が生育した時期に形成された。

2．五月女菟遺跡層序

調査地域では古砂丘と新期クロスナ層は欠如しているため、遺跡の層序は次のようになっている。

表 土（黒色土）：Ⅰａ層

新　砂　丘　砂：Ⅰｂ層。新期クロスナ層が欠如しているため、新砂丘をⅠ、Ⅱに分けられず一括して新砂丘とした。

旧期クロスナ層：Ⅱ層

旧　砂　丘　砂：Ⅲ層

3．五月女菟遺跡の地形

調査地域の各トレンチの地層断面を遺跡層序により層区分すると、基本層序模式図のようになる（図１）。これによると、調査地域にはほぼ東西方向にのびる三つの縦列砂丘が形成されている。それらを北側から南方へ第１、第２、第３縦列砂丘と呼称することにする。

第１は一番北側のもので、幅約80m（トレンチ88～13の間）、高さ約９ｍである。第２は一つ目の南のトレンチ６～26の間にあるもので、幅約140m、高さ約11ｍで、三つの縦列砂丘のうちで一番規模が大きい。第３は調査地域南を東西に横断する道路付近にあるもので、幅約80m、高さ約９ｍである。これら縦列砂丘の前面および後方はすでに改変が行われ縦方向の規模は把握できない（図２）。

調査地域内で縦列砂丘をつくる新砂丘下に堆積している旧砂丘上面標高の広がりをみると、旧砂丘にも三つの縦列砂丘が読み取れ、新砂丘の縦列砂丘の位置とほぼ一致している（図３）。このことは現在の縦列砂丘は、旧砂丘の縦列砂丘を核にしながら形成されていったことを示唆している。

4．旧期クロスナ層の分布

旧期クロスナ層は第１、第２縦列砂丘下の旧砂丘上面に分布し、縦列砂丘間の谷部にあたる部分には発達が貧弱であるか見られないところもある。これは砂丘が長期間安定し、クロスナ層が形成された後に新砂丘の堆積に当たり、旧砂丘縦列砂丘頂部に厚く堆積したために旧期クロスナ層が保存されやすかったためと考えられる。それに対して、谷部ではもともとクロスナ層の発達がよくないことに加え、新砂丘砂の堆積は薄くクロスナ層は薄くなったり浸食されたものと思われる。第３縦列砂丘は第１、第２縦列砂丘に比べ、旧期クロスナ層の発達が悪く、遺物の包含は見られない。おそらく植生の十分な生育がなく、土壌の生成もあまり進まなかったのであろう。

5．遺物包含層と旧期クロスナ層

遺物は旧期クロスナ層に包含されており、それらの遺物は縄文時代後期末のものも若干あるが、主要遺物は縄文時代晩期のものである。

クロスナ層は全国的に分布しており、含まれている遺物や炭化物の年代測定などによって、クロスナ層の生成年代が決められている〔遠藤　1969〕。旧期クロスナ層は縄文時代後期から弥生時代にかけて砂丘が最も安定した時代に形成されたとされており、本遺跡の遺物包含層が旧期クロスナ層に比定できるものと考える。旧期クロスナ層の発達しているところに遺物は多い。

6．旧砂丘形成以前

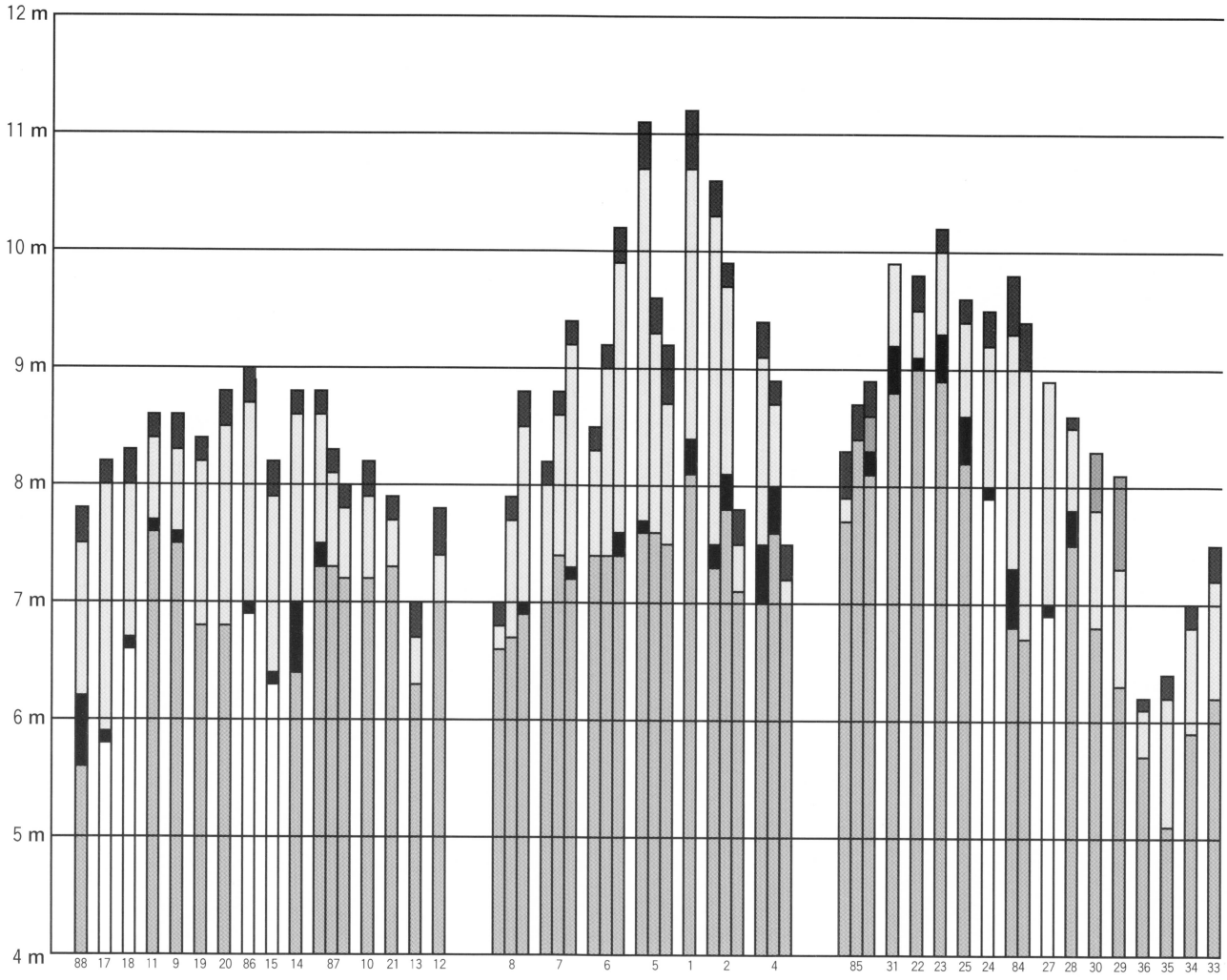
旧砂丘以前の砂丘は古砂丘で最終氷期に形成されたものである。本遺跡の発掘では基盤に当たる礫層まで直接掘り下げていないが、周囲との標高の比較から古砂丘はないものとみられる。これは古砂丘が形成された最終氷期には海面低下があり、海岸線は五月女萢遺跡のかなり沖合いにあり、古砂丘の堆積の場は五月女萢遺跡より西側にあったものと考えられる。なお、現在砂利採掘を行っている砂礫層の現場（五所川原市相内555・556番地）は、標高６～８ｍと考えられる。この標高は縄文海進面より高く、最終間氷期末(酸素同位体ステージ５ｃ約10万年前)の高海面期の海浜礫と考えられる。

≪引用・参考文献≫

葛西　攻　1991　「青森県屏風山砂丘の形成」『兵庫教育大学大学院修士論文』

遠藤邦彦　1969　「日本における沖積世の砂丘の形成について」『地理学評論』42

小貫・三位・島田・竹内・石田・斉藤　1963
「青森県津軽十三湖地域の沖積層」『東北大学地質学古生物学教室研究邦文報告』第58号



Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：灰白色砂層（新砂丘砂Ⅰ及び新砂丘砂Ⅱ）

Ⅱ層：黒色土層（旧期クロスナ層）

※調査は基本的にⅢ層までを確認しており、それ以下の層位は未確認である。
また、Ⅱ層面で調査を終了した箇所は、それ以下を空白にしている。

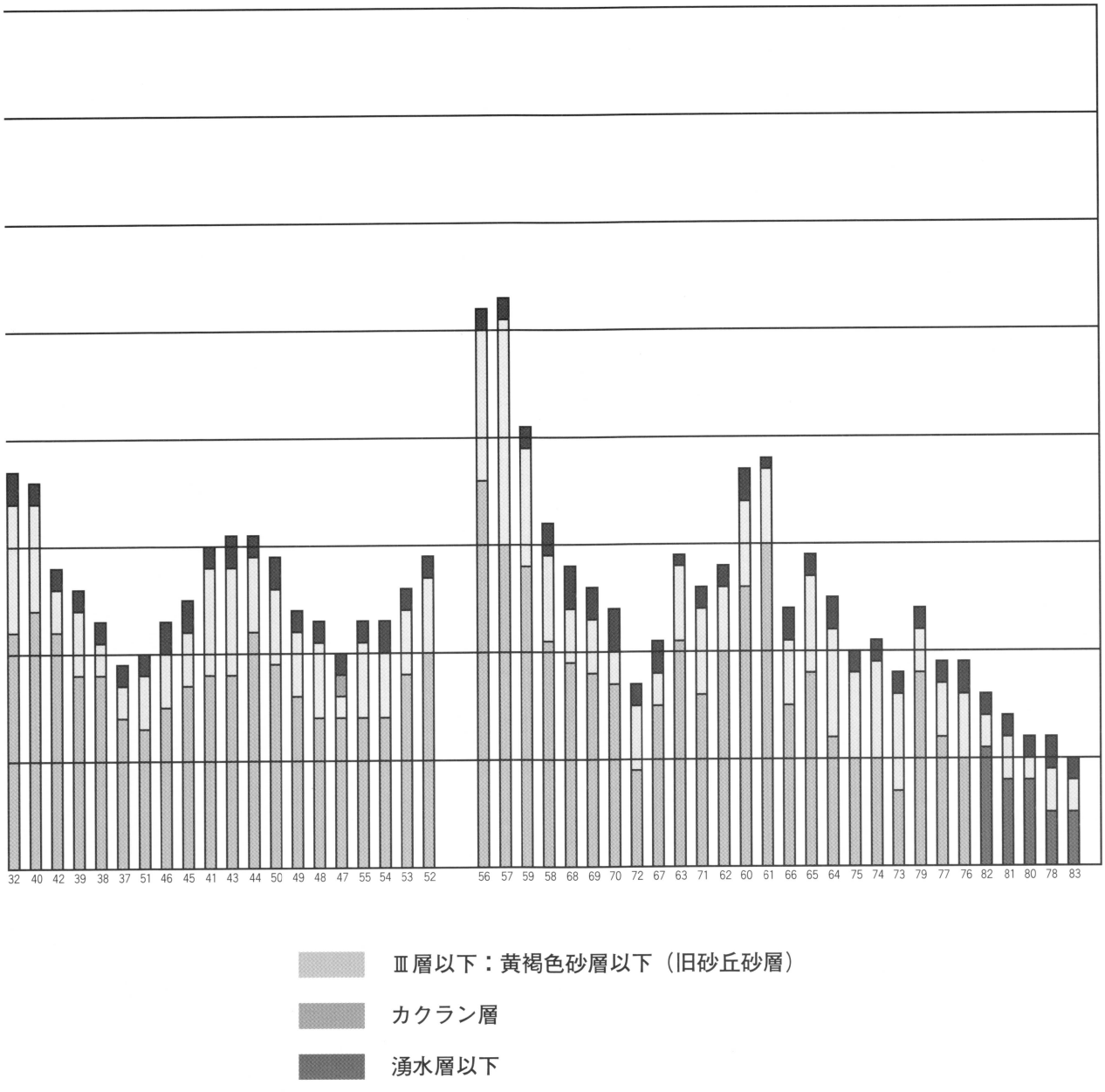


図１　五月女萢遺跡　基本層序模式図

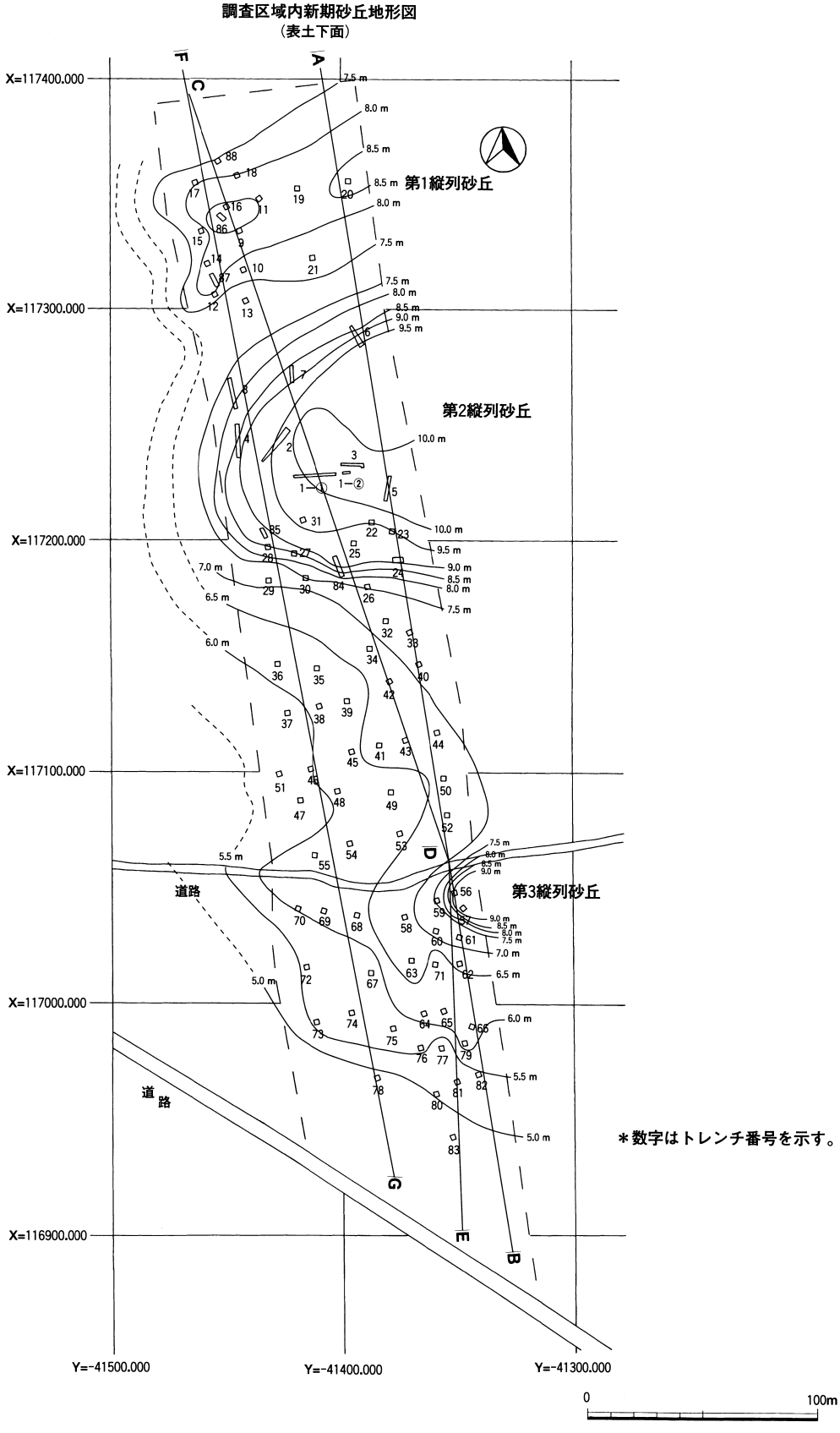
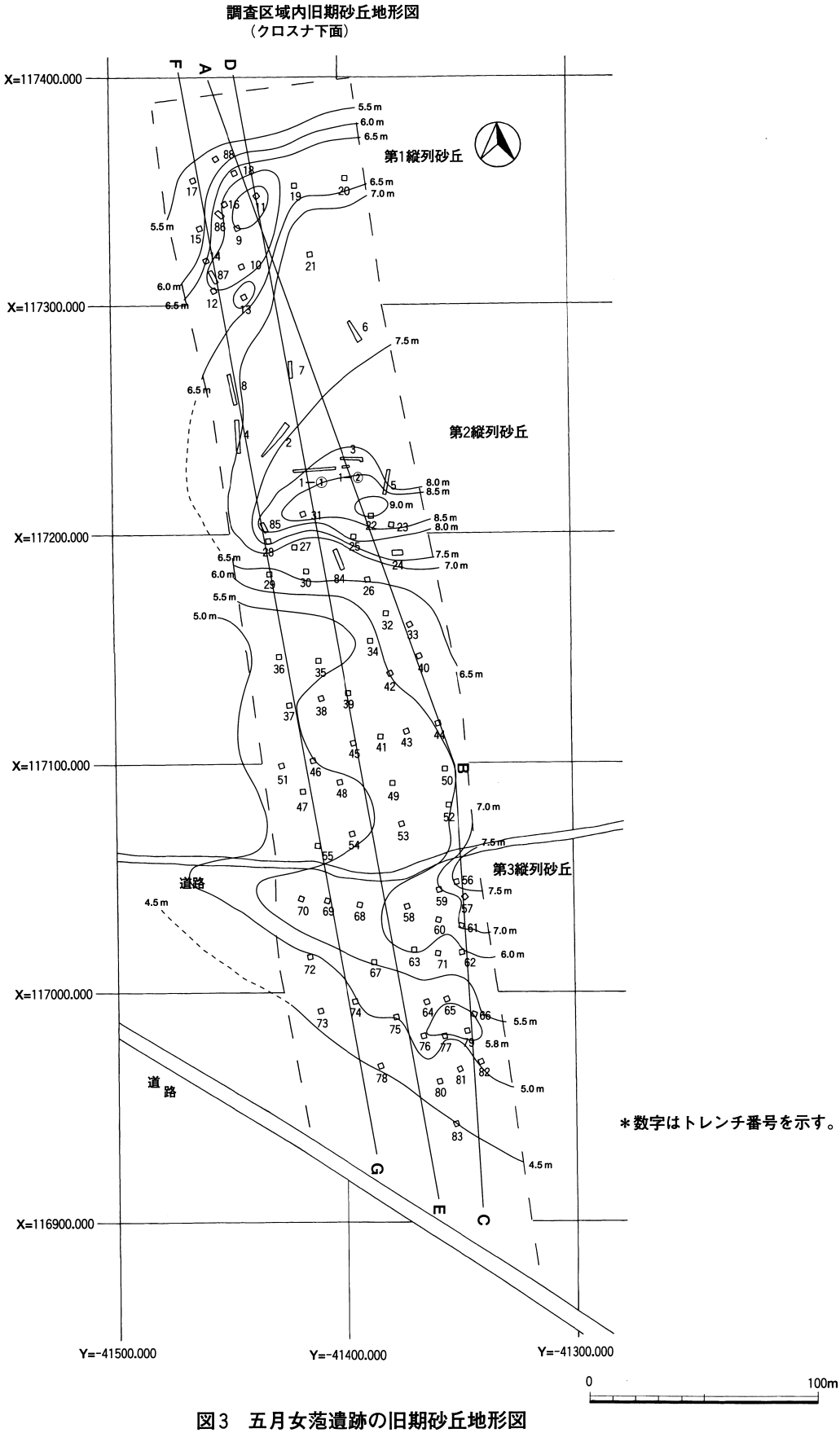


図2　五月女萢遺跡の新期砂丘地形図



＊数字はトレンチ番号を示す。

図3　五月女萢遺跡の旧期砂丘地形図

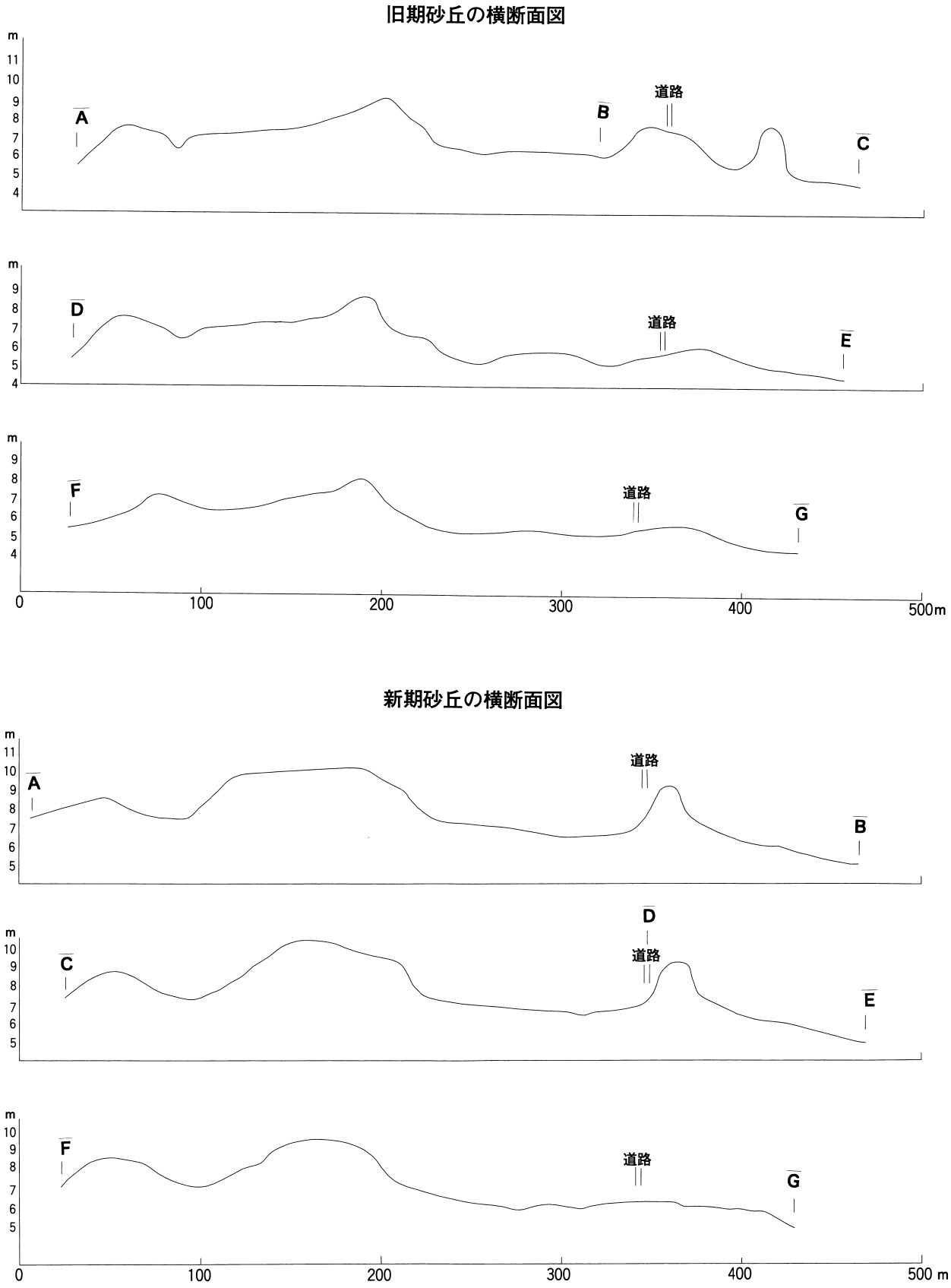


図 4　旧期砂丘と新期砂丘の横断面図

遺物観察表

凡　例

＜土器観察表＞

番　　号：報告書の通し番号。

器　　種：用途・形態別の名称。

分　　類：第１群～第７群土器に分類した。

なお、分類の詳細は「第Ⅱ章　３．土器の分類について」を参照のこと。

外面・文様ほか：外面文様の観察。

地　　文：ＬＲ・ＲＬなど地文に施された縄文原体を表記。

備　　考：特記事項を記入。

整理番号：遺物の注記番号を示す。

写真図版：遺物写真の掲載図版番号を示す。

＜石器観察表＞

番　　号：報告書の通し番号。

地　　点：トレンチ名を示す。

層　　位：出土した層位を示す。

種　　類：用途別の分類名称。

最 大 長：センチメートルで示した。

最 大 幅：センチメートルで示した。

最 大 厚：センチメートルで示した。

石　　質：肉眼観察による。

重　　量：グラムで示した。

備　　考：特記事項を記入。

写真図版：遺物写真の掲載図版番号を示す。

第３表 五月女萢遺跡　土器観察表

番号	器 種	分 類	外面・文様ほか	地文	備 考	整理番号	写真図版
1	注口	第1群	胴上半－貼瘤に連結する帯状文、胴下半－無文	LR		1T・19	図版12-2
2	(深)鉢	第7群	口唇－刻目(小波状)、口縁－隆帯上に列点文			1T・17	図版12-1
3	皿	第7群	胴－無文・ミガキ			1T・11-4	図版11-2
4	(深)鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		1T・10	図版12-1
5	深鉢	第7群		LR	粗製、外面－炭化物	1T・01・02ほか	図版24-6
6	土偶					1T・14	図版12-1
7	深鉢			LR	粗製	1T・22	図版12-1
8	鉢	第5群	口唇－B形突起、胴－平行線化した入組文	LR	外面－炭化物	1T・08	図版9-1
9	浅鉢	第7群	口唇－山形突起・沈線・刻文、口縁－平行沈線		時期不明	1T・11-3	図版12-1
10	壷or注口	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線・LR充填			1T・349-1ほか	図版7-1
11	(深)鉢	第1群	口縁－平縁、胴－貼瘤・沈線文			1T・350	図版7-1
12	壷or注口	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線・LR充填			1T・353	図版7-1
13	壷or注口	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線・LR充填			1T・352	図版7-1
14	壷or注口	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線文			1T・348	図版7-1
15	(深)鉢	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線・LR充填		内外面－摩滅	1T・351	図版7-1
16	(深)鉢	第1群	口縁～胴－貼瘤・沈線・LR充填		内面－摩滅	1T・347	図版7-1
17	(深)鉢	第2群	口縁～胴－入組三叉文？	LR		1T・30	図版7-1
18	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、S字文・平行沈線間に短沈線	LR	285と接合	1T・48	図版7-1
19	(深)鉢	第2群	口縁～胴－入組三叉文	LR	外面－炭化物	1T・38	図版7-1
20	(深)鉢	第2群A類	口唇－山形突起、胴－弧線文・魚眼状入組文・入組帯状文	LR	275と接合	1T・47-1・67	図版7-1
21	(深)鉢	第2群	口縁～胴－三叉文	LR		1T・28	図版7-1
22	鉢	第2群B類	口唇－山形突起、口縁－平行沈線間に入組文・短沈線			1T・25	図版7-2
23	鉢	第2群B類	口唇－山形突起、口縁－弧線文、平行沈線間に入組三叉文・短沈線			1T・33-1ほか	図版7-2
24	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－平行沈線間に入組三叉文			1T・35	図版7-2
25	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組三叉文	LR	333と接合	1T・43	図版7-2
26	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組文	LR		1T・37	図版7-2
27	鉢	第2群B類	口唇－B形突起			1T・42	図版7-2
28	鉢	第2群B類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に入組三叉文		内外面－研磨	1T・40	図版7-2
29	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線間に入組三叉文			1T・27	図版7-2
30	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線間に三叉文	LR	内外面－赤彩	1T・260	図版7-2
31	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組文			1T・46	図版7-2
32	鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組三叉文			1T・34	図版7-2
33	鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組三叉文			1T・26	図版7-2
34	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線間に入組三叉文			1T・32	図版7-2
35	鉢	第3群A類	口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－炭化物	1T・54-1ほか	図版8-1
36	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・60	図版8-1
37	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	1T・72-1ほか	図版8-1
38	鉢	第3群A類	口唇－B形突起	LR		1T・56	図版8-1
39	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	1T・61	図版8-2
40	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・64-1ほか	図版8-1
41	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・81	図版8-1
42	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－炭化物	1T・76-1ほか	図版8-1
43	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	1T・73	図版8-1
44	鉢	第3群B類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・106	図版8-2
45	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			1T・66	図版8-2
46	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	1T・62	図版8-2
47	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・87	図版8-1
48	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・63	図版8-2
49	鉢	第3群B類	口唇－刻目・貼瘤、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・77	図版8-2
50	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・89	図版8-2
51	鉢	第3群C類	口唇－貼瘤、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・104	図版8-2
52	鉢	第3群B類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		1T・85	図版8-2
53	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・55	図版8-2
54	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・90	図版8-2
55	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			1T・70	図版8-2
56	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・117	図版8-2
57	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・74	図版8-2
58	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			1T・75	図版8-2
59	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・78-1ほか	図版8-2
60	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	RL	内面－ミガキ	1T・237	図版8-2
61	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内面－炭化物	1T・123	図版8-2
62	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		1T・69	図版8-2
63	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目が2段(列点文)	RL	内外面－炭化物	1T・93	図版9-1
64	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	LR		1T・121	図版9-1
65	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	1T・769-1ほか	図版9-1
66	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL		1T・119	図版9-1
67	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	LR	外面－炭化物	1T・100	図版9-1
68	皿	第4群A類	口唇－沈線、胴－雲形文(半肉彫)	LR		1T・261	図版9-1
69	皿	第4群A類	口唇－沈線、胴－雲形文(半肉彫)	LR		1T・209	図版9-1
70	鉢	第4群A類	口唇－B形突起、頸－刻目、胴－雲形文(半肉彫)	RL		1T・135	図版9-1
71	鉢	第4群A類	口唇－刻目・B形突起、頸－刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－炭化物	1T・132	図版9-1
72	鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR	内外面－研磨	1T・130	図版9-1
73	鉢	第4群A類	口唇－刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－炭化物	1T・134	図版9-1
74	鉢	第4群A類	口唇－刻目、口縁－刻目、胴－雲形文	LR		1T・128	図版9-1
75	皿	第4群A類	口唇－刻目・沈線、胴－雲形文	LR		1T・263	図版9-1
76	鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR	内外面－研磨	1T・129	図版9-1
77	鉢	第5群	口唇－刻目、口縁－平行沈線・貼瘤、胴－平行線化した入組文・工字文・磨消縄文	LR	内面－炭化物	1T・787	図版24-1
78	鉢	第5群	口唇－刻目、胴－平行線化した入組文	LR	内外面－炭化物	1T・181-1ほか	図版9-1

番号	器　種	分　類	外面・文様ほか	地文	備　考	整理番号	写真図版
79	鉢	第5群	口唇－山形突起、胴－平行線化した入組文	LR	内外面－炭化物	1T・184	図版9-1
80	鉢	第5群	口唇－刻目、胴－平行線化した入組文	LR	内面－炭化物	1T・185	図版9-1
81	鉢	第5群	口唇－刻目、胴－平行線化した入組文	LR	内面－炭化物	1T・183	図版9-1
82	鉢	第5群	口唇－刻目、胴－平行線化した入組文	LR		1T・173	図版9-1
83	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文	LR	内面－炭化物	1T・172	図版9-1
84	(浅)鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤		外面－赤彩	1T・247	図版9-2
85	(浅)鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤			1T・210	図版9-2
86	(浅)鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤		内外面－赤彩	1T・213	図版9-2
87	(浅)鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤		内外面－赤彩	1T・215	図版9-2
88	(浅)鉢	第6群	口唇－B形突起、胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤		外面－赤彩	1T・238	図版9-2
89	(浅)鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、π字文		内外面－赤彩	1T・249	図版9-2
90	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－炭化物	1T・765-1ほか	図版24-2
91	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内面－炭化物	1T・766-1ほか	図版24-3
92	鉢	第7群	口縁－無文・平行沈線	RL		1T・764-1ほか	図版24-5
93	鉢	第7群		LR	粗製	1T・768-1ほか	図版24-4
94	鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文		内外面－炭化物	1T・361	図版9-2
95	鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、π字文、平行沈線間に貼瘤		内外面－炭化物	1T・357-1ほか	図版9-2
96	鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、平行沈線間に貼瘤		内外面－炭化物	1T・368	図版9-2
97	鉢	第6群	胴－平行沈線・工字文、π字文、平行沈線間に貼瘤		内外面－炭化物	1T・359	図版9-2
98	深鉢	第7群	口唇－刻目(波状)、粘土紐輪積み痕が明瞭		製塩土器？	1T・234	図版10-2
99	深鉢	第7群		RL	粗製	1T・760	図版10-2
100	深鉢	第7群	口縁－平行沈線	RL		1T・470	図版10-2
101	深鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		1T・644	図版10-2
102	深鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	内外面－炭化物	1T・375	図版10-2
103	深鉢	第7群	口唇－刻目(波状)		製塩土器？	1T・391	図版10-2
104	鉢	第7群	口縁－平行沈線	RL		1T・641	図版10-2
105	深鉢	第7群	口唇－B形突起、口縁－平行沈線	RL	内外面－炭化物	1T・647	図版10-2
106	深鉢	第7群		LR	粗製	1T・753	図版10-2
107	深鉢	第7群		LR	粗製	1T・752	図版10-2
108	深鉢	第7群		LR	粗製	1T・755	図版10-2
109	深鉢	第7群	口唇－B形突起、口縁－平行沈線	RL		1T・461	図版10-2
110	鉢	第7群	口縁－平行沈線、胴－貼瘤	RL	内外面－炭化物	1T・671	図版10-1
111	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線・貼瘤	RL		1T・354-1ほか	図版10-1
112	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線、胴－貼瘤	RL	内外面－炭化物	1T・681	図版10-1
113	鉢	第7群	口縁－平行沈線、胴－貼瘤	LR	内外面－炭化物	1T・437	図版10-1
114	浅鉢	第7群	口縁－平行沈線・補修孔1ヶ	LR		1T・251	図版10-1
115	鉢	第7群	口唇－山形突起、口縁－平行沈線	LR	内外面－炭化物	1T・767-1ほか	図版10-1
116	壷	第5群	胴－平行線化した入組文	LR		1T・268	図版11-1
117	壷	第7群	口唇－山形突起、口縁－平行沈線・隆帯			1T・296	図版11-1
118	壷	第7群	口唇－山形突起・沈線文、口縁－平行沈線・貼瘤			1T・322	図版11-1
119	壷	第7群		RL		1T・305	図版11-1
120	壷	第7群	頸－2条の隆帯上に2個一対の貼瘤を施す	LR		1T・288	図版11-1
121	壷	第7群				1T・289	図版11-1
122	壷	第7群	口径12cm、頸－無文・丁寧なミガキ			1T・318	図版24-7
123	壷	第7群	口縁－平行沈線			1T・310	図版11-1
124	皿	第7群	口縁－平行沈線、胴－無文			1T・248	図版11-2
125	椀	第7群	胴－無文			1T・208	図版11-2
126	椀	第7群	胴－無文			1T・236	図版11-2
127	皿	第7群	胴－無文・ミガキ		外面－赤彩	1T・245	図版11-2
128	皿	第7群	胴－無文			1T・224	図版11-2
129	皿	第7群	胴－無文		内外面－赤彩	1T・233	図版11-2
130	台付鉢	第6群	底径8cm、脚－平行沈線			1T・785	図版25-2
131	台付鉢	第7群	底径8cm、脚－無文			1T・786	図版25-3
132	台付鉢	第7群	底径9.7cm、脚－無文、底部畳付きに隆帯			1T・782	図版25-1
133	台付鉢	第7群	底径9.7cm、底部畳付きにLR縄文	LR		1T・780	図版24-8
134	鉢	第3群？	口縁－平行沈線間に羊歯状文？	LR		1T・340	図版12-1
135	鉢	第7群	口縁－沈線文	LR	時期不明	1T・31	図版12-1
136	鉢	第1～2A群	口唇－貼瘤、口縁－平行沈線間にLR充填・帯状文	LR		1T・341	図版12-1
137	鉢	第7群	口縁－弧状の隆帯、沈線		時期不明	1T・336	図版12-1
138	鉢	第1群？	胴－円形の隆帯上に刻目、後期か			1T・346	図版12-1
139	長頸壷		頸部にリング、五所川原産の須恵器か、古代(10世紀後半～11世紀代)			1T・330	図版12-1
140	注口	第1群				1T・331	図版12-1
141	有孔土製品				用途不明	1T・343	図版12-1
142	鉢	第7群	胴一連弧文？			1T・337	図版12-1
143	広口小壷	第4群	口径7.5cm・器高13cm・最大胴径8.5cm、胴－雲形文(半肉彫)	RL・LR		2T・69-1ほか	図版14-1
144	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			2T・94	図版13-1
145	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			2T・96	図版13-1
146	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		2T・82	図版13-1
147	鉢	第3群B類	口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	2T・97	図版13-1
148	浅鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR	外面－赤彩	2T・84	図版13-1
149	浅鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR	外面－赤彩	2T・86	図版13-1
150	浅鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR	外面－赤彩	2T・85	図版13-1
151	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文・磨消縄文	LR	内外面－炭化物	2T・91	図版13-1
152	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文・磨消縄文	LR	内面－炭化物	2T・80	図版13-1
153	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	外面－炭化物	2T・70-1ほか	図版13-1
154	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文・磨消縄文	LR	外面－炭化物	2T・88	図版13-1
155	鉢	第7群		LR	内外面－炭化物	2T・87	図版13-1
156	(深)鉢	第7群	粗製	LR	内外面－炭化物	2T・83	図版13-1

番号	器 種	分 類	外面・文様ほか	地文	備 考	整理番号	写真図版
157	鉢	第7群		LR		2T・79	図版13-1
158	鉢	第5群	口縁～胴－平行沈線・貼瘤・磨消縄文	LR	内外面－炭化物	2T・95	図版13-1
159	(深)鉢	第7群	粗製	LR	外面－炭化物	2T・81	図版13-1
160	皿	第7群	無文			2T・78	図版13-1
161	鉢	第7群		LR	内外面－炭化物	2T・90	図版13-1
162	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		2T・92	図版13-1
163	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	2T・89	図版13-1
164	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	LR・RL羽状		2T・93	図版13-1
165	壷	第7群	口縁－沈線・貼瘤			2T・77	図版13-1
166	壷	第7群	口唇－刻目、口縁－隆帯・沈線			2T・75・103	図版13-1
167	壷	第7群	口縁－沈線			2T・76	図版13-1
168	(深)鉢	第7群	粗製	LR	外面－炭化物	2T・72	図版13-1
169	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・08	図版13-1
170	(深)鉢	第7群	粗製	RL	内外面－炭化物	2T・73	図版13-1
171	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線、胴－雲形文(半肉彫)	RL		2T・46	図版13-1
172	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	2T・15	図版13-1
173	(深)鉢	第7群	粗製	LR		2T・74	図版13-1
174	鉢	第2群A類	口唇－山形突起、弧線文・平行沈線間に短沈線		内面－炭化物	2T・120	図版13-2
175	鉢	第2群	口唇－B形突起、胴－平行沈線		内面－炭化物	2T・119	図版13-2
176	鉢	第2群A類	胴－入組帯状文	LR		2T・112	図版13-2
177	鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		2T・114	図版13-2
178	鉢	第3群B類	口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		2T・111	図版13-2
179	鉢	第3群A類	口縁－平行沈線間に羊歯状文			2T・116	図版13-2
180	鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目			2T・113	図版13-2
181	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－炭化物	2T・118	図版13-2
182	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目、胴－補修孔2ヶ	LR		2T・121	図版13-2
183	浅鉢	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・122	図版13-2
184	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			2T・124	図版13-2
185	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線・細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・101	図版13-2
186	浅鉢	第4群A類	口唇－B形突起・沈線、口縁－平行沈線、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・99	図版13-2
187	浅鉢	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線・細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・123	図版13-2
188	鉢	第4群A類	口縁－平行沈線・細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		2T・98	図版13-2
189	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	LR		2T・117	図版13-2
190	鉢	第7群	口唇－刻目・B形突起、胴－平行沈線間に連続した短沈線を巡らす・貼瘤		外面－摩滅	2T・105	図版13-2
191	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	外面－炭化物	2T・106	図版13-2
192	鉢	第5群	口唇－刻目、胴－平行沈線・貼瘤		内外面－炭化物	2T・109	図版13-2
193	椀	第7群	無文		内面－炭化物	2T・108	図版13-2
194	(深)鉢	第7群	粗製	LR		2T・115	図版13-2
195	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		2T・107	図版13-2
196	壷	第7群	口唇－小波状、口縁－沈線			2T・104	図版13-2
197	皿	第7群	口縁－平行沈線		外面－摩滅	2T・100	図版13-2
198	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	外面－炭化物	2T・110	図版13-2
199	壷	第7群	無文			2T・102-1ほか	図版13-2
200	土製勾玉		長さ2.3cm、幅7mm、厚さ5mm、径2mmの孔		晩期	2T・125	図版25-4
201	(深)鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	粗製、外面－炭化物	4T・08	図版14-2
202	壷	第7群	口唇－山形突起			4T・10	図版14-2
203	鉢	第5群	胴－工字文・磨消状文・貼瘤	LR	内外面－炭化物	4T・09・72-2	図版14-2
204	(深)鉢	第7群	無文		厚手	4T・06・07	図版14-2
205	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		4T・21	図版14-2
206	壷	第5群	頸－平行沈線間にLR充填			4T・25	図版14-2
207	鉢	第5群	胴－平行沈線間にLR充填	LR		4T・76	図版14-2
208	浅鉢	第6群	口縁～胴－平行沈線間に貼瘤		内外面－赤彩	4T・72-1	図版14-2
209	(深)鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	粗製、内外面－摩滅	4T・51	図版14-2
210	壷	第7群	口唇－隆帯上に貼瘤			4T・26	図版14-2
211	鉢	第6群？	口縁－平行沈線		内外面－摩滅	4T・33	図版14-2
212	壷	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文		内外面－摩滅	4T・68	図版14-2
213	壷	第7群	胴－沈線	LR		4T・74-6	図版14-2
214	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)			4T・74-7	図版14-2
215	(深)鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR	内外面－炭化物	4T・74-12	図版14-2
216	浅鉢	第7群	口縁－平行沈線、胴－無文			4T・74-9	図版14-2
217	(深)鉢	第3群C類	胴－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内面－炭化物	4T・74-19	図版14-2
218	鉢	第3群	口縁－平行沈線間に羊歯状文			4T・74-11	図版14-2
219	椀	第7群	無文			4T・74-15	図版14-2
220	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文	LR	内面－炭化物	4T・74-13	図版14-2
221	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		4T・74-2	図版14-2
222	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線			4T・74-16	図版14-2
223	(深)鉢	第7群	口縁－平行沈線、胴－無文			4T・74-8	図版14-2
224	(深)鉢	第7群	無文		外面－丁寧な磨き	4T・74-14	図版14-2
225	鉢	第7群		LR	粗製	4T・74-3	図版14-2
226	鉢	第7群	口唇－B形突起、円文	LR		4T・74-4	図版14-2
227	台付鉢	第6群	胴－工字文、脚－平行沈線・工字文、底径6.6cm			3T・01	図版25-5
228	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線	LR	内外面－摩滅	8T・03	図版15-1
229	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線	LR		8T・18	図版15-1
230	壷	第7群	胴－無文・黒色研磨			9T・11～14ほか	図版25-6

番号	器 種	分 類	外面・文様ほか	地文	備 考	整理番号	写真図版
231	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線	LR	外面－摩滅	28T・74	図版15-1
232	鉢	第7群	頸－平行沈線間に貼瘤、胴－無文			28T・58	図版15-1
233	鉢	第7群	口縁－平行沈線	RL		28T・76	図版15-1
234	鉢	第4群A類	口唇－沈線、胴－雲形文(半肉彫)	LR		28T・65	図版15-1
235	(深)鉢	第7群		LR	粗製	28T・60	図版15-1
236	浅鉢	第6群	胴－平行沈線		内外面－丁寧なミガキ	28T・51	図版15-1
237	注口	第3群C類	胴－平行沈線間に大振りな刻目		外面－丁寧なミガキ	28T・69	図版15-1
238	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		28T・56	図版15-1
239	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－摩滅	23T・04	図版15-2
240	鉢	第3群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－摩滅	23T・05-1	図版15-2
241	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線	LR	内外面－摩滅	23T・03	図版15-2
242	壷	第5群	胴－平行線化した入組文	LR		23T・107-4	図版15-2
243	(深)鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－沈線	LR		23T・107-3	図版15-2
244	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線	LR		23T・107-7	図版15-2
245	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－摩滅	23T・107-9ほか	図版15-2
246	鉢	第6群	口縁－平行沈線、胴－矢羽根状文	LR	内外面－摩滅	23T・107-5	図版15-2
247	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)		内外面－摩滅	23T・107-8	図版15-2
248	鉢	第3群	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文		内外面－摩滅	23T・107-6	図版15-2
249	鉢	第2群	胴－三叉文？	LR	内面－炭化物	23T・107-1	図版15-2
250	浅鉢	第7群	口唇－山形突起、口縁－平行沈線・入組文？	RL	内外面－摩滅	23T・107-2	図版15-2
251	(深)鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－沈線	LR	内外面－摩滅	23T・110	図版15-2
252	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文		内外面－摩滅	23T・108	図版15-2
253	壷	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文		内外面－摩滅	23T・113-3	図版15-2
254	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線		内外面－摩滅	23T・112-3	図版15-2
255	鉢	第3群C類	口唇－B形突起、胴－平行沈線間に大振りな刻目	LR		23T・114-3	図版15-2
256	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目		内外面－摩滅	23T・113-1	図版15-2
257	鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目		内外面－摩滅	23T・115	図版15-2
258	壷	第7群	口唇－B形突起			23T・109	図版15-2
259	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－摩滅	23T・112-2	図版15-2
260	鉢	第2群B類	胴－三叉文？		内外面－摩滅	23T・112-1	図版15-2
261	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－摩滅	23T・113-2	図版15-2
262	鉢	第7群	口縁－平行沈線、胴－貼瘤痕			23T・114-2	図版15-2
263	(深)鉢	第7群		LR	粗製	23T・27	図版15-2
264	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	23T・96	図版15-2
265	鉢	第3群	口縁－羊歯状文			23T・49	図版15-2
266	(深)鉢	第1群	口唇－山形突起・平行沈線	LR		23T・102	図版15-2
267	土偶		肩部		内外面－丁寧なミガキ	23T・53	図版15-2
268	注口				内外面－丁寧なミガキ	23T・66	図版15-2
269	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		23T・71	図版15-2
270	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線	LR		23T・28	図版15-2
271	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－細かい刻目(列点文)が2列、口径13.8cm、器高8.4cm、底径5.3cm	LR・RL羽状	内外面－炭化物	23T・60・78ほか	図版26-2
272	壷	第7群	無文、徳利形		外面－丁寧なミガキ	23T・82-1	図版25-8
273	深鉢	第4群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)が2列、貼瘤	RL	内外面－炭化物	23T・67-1ほか	図版25-7
274	深鉢	第4群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)が2列	RL	内外面－炭化物	23T・33・70ほか	図版26-1
275	深鉢	第2群A類	胴－入組文・平行沈線間に短沈線	LR	20と接合	24T・21	図版16-1
276	深鉢	第7群		LR	粗製	24T・15	図版16-1
277	深鉢	第2群A類	胴－入組文	LR		24T・30	図版16-1
278	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－入組文	LR	内外面－黒色研磨	24T・25	図版16-1
279	鉢	第3群	口縁－平行沈線に羊歯状文・貼瘤	LR	内外面－黒色研磨	24T・10	図版16-1
280	鉢	第3群	口唇－山形突起・刻目、口縁－平行沈線に羊歯状文？			24T・28	図版16-1
281	深鉢	第2群	胴－沈線			24T・26	図版16-1
282	鉢	第2群B類	口唇－B形突起、口縁－入組三叉文・平行沈線間に短沈線、口径11cm、器高6cm	LR	器壁非常に薄い	24T・12-2	図版26-8
283	鉢	第2群A類	口唇－B形突起、口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線、口径15.2cm、器高11.2cm、底径7.5cm	LR	内面－炭化物	24T・12-1	図版26-3
284	小壷	第2群	口径1.5cm、器壁非常に薄い、無文、卵形、最大幅7.7cm、器高8.3cm			24T・13-1	図版26-5
285	深鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線・入組文	LR	18と接合	24T・20	図版16-1
286	壷	第2群	口縁－無文・ほぼ直口、胴－卵形、口径9cm、器高14.4cm、底径9cm	LR	粗製	24T・24-1	図版26-4
287	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・櫛描文			24T・48	図版16-2
288	壷or注口	第1群	胴－貼瘤に連結する帯状文	LR		24T・49	図版16-2
289	鉢	第1群	胴－貼瘤・沈線文			24T・47	図版16-2
290	壷or注口	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・63	図版16-2
291	壷or注口	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・69	図版16-2
292	鉢	第1～2A群	口縁－入組帯状文	LR		24T・46	図版16-2
293	鉢	第2群A類	口唇－山形突起、口縁－弧線文・山形三叉文	LR		24T・104	図版16-2
294	鉢	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・61	図版16-2
295	鉢	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・56	図版16-2
296	鉢	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・62	図版16-2
297	鉢	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR		24T・71	図版16-2
298	壷or注口	第1～2A群	胴－入組帯状文	LR	外面－黒色研磨	24T・72	図版16-2
299	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に弧線文・三叉文・入組文	LR	323と接合	24T・51-1ほか	図版17-2
300	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線・弧線文	LR		24T・52	図版17-2
301	(深)鉢	第2群A類	胴－入組帯状文・三叉文	LR		24T・58	図版17-2
302	(深)鉢	第2群A類	胴－入組帯状文・三叉文	LR		24T・60	図版17-2
303	(深)鉢	第2群A類	胴－入組帯状文・三叉文	LR		24T・65	図版17-2
304	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・77	図版17-2

番号	器種	分類	外面・文様ほか	地文	備考	整理番号	写真図版
305	(深)鉢	第2群A類	口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・66	図版17-2
306	(深)鉢	第2群A類	口縁－平行沈線間に短沈線	LR		24T・78	図版17-2
307	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線・入組文	LR		24T・75-1ほか	図版17-2
308	鉢	第2群A類	胴－入組帯状文	LR		24T・64-1ほか	図版17-2
309	(深)鉢	第2群A類	口縁－平行沈線間に短沈線	LR		24T・70	図版17-2
310	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線・帯状文	LR		24T・67	図版17-2
311	鉢	第2群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に弧線文	LR		24T・81	図版17-2
312	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－弧線文	LR		24T・99	図版17-2
313	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線・弧線文	LR	内面－炭化物	24T・79	図版17-2
314	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・83	図版17-2
315	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－S字状文	LR		24T・101	図版17-2
316	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－S字状文	LR		24T・91	図版17-2
317	鉢	第2群A類	口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・88	図版17-2
318	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR	内面－炭化物	24T・89	図版17-2
319	鉢	第2群A類	口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR	内面－炭化物	24T・92	図版17-2
320	(深)鉢	第2群A類	口唇－B形突起、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・93-1ほか	図版17-2
321	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－弧線文・入組帯状文	LR		24T・97	図版17-2
322	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－S字状文・平行沈線間に短沈線・弧線文・三叉文・入組文	LR		24T・102-1ほか	図版17-1
323	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線・三叉文・入組文	LR	299と接合	24T・105-1ほか	図版17-1
324	鉢	第2群A類	口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・73-1ほか	図版18-1
325	鉢	第2群B類	口縁－入組三叉文			24T・76	図版18-1
326	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線間に短沈線			24T・68	図版18-1
327	鉢	第2群B類	口縁－入組三叉文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・90	図版18-1
328	鉢	第2群B類	口縁－三叉文・平行沈線			24T・85	図版18-1
329	鉢	第2群B類	口縁－入組三叉文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・82	図版18-1
330	鉢	第2群B類	口縁－入組文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・57	図版18-1
331	(深)鉢	第2群B類	口縁－入組文・三叉文・平行沈線	LR		24T・55-1ほか	図版18-2
332	鉢	第2群A類	口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線	LR		24T・94	図版18-1
333	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－入組文・平行沈線	LR	25と接合	24T・95	図版18-2
334	(深)鉢	第2群B類	口縁－入組文・平行沈線	RL		24T・59	図版18-2
335	(深)鉢	第2群B類	口縁－入組文・平行沈線	LR		24T・53	図版18-2
336	(深)鉢	第2群B類	口縁－入組文・平行沈線	LR		24T・100	図版18-2
337	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線間に斜線			24T・80	図版18-1
338	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－入組三叉文・平行沈線間に短沈線	LR	内外面－炭化物	24T・98	図版18-2
339	(深)鉢	第2群B類	口唇－刻目(小波状)、口縁－平行沈線間に入組三叉文	LR		24T・96	図版18-2
340	注口	第2群	口縁－沈線		外面－黒色研磨	24T・166	図版26-7
341	注口	第2群	口縁－沈線、口径10.8cm		外面－黒色研磨	24T・163	図版26-7
342	注口	第2群	最大幅11.5cm		外面－黒色研磨	24T・246-1ほか	図版26-6・7
343	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・200	図版19-1
344	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・201	図版19-1
345	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・207	図版19-1
346	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・208	図版19-1
347	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・213	図版19-1
348	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			24T・214	図版19-1
349	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			24T・218	図版19-1
350	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			24T・240	図版19-1
351	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・217	図版19-1
352	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文・貼瘤	LR		24T・216	図版19-1
353	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	24T・226	図版19-1
354	鉢	第3群A類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	24T・219	図版19-1
355	鉢	第3群A類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	24T・221・238	図版19-1
356	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・234	図版19-1
357	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	24T・229	図版19-1
358	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文・貼瘤	LR	内面－炭化物	24T・232	図版19-1
359	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			24T・241-1ほか	図版19-1
360	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・236	図版19-1
361	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内面－炭化物	24T・237	図版19-1
362	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・242	図版19-1
363	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・203	図版19-2
364	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文			24T・211	図版19-2
365	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内面－炭化物	24T・224	図版19-2
366	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・228	図版19-2
367	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・235	図版19-2
368	鉢	第3群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		24T・244	図版19-2
369	(深)鉢	第3群？	口唇－刻目、口縁－羊歯状文？			24T・50	図版19-2
370	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－炭化物	24T・205	図版20-1
371	(深)鉢	第3群	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文？・入組文	LR	内面－炭化物	24T・54	図版19-2
372	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・84	図版20-1
373	浅鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－赤彩	24T・181	図版20-1
374	鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・199	図版20-1
375	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	RL		24T・212	図版20-1
376	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－炭化物	24T・222	図版20-1
377	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－炭化物	24T・209	図版20-1
378	皿	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・190	図版20-2
379	皿	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・192	図版20-2
380	鉢	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ・	24T・186	図版20-2

番号	器　種	分　類	外面・文様ほか	地文	備　考	整理番号	写真図版
381	皿	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・187	図版20-2
382	皿	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・189	図版20-2
383	皿	第4群A類	口唇－沈線、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・191	図版20-2
384	皿	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・184	図版20-2
385	皿	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・193	図版20-2
386	皿	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・195	図版20-2
387	皿	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内面－丁寧なミガキ	24T・194	図版20-2
388	皿	第5群	口唇－刻目、胴－平行線化した入組文	LR		24T・188	図版20-2
389	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL		24T・177	図版21-1
390	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	24T・204	図版21-1
391	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	24T・178	図版21-1
392	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・230	図版20-1
393	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・231	図版20-1
394	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・227	図版20-1
395	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			24T・243	図版20-1
396	鉢	第3群C類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・215	図版20-1
397	皿	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・183	図版19-2
398	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR	内外面－炭化物	24T・225	図版20-1
399	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・233	図版20-1
400	皿	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・185	図版19-2
401	皿	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・202	図版19-2
402	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		24T・220	図版18-1
403	椀	第7群	無文			24T・165	図版21-1
404	椀	第7群	無文			24T・167	図版21-1
405	浅鉢	第6群	口唇－山形突起、胴－平行沈線・工字文		内面－赤彩	24T・180	図版21-1
406	皿	第6群	口径6.9cm、器高2.5cm、無文			24T・245	図版27-2
407	浅鉢	第7群	口縁－平行沈線		内外面－丁寧なミガキ	24T・196	図版21-1
408	(深)鉢	第1群	胴－縦位に2条の隆帯、平行沈線間に2段の刻目、弧線文の間にLR充填	LR	後期末？	24T・206	図版21-1
409	台付鉢	第7群	B形突起が2ヶ、底径15.2cm	LR		24T・172	図版27-4
410	台付鉢	第7群	胴～台部に隆帯、底径12.8cm	LR		24T・176-1ほか	図版27-3
411	皿	第4群B類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内面－丁寧なミガキ	24T・248-1ほか	図版27-1
412	壷	第7群	推定口径10cm			24T・147	図版21-2
413	壷	第7群	推定口径8cm	LR		24T・148	図版21-2
414	壷	第7群	推定口径9cm			24T・149	図版21-2
415	壷	第7群	推定口径9cm	LR		24T・150	図版21-2
416	壷	第7群	推定口径10cm	LR		24T・151	図版21-2
417	壷	第7群	推定口径10cm	LR	内外面－摩滅	24T・157	図版21-2
418	壷	第7群	推定口径7cm	LR		24T・156	図版21-2
419	壷	第7群	推定口径10cm			24T・152	図版21-2
420	壷	第7群	推定口径9cm	LR		24T・159-1ほか	図版21-2
421	壷	第7群	推定口径10cm	LR		24T・155	図版21-2
422	壷	第7群	胴－無文、推定口径10cm			24T・164	図版21-2
423	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・沈線文		外面－丁寧なミガキ	25T・05-1ほか	図版27-6
424	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・襷掛状沈線文		外面－丁寧なミガキ	25T・02ほか	図版27-7
425	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・04	図版22-1
426	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・03	図版22-1
427	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・22-10	図版22-1
428	浅鉢	第5群	胴－平行線化した入組文	LR	内面－摩滅	25T・22-4	図版22-1
429	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	RL		25T・22-3	図版22-1
430	台付鉢	第7群	底径5.1cm	LR		25T・01	図版27-5
431	鉢	第3群B類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR	内外面－摩滅	25T・22-9	図版22-1
432	鉢	第3群C類	口唇－小波状、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			25T・22-2	図版22-1
433	鉢	第7群	口唇－B形突起、口縁－平行沈線	RL		25T・14-39ほか	図版22-2
434	鉢	第2群B類？	胴－平行沈線	LR		25T・14-1	図版22-2
435	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線	LR		25T・14-21	図版22-2
436	浅鉢	第4群A類	口唇－B形突起、口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)		外面－摩滅	25T・14-10	図版22-2
437	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)	LR		25T・14-28	図版22-2
438	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL		25T・15-13	図版22-2
439	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL		25T・15-3	図版22-2
440	鉢	第2群B類	胴－入組三叉文			25T・15-7	図版22-2
441	(深)鉢	第7群		LR	粗製	25T・16-17	図版22-2
442	(深)鉢	第1群	胴－平行沈線間にRL充填・貼瘤、沈線文	RL	内面－炭化物	25T・16-24	図版22-2
443	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線	LR		25T・16-1	図版22-2
444	注口	第2群B類	胴－入組三叉文		外面－研磨	25T・17-1	図版22-2
445	鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・16-13	図版22-2
446	鉢	第7群	口唇－B形突起、口縁－平行沈線・貼瘤	RL		25T・18-21ほか	図版22-2
447	壷or注口	第1群	胴－平行沈線間にRL充填・貼瘤、沈線文	RL		25T・16-16	図版22-2
448	(深)鉢	第3群C類	口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・19-18ほか	図版22-2
449	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・沈線文			25T・19-13	図版22-2
450	鉢	第1群	胴－入組帯状文・沈線間に刻目	LR	内面－炭化物	25T・19-39ほか	図版22-2
451	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・沈線文			25T・19-23ほか	図版22-2
452	(深)鉢	第1群	口縁－平行沈線間にLR充填・貼瘤	LR	内外面－炭化物	25T・20-3ほか	図版22-2

番号	器 種	分 類	外面・文様ほか	地文	備 考	整理番号	写真図版
453	壷or注口	第1群	胴－無文			25T・20-15	図版22-2
454	鉢	第2群	口唇－刻目、口縁－弧線文・入組文？			25T・20-18	図版22-2
455	鉢	第2群？	胴－沈線	LR		25T・21-13	図版22-2
456	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・23-2	図版22-1
457	鉢	第7群	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線	RL		25T・23-17	図版22-1
458	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		25T・23-5	図版22-1
459	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線・入組帯状文？・三叉文	LR		25T・23-16	図版22-1
460	(深)鉢	第2群A類	胴－玉抱き三叉文・平行沈線に大振りな刻目	LR		25T・23-7	図版22-1
461	鉢	第2群A類	胴－三叉文・平行沈線間に短沈線	LR		25T・23-19	図版22-1
462	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		25T・23-4	図版22-1
463	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁～胴－平行沈線間に短沈線・三叉文？			25T・23-12	図版22-1
464	浅鉢	第7群	口唇－短沈線・B形突起	LR		25T・23-1	図版22-1
465	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・沈線文			25T・23-14	図版22-1
466	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・沈線文			25T・23-6	図版22-1
467	壷or注口	第1群	胴－貼瘤・(襷掛状)沈線文			25T・23-15	図版22-1
468	鉢	第5群	胴－平行沈線にLR充填	LR		25T・23-8	図版22-1
469	鉢	第5群	胴－平行沈線にLR充填	LR		25T・23-9	図版22-1
470	壷？	第7群	無文		外面－丁寧な磨き	31T・20	図版23-2
471	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内面－炭化物	31T・99	図版23-2
472	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内面－炭化物	31T・69・71	図版23-2
473	鉢	第2群B類	口縁－平行沈線・入組文		内外面－炭化物	31T・121-22	図版23-2
474	注口	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線		外面－丁寧な磨き	31T・120-11	図版23-2
475	鉢	第4群A類	胴－雲形文(半肉彫)	LR		31T・117-8	図版23-2
476	鉢	第2群A類	口縁－平行沈線間に短沈線	LR		31T・120-10	図版23-2
477	壷	第5群	胴－平行沈線間に連続する短沈線・入組文			31T・119-5	図版23-2
478	壷	第7群	口唇－B形突起			31T・111	図版23-2
479	鉢	第6群	口縁～胴－平行沈線・工字文・貼瘤		外面－赤彩	31T・115	図版23-2
480	鉢	第6群	口縁～胴－平行沈線・工字文・貼瘤		内外面－赤彩	31T・113	図版23-2
481	鉢	第6群	口縁～胴－平行沈線・工字文・貼瘤		外面－赤彩	31T・112	図版23-2
482	鉢	第5群	胴－平行沈線・貼瘤	LR		31T・125-9ほか	図版23-1
483	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		31T・125-3	図版23-1
484	鉢	第5群	胴－平行沈線・貼瘤	LR		31T・110ほか	図版23-1
485	鉢	第7群	口唇－刻目、口縁－平行沈線	RL		31T・124-6ほか	図版23-1
486	(深)鉢	第5群	口縁－平行沈線・入組文(π字文)	RL		31T・124-1	図版23-1
487	鉢	第5群	胴－平行沈線・貼瘤	RL	内面－炭化物	31T・124-5ほか	図版23-1
488	鉢	第5群	口縁－平行沈線、胴－平行線化した入組文	LR		31T・125-8	図版23-1
489	(深)鉢	第7群	粗製	LR		31T・124-17ほか	図版23-2
490	浅鉢	第6群	口唇－山形突起、胴－平行沈線		外面－赤彩	31T・124-4	図版23-1
491	(深)鉢	第7群	粗製、補修孔1ヶ	LR	外面－炭化物	31T・117-2ほか	図版23-1
492	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文		内面－炭化物	31T・126-23	図版23-1
493	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文		内面－炭化物	31T・125-13	図版23-1
494	鉢	第3群A類	口唇－刻目・B形突起、口縁－平行沈線間に羊歯状文			31T・124-16	図版23-1
495	鉢	第2群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に入組文	LR		31T・125-11	図版23-1
496	鉢	第5群	口縁－平行沈線・貼瘤		内面－炭化物	31T・124-14	図版23-1
497	鉢	第7群	口縁－平行沈線	RL		31T・125-6	図版23-1
498	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		31T・124-9	図版23-1
499	壷	第5群	胴－平行線化した入組文	LR		31T・126-5	図版23-1
500	鉢	第6群	胴－平行沈線・矢羽根状文			31T・124-10	図版23-1
501	鉢	第7群	口縁－平行沈線	LR		31T・124-11	図版23-1
502	鉢	第4群B類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL	内外面－炭化物	31T・124-8	図版23-1
503	浅鉢	第6群	胴－平行沈線		外面－赤彩	31T・126-14	図版23-1
504	鉢	第2群	胴－三叉文？	LR		31T・126-6	図版23-1
505	注口	第2群	胴－平行沈線間に短沈線		外面－黒色研磨	31T・126-25	図版23-1
506	鉢	第4群B類	口縁－平行沈線間に細かい刻目(列点文)	RL		31T・124-15	図版23-1
507	鉢	第7群	胴－沈線	LR		31T・124-13	図版23-1
508	注口	第4群	胴－隆帯上に2個一対の貼瘤、胴下半に雲形文	LR	内外面－赤彩	31T・125-12	図版23-2
509	鉢	第5群	口縁－平行沈線・工字文・貼瘤	LR		31T・127-1	図版23-2
510	壷	第7群	口唇－隆帯上に沈線・貼瘤			31T・127-3	図版23-2
511	浅鉢	第6群	口縁～胴－平行沈線		外面－赤彩	31T・128-3	図版23-2
512	(深)鉢	第2群A類	胴－平行沈線間に短沈線	LR		31T・128-8	図版23-2
513	皿	第6群	胴－平行沈線・入組文・工字文		内外面－赤彩	31T・127-2	図版23-2
514	浅鉢	第4群A類	口縁－平行沈線間に細かい刻目、胴－雲形文(半肉彫)			31T・128-2	図版23-2
515	鉢	第3群A類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に羊歯状文	LR		31T・127-7	図版23-2
516	鉢	第5群	胴－平行線化した入組文	LR	外面－摩滅	84T・01	図版15-1
517	壷	第5群	胴－平行線化した入組文・貼瘤	LR		84T・6	図版15-1
518	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目	LR		85T・6	図版15-1
519	鉢	第3群C類	口唇－刻目、口縁－平行沈線間に大振りな刻目			85T・8	図版15-1
520	皿	第4群A類	口唇－沈線、胴－雲形文(半肉彫)	LR	内外面－赤彩	85T・01・05-1	図版15-1
521	鉢	第2群A類	口唇－B形突起、口縁－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		87T・16	図版15-1
522	(深)鉢	第2群A類	口縁－弧線文・平行沈線間に短沈線	LR		87T・18-2	図版15-1
523	鉢	第2群B類	口縁－入組三叉文	LR		87T・18-1	図版15-1
524	(深)鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		87T・15	図版15-1
525	鉢	第2群A類	口唇－刻目、口縁－S字状文・平行沈線間に短沈線	LR		87T・17	図版15-1
526	注口	第2群	胴－沈線		外面－黒色研磨	87T・18-4	図版15-1

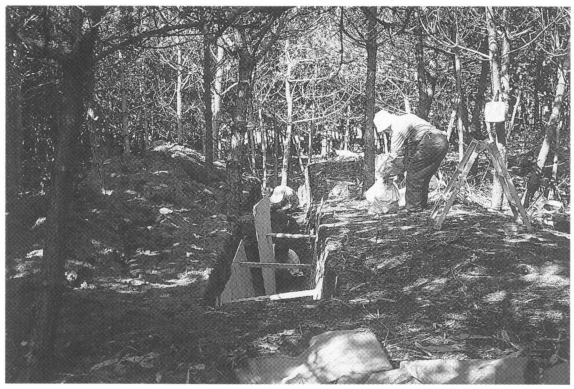
第４表 五月女菟遺跡　石器観察表

番号	地点	層位	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石質	重量(g)	備考	写真図版
1	1トレンチ	撹乱	石鏃	1.99	0.47	0.19	頁岩	2.13		図版28-1
2		撹乱	石鏃	1.23	0.56	0.24	頁岩	2.26		
3		撹乱	石鏃	1.29	0.62	0.15	頁岩	1.74		
4		撹乱	石鏃	1.37	0.76	0.12	頁岩	2.19	上半分欠損	
5		撹乱	石鏃	1.11	0.46	0.22	頁岩	1.93		
6		撹乱	石鏃	1.19	0.37	0.18	頁岩	1.42		
7		撹乱	石鏃	0.95	0.25	0.13	頁岩	0.47		
8		撹乱	石鏃	1.1	0.61	0.22	頁岩	2.01		
9		撹乱	石鏃	1.07	0.44	0.21	玉髄	1.69		
10		撹乱	石鏃	1.36	0.6	0.21	頁岩	2.95		
11		撹乱	石鏃未製品	1.97	0.96	0.38	頁岩	11.03		図版28-2
12		撹乱	石鏃未製品	1.63	0.75	0.45	頁岩	8.84		
13		撹乱	石鏃未製品	1.45	1.01	0.35	頁岩	8.26		
14		撹乱	石鏃未製品	1.24	0.61	0.23	頁岩	2.85		
15		撹乱	石鏃未製品	1.38	0.75	0.29	頁岩	4.81		
16		撹乱	石鏃未製品	1.57	0.57	0.41	頁岩	5.75		
17		撹乱	石錐	1.84	0.24	0.18	玉髄	1.59		
18		撹乱	石錐	1.84	0.61	0.27	頁岩	2.97		
19		撹乱	石錐	1.21	1.02	0.31	頁岩	5.27		
20		撹乱	石篦	2.35	1.42	0.47	頁岩	21.93		図版29-1
21		撹乱	石篦	1.59	0.85	0.32	頁岩	7.15		
22		撹乱	石篦	1.2	1.12	0.31	頁岩	7.14	上部欠損	
23		撹乱	石匙	2.07	1.47	0.31	頁岩	13.84		図版29-2
24		撹乱	石匙	2.03	1.37	0.26	頁岩	11.07		
25		撹乱	石匙	1.16	1.1	0.22	頁岩	3.98		
26		撹乱	石匙	1.09	1.28	0.39	頁岩	8.2		
27		撹乱	石匙	2.15	2.37	0.43	頁岩	33.04		
28		撹乱	石匙	1.93	1.91	0.34	頁岩	14.05	下部欠損	
29		撹乱	スクレイパー類	3.96	1.29	0.45	頁岩	40		図版30-1
30		撹乱	スクレイパー類	3.35	2.48	0.52	頁岩	68.92		
31		撹乱	スクレイパー類	2.87	0.74	0.29	頁岩	11.36		
32		撹乱	スクレイパー類	2.42	1.3	0.4	頁岩	13.72		
33		撹乱	磨製石斧	1.62	0.81	0.36	緑色凝灰岩	15.51		
34		撹乱	石棒	3.81	1.04	0.78	粘板岩	65.48		
35		撹乱	砥石	1.91	1.66	0.48	砂岩	29.49	有溝砥石	
36		撹乱	敲石	3.31	2.34	0.89	泥岩	159.33		図版30-3
37		撹乱	敲石	3.85	3.42	2.66	安山岩	800		図版30-2
38	2トレンチ	砂面	石鏃	1.43	0.44	0.19	頁岩	1.76		図版28-1
39		黒色面	石鏃未製品	1.43	0.7	0.48	頁岩	6.05		図版28-2
40		砂面	石匙	1.89	0.92	0.32	頁岩	9.54		図版29-2
41		黒色直上砂	磨製石斧	1.84	1.99	0.98	緑色凝灰岩	92.66		図版30-1
42		サブトレンチ②	石鏃	1.27	0.69	0.2	頁岩	1.57		図版28-1
43		サブトレンチ②	石錐	1.93	0.36	0.27	頁岩	3.8		図版28-2
44		撹乱	石鏃	0.86	0.44	0.12	頁岩	0.96		図版28-1
45		撹乱	石鏃	2.35	0.56	0.27	頁岩	3.59		
46		撹乱	石鏃	2.12	0.55	0.23	頁岩	3.58		
47		撹乱	石鏃	1.65	0.49	0.24	頁岩	2.53	上部欠損	
48		撹乱	石鏃	0.97	0.35	0.15	頁岩	0.81	下半部欠損	
49		撹乱	石篦	1.84	0.86	0.32	頁岩	7.16		図版29-1
50		撹乱	石匙	1.58	2.46	0.45	頁岩	15.96		図版29-2
51		撹乱	石匙	1.25	1.93	0.26	玉髄	8.24		図版29-2
52		撹乱	敲石	2.89	2.86	1.38	泥岩	273.22		図版30-3
53	4トレンチ	サブトレンチ②	石鏃	1.1	0.62	0.14	頁岩	1.37	先端部欠損	図版28-1
54		サブトレンチ②	石鏃未製品	1.61	1.11	0.31	頁岩	6.5		図版28-2
55		撹乱	石匙	0.95	0.76	0.22	玉髄	2.08		図版29-2
56		撹乱	石鏃	1.22	0.59	0.21	頁岩	1.89		図版28-1
57		撹乱	石錐	1.28	0.85	0.29	頁岩	4.49		図版28-2
58		撹乱	石鏃	0.85	0.48	0.17	頁岩	0.93		図版28-1
59		撹乱	石鏃	0.88	0.48	0.17	玉髄	1.08	先端部欠損	
60		撹乱	石鏃	0.68	0.46	0.12	玉髄	0.46	上半部欠損	
61		撹乱	石鏃	1.09	0.32	0.2	チャート	1.21		
62		撹乱	石鏃	1.23	0.79	0.31	頁岩	4.1		
63	5トレンチ	不明	石鏃未製品	1.59	0.63	0.59	頁岩	7.38		図版28-2
64		不明	石錐	2.07	0.9	0.47	頁岩	7.32		
65	6トレンチ	砂面	石篦	1.23	0.73	0.36	頁岩	5.98	下半部欠損	図版29-1
66	8トレンチ	砂面	石匙	1.05	1.01	0.44	頁岩	6.86	上部欠損	
67		砂面	石篦	1.61	0.88	0.36	頁岩	6.85		
68		砂面	スクレイパー類	3.14	2.29	0.29	頁岩	42.45		図版30-1
69	9トレンチ	砂面	石鏃	1.2	0.52	0.24	頁岩	2.28		図版28-1
70		砂面	石鏃	1.54	0.45	0.31	頁岩	3.57		
71	23トレンチ	黒色直上砂	石鏃	1.05	0.69	0.18	頁岩	2.69		
72	24トレンチ	黒色③層中	石鏃	1.6	0.47	0.17	頁岩	1.62		
73	25トレンチ	黒色面	石鏃	1.18	0.39	0.12	頁岩	1.15		
74		黒色面	石鏃	1.14	0.38	0.19	頁岩	1.46		
75		地点不明	石篦	2.67	1.2	0.41	頁岩	18.7		図版29-1
76	28トレンチ	黒色①面	石鏃	0.81	0.35	0.12	頁岩	0.51	上部欠損	図版28-1
77	31トレンチ	地点不明	石篦	1.1	1	0.22	玉髄	3.89		図版29-1
78		黒色③層中	敲石	3.83	3.04	2.7	安山岩	800		図版30-2
79	85トレンチ	黒色面	石匙	1.91	0.68	0.15	頁岩	4.3		図版29-2

写真図版

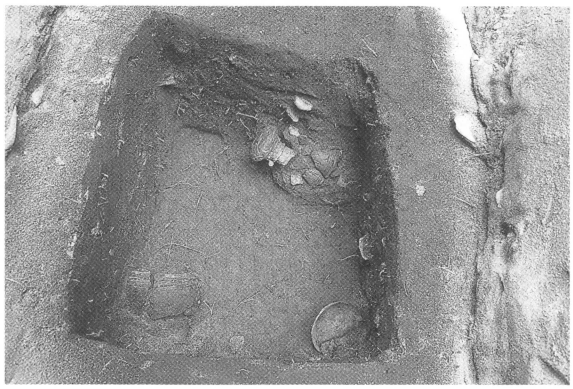
1．　1ー①トレンチ　検出状況(南東から)

2．　1ー①トレンチ　遺物出土状況(東から)



3．　1ー①トレンチ　調査風景

4．　2トレンチ　検出状況(西から)



5．　2トレンチ　サブトレンチNo.2　遺物出土状況(東から)

6．　2トレンチ　サブトレンチNo.2　広口壷出土状況(東から)

7．　4トレンチ　検出状況(北西から)

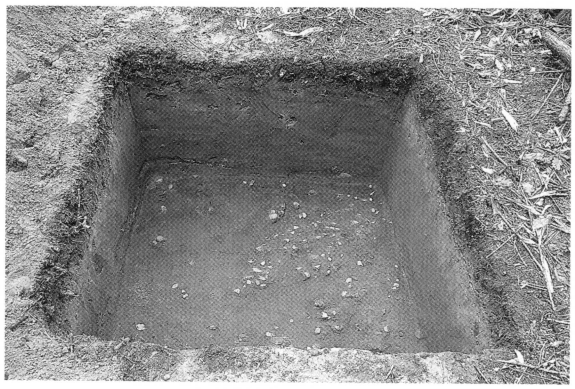
8．　4トレンチ　サブトレンチ　遺物出土状況(南西から)

1．5トレンチ　検出状況(北から)

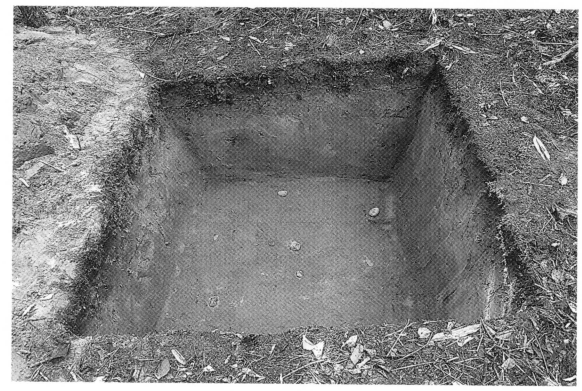
2．6トレンチ　検出状況(南から)

3．7トレンチ　検出状況(南から)

4．8トレンチ　検出状況(南から)

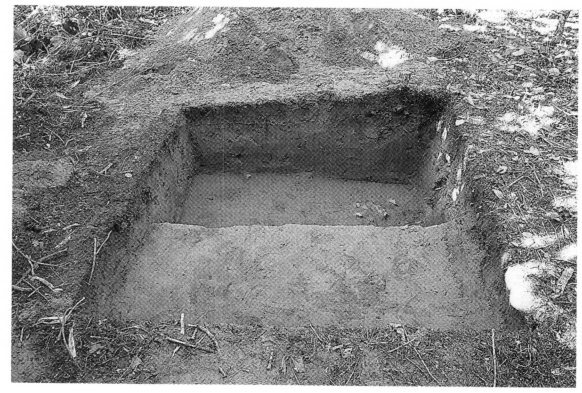


1．　9トレンチ　検出状況(東から)

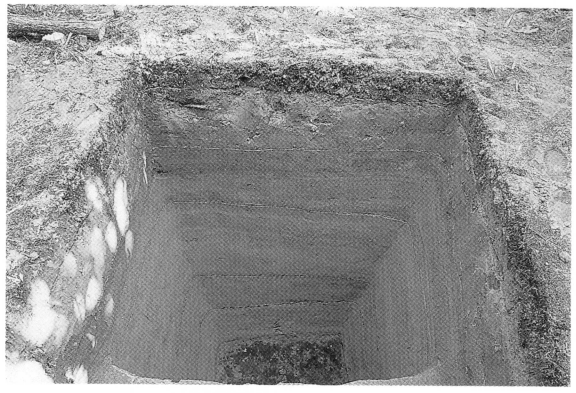


2．　10トレンチ　検出状況(東から)

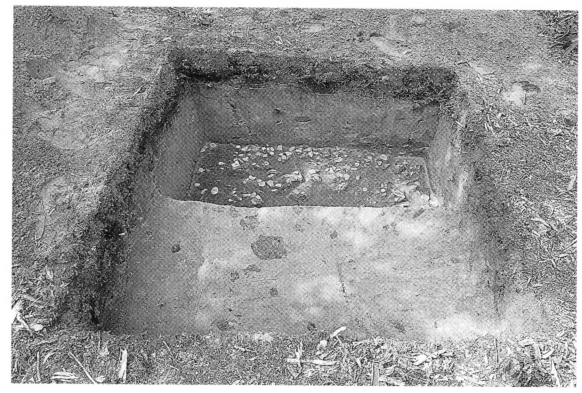
3．　11トレンチ　検出状況(東から)



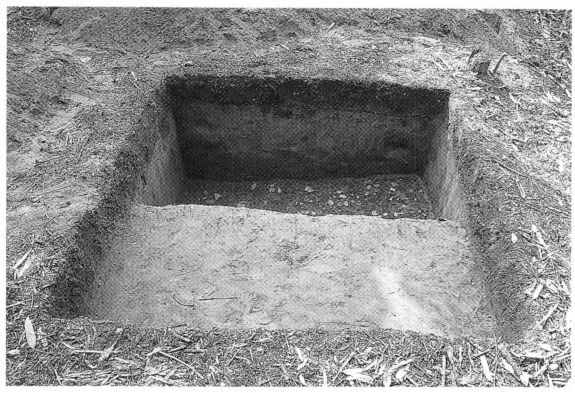
4．　12トレンチ　検出状況(東から)



5．　17トレンチ　断面層位(北から)



6．　22トレンチ　検出状況(東から)



7．　23トレンチ　黒色土層面上(1回目)の検出状況(東から)

7．　23トレンチ　黒色土層面上(2回目)の検出状況(東から)

1．24トレンチ拡張区　検出状況(北西から)

2．24トレンチ拡張区　カクラン除去後(黒色ⅡC層)の検出状況(東から)

3．24トレンチ拡張区　カクラン除去後(黒色ⅡC層)の検出状況(南東から)

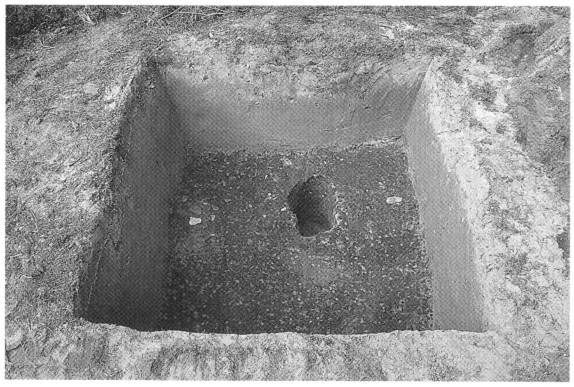
4．24トレンチ拡張区　ヤマトシジミの貝層ブロックと層位

5．24トレンチ拡張区　カクラン除去後(黒色ⅡC層)の遺物出土状況(北から)

6．25トレンチ　断面層位(西から)

7．25トレンチ　遺物出土状況(東から)

8．25トレンチ　断面層位(西から)



1．28トレンチ　検出状況(南から)

2．28トレンチ　黒色土層中(北東隅)の遺物出土状況(南から)

3．31トレンチ　1回目検出状況(東から)

4．31トレンチ　2回目検出状況(東から)

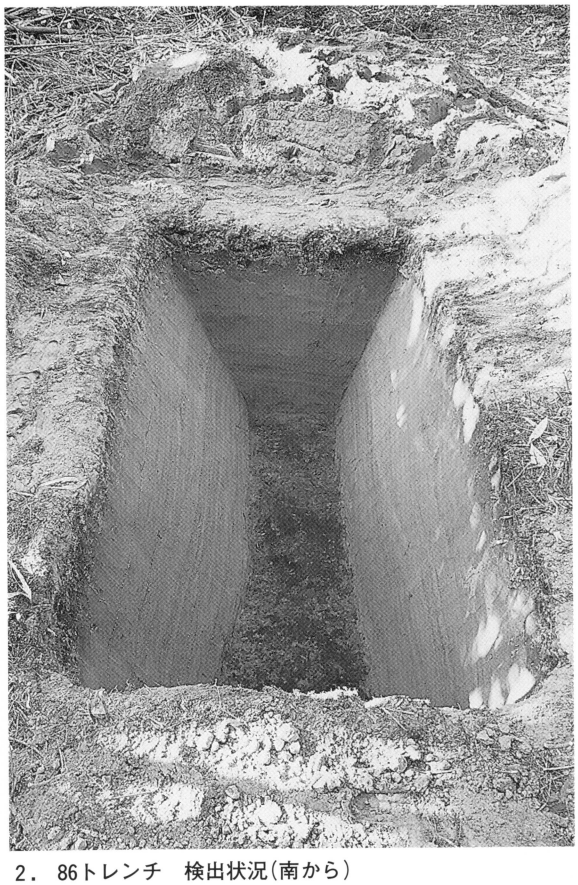
5．31トレンチ　3回目検出状況(東から)

6．31トレンチ　4回目検出状況(東から)

7．31トレンチ　5回目検出状況(東から)

8．84トレンチ　断面層位(南から)

1．85トレンチ　検出状況(南から)



2．86トレンチ　検出状況(南から)

3．87トレンチ　検出状況(南から)

4．87トレンチ　黒色土層と砂層の境界の段差(東から)

5．88トレンチ　断面層位(東から)